

東赤石山の岩峰と紅葉

金谷 昭

# 世界の山旅 辺境の旅

## 世界の山旅を手がけて33年目

—実績と体験に基づいた旅作り—  
「一人では行けない、でも、行きたい」  
アルパインツアーがお応えいたします。

### マウントロブソとシャドーレイク・ロッジ 9・10日間 <関空発着>

出発日 ●9/7 ●9/21  
¥430,000～¥475,000

### スイス・アルプス黄葉美の山上の村を 訪ねて 8日間 <関空発着>

出発日 ●9/17 ●9/24 ●10/17  
¥398,000～¥538,000

### 玉山と雪山、台湾の2座登頂 7日間 <関空発着>

出発日 ●9/16 ●9/22 ●10/2  
¥198,000～¥470,000

### 九寨溝と黄龍ハイキング 8日間

出発日 ●9/16 ¥248,000

### マレーシア最高峰 Mt. Kinabalu 登頂 6日間

出発日 ●9/18 ●9/21 ¥176,000～¥184,000

### ミャンマー山群ハイキング 氷河の 氷河紀行 8日間

出発日 ●9/19 ¥298,000

### チョモランマB.C.と中国・ネパール国境越え 13日間 10/8発 ¥620,000

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド  
上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでも  
お気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは  
国土交通大臣登録旅行業490号 / (社)日本旅行業協会正会員  
**アルパインツアーサービス株式会社**  
大阪支店 / 〒550-0004 大阪市西区朝本町1-10-22 (本町駅) 4階  
TEL: 06-6444-3033 / FAX: 06-6444-3032  
広島支店 / 〒730-0001 広島市南区本町1-10-22 (本町駅) 4階  
TEL: 082-542-1660

モンゴル南周回路を約1800km走る

### モンゴル 横断 15日間

旅行代金 ¥598,000

旅行期間 9/21(土)～10/5(土)

①成田→ウランバートル②→カラコルム③コーバネンコ④バヤンオグ⑤滞在⑥→ゴビアルタイ⑦→イリハルハーン⑧→ゴビアルタイ⑨→ホド⑩→フアンガ⑪→山麓⑫フアンガ⑬→UB 滞在⑭→バヤンオグ⑮→準備日⑯→ウランバートル⑰→ウランバートル滞在⑱→成田

### エベレスト・パノラマ・トレッキング 11・12日間 <関空発着>

出発日 ●9/29 ●10/6 ●10/20 ●10/27  
¥279,000～¥348,000

### アンナプルナ・ダウラギリ・ピスターリ トレッキング 11・13日間 <関空発着>

出発日 ●9/29 ●10/8 ●10/22 ●11/22  
¥268,000～¥348,000

### チベット、ドイツ、オーストリア3つの最高峰 展望と絶景の谷 9日間 <関空発着>

出発日 ●9/2 ¥470,000

### 海外トレッキング<特設説明会>

◆ネパール・ヒマラヤ・トレッキング説明会

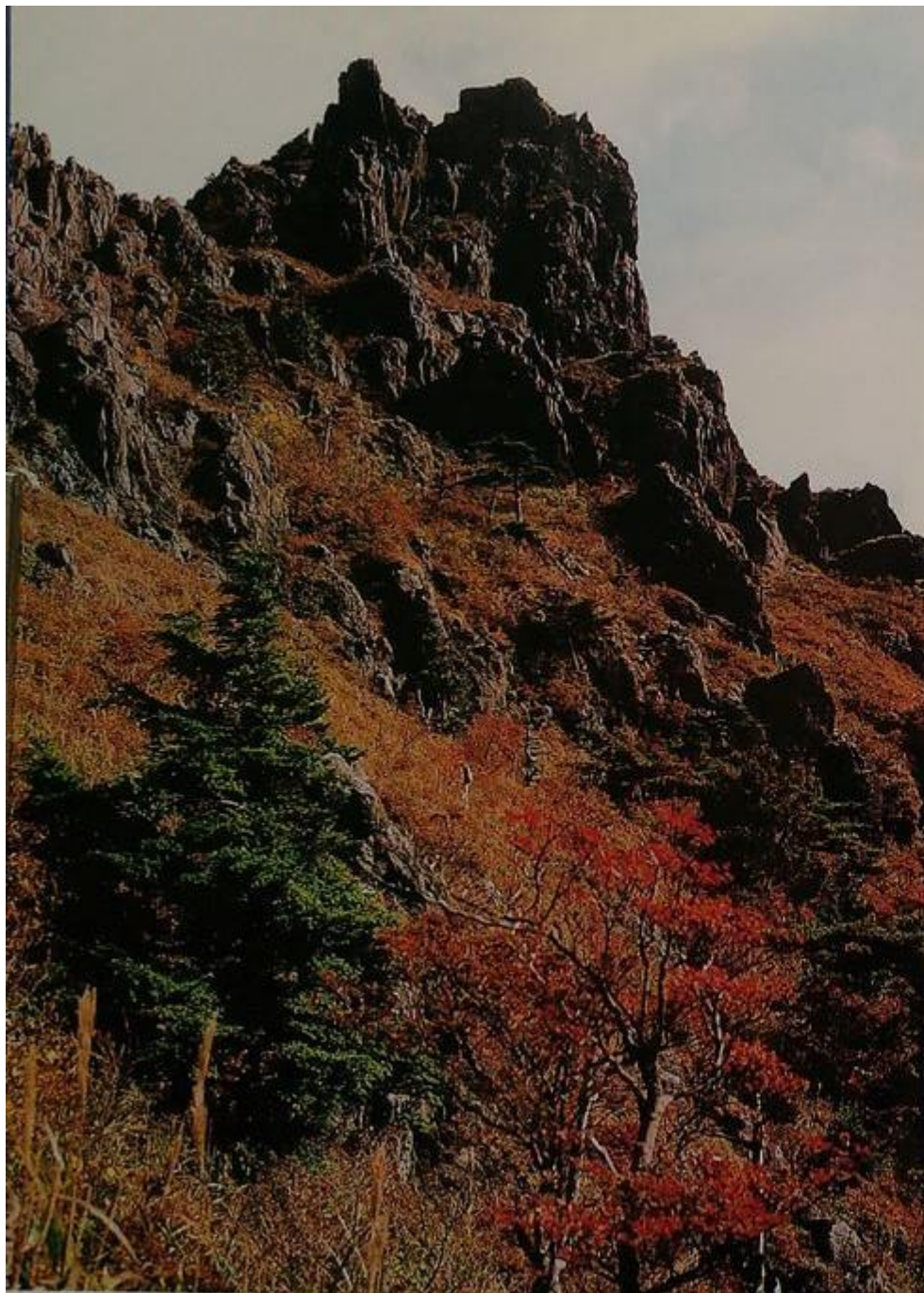
【9/3(火)・9/30(月)】

会場: 大阪科学技術センター4階  入場無料

時間: 昼の部 14:00 夜の部 18:30 各2時間  
(地下鉄 四つ橋線 本町駅下車・北へ徒歩5分)

### ご請求下さい!

アルパインツアー、総合  
ツアーカタログ。  
「世界の山旅・辺境の旅」  
秋～冬号。海外・国内の  
ハイキング・トレッキ  
登山コース満載!



東赤石山の岩峰と紅葉

金谷 昭

# 世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて33年目

——実績と体験に基づいた旅作り——  
「一人では行けない、でも、行きたい」  
アルパインツアーがお応えいたします。

モンゴル南周回路を約1800km走る

## モンゴル 横断 15日間

旅行代金 ¥598,000

旅行期間 9/21(土)~10/5(土)

①成田→ウラン→トム②→カラコル③→バキ  
ンゴ④バヤンホノ⑤滞在⑥→ゴビ⑦⑧→ホフ  
ド⑨→ファンバ⑩→ラフ⑪山麓⑫ファンバ⑬→ラフ  
BC 滞在⑭→バヤンホノ⑮予備日⑯→ウ  
ラン→トム⑰ウラン→トム滞在⑱→成田

### マウントロブソとシャドーレイク・ロッジ 9・10日間 <閑空発着>

出発日 ●9/7 ●9/21  
¥430,000~¥475,000

### エベレスト・パノラマ・トレッキング 11・12日間 <閑空発着>

出発日 ●9/29 ●10/6 ●10/20 ●10/27  
¥279,000~¥348,000

### スイス・アルプス黄葉美の山上の村を 訪ねて 8日間 <閑空発着>

出発日 ●9/17 ●9/24 ●10/17  
¥398,000~¥538,000

### アンナプルナ・ダウラギリ・ピスターリ トレッキング 11・13日間 <閑空発着>

出発日 ●9/29 ●10/8 ●10/22 ●11/22  
¥268,000~¥348,000

### 玉山と雪山、台湾の2座登頂 7日間 <閑空発着>

出発日 ●9/16 ●9/22 ●10/2  
¥198,000~¥470,000

### 和歌山、ドイツ、オーストリア3つの最高峰 展望と絶景の谷 9日間 <閑空発着>

出発日 ●9/2 ¥470,000

### 九寨溝と黄龍ハイキング 8日間

出発日 ●9/16 ¥248,000

### 海外トレッキング<特設説明会>

◆ネパール・ヒマラヤ・トレッキング説明会  
【9/3(火)・9/30(月)】

### マレーシア最高峰 Mt. 神が 登頂 6日間

出発日 ●9/18 ●9/21 ¥176,000~¥184,000

会場：大阪科学技術センター4階  入場無料  
時間：昼の部 14:00 夜の部 18:30 各2時間  
(地下鉄 四つ橋線 本町駅下車・北へ徒歩5分)

### ミニヤン山群ハイキング氷河パノラマ紀行 8日間

出発日 ●9/19 ¥298,000

### 出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド 上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでも お気軽にご相談ください。

チョモランマB、Cと中国・ネパール国境越え 13日間 10/8発 ¥620,000

お問い合わせ・お申し込みは

国土交通大臣登録旅行業490号/(社)日本旅行業協会正会員

## アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店/〒550-0004 大阪市西区朝本町1-10-22 (本町4丁目4階)  
TEL: 06-6444-3033/FAX: 06-6444-3032  
広島支店/〒730-0001 広島市南区紙屋町1-1-1 (広島駅西口徒歩5分)  
広島支店/〒730-0001 広島市南区紙屋町1-1-1 (広島駅西口徒歩5分)  
広島支店/〒730-0001 広島市南区紙屋町1-1-1 (広島駅西口徒歩5分)  
広島支店/〒730-0001 広島市南区紙屋町1-1-1 (広島駅西口徒歩5分)

ご請求下さい!

アルパインツアー、総合  
ツアーカタログ。  
「世界の山旅・辺境の旅」  
秋~冬号。海外・国内の  
ハイキング・トレッキン  
登山コース満載!



東大寺裏参道

お彼岸万燈会 9月23日(祝)  
俳句や川柳が墨書された行灯  
詣でる人々の祈りを照らし出す  
薫香の漂う「生駒聖天さん」  
奥の院へ燈火が帯のように連なる  
幽玄の灯りで彩られた万燈の灯  
夕暮れの光と献灯の明かり  
美しい炎 幻想的な雰囲気が漂う  
采女まつり 中秋の頃  
身を投げた采女を慰めるまつり  
つややかな熱気をおびる猿沢の池  
夜7時 竜頭鱗首の船が滑り出す  
秋草の花扇を背に十二単の花使  
篝火に照らされて浮かび上がる  
空には中秋の名月が顔を覗かせる

采女祭(猿沢池畔)



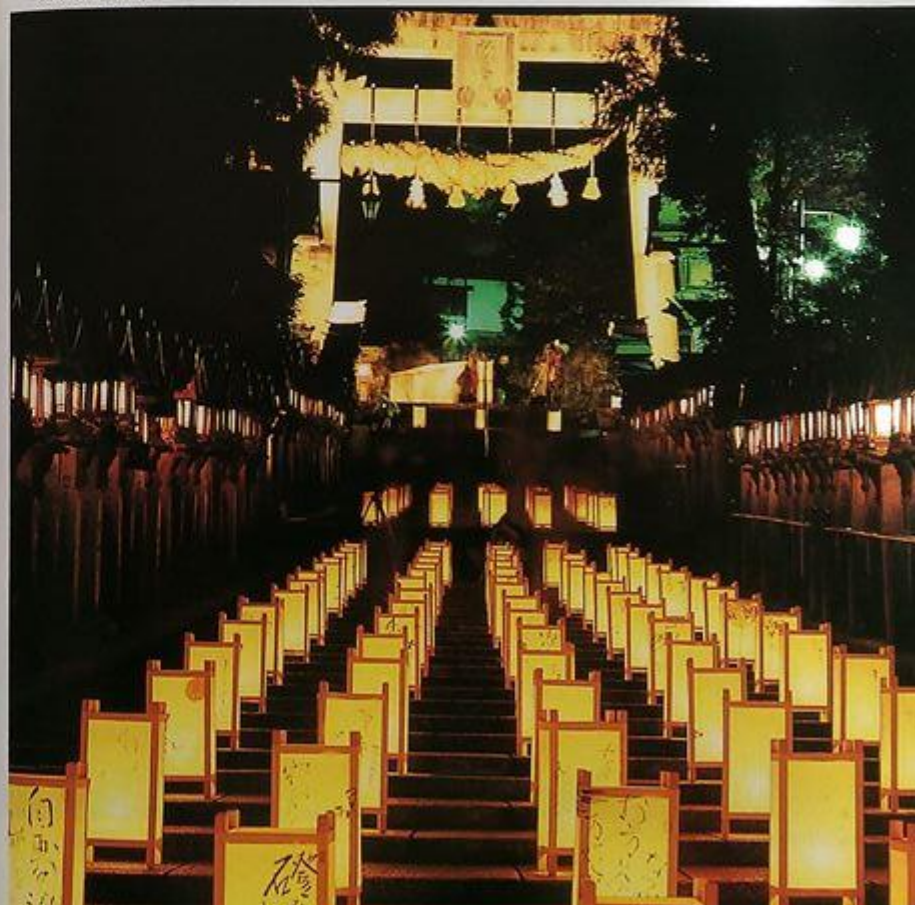
Photo essay

# お彼岸



題字 中田 蘭石  
撮影 由井 収一  
文 松 永 恵一

お彼岸万燈会 (宝山寺)



# 季節の



トリカブト



案山子

棚田の秋



# 実景

明日香

初秋

撮影 武市通治



ツリフネソウ

秋日和





瀬沢から午後の前穂（北アルプス） 中川 光郎

瀬沢の紅葉（北アルプス） 中川 光郎



屏風岩を背に瀬沢へ（北アルプス） 三浦 弘幸

上高地から前穂新雪（北アルプス） 吉沢 栄一

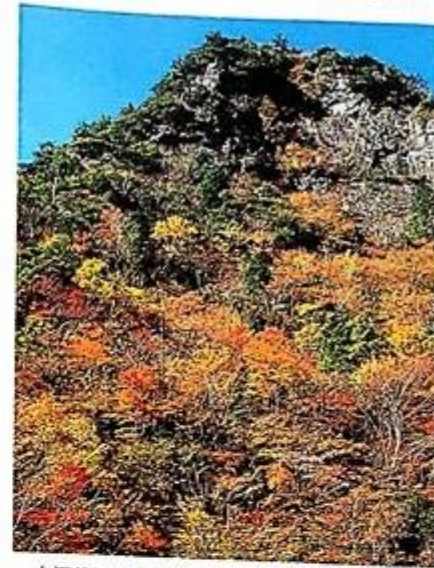


# 川迫川 (大峰) 紅葉

奥田 英一郎



一の坪付近支尾根



小坪谷源流無名峰



釜滝 (神童子谷) 測の流落ち葉

別冊 関西の山  
新伴 9  
02年 9・10月 初秋 第66号

## ●目次

表紙：松田敏男「青巖山より赤石山を望む」(南アルプス)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳探検、山岳部の編集多岐活躍。京都平安通商、南アルプス伝水小屋、東京ギャラリー(西号、他) 京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

●クラビオ	お彼岸……………撮影 由井 収 文 松永 恵一	4
(口絵) 金谷 昭 三浦弘幸 吉沢栄一 中川光郎 奥田英一郎	季節の実景(初秋)「ツリフネツツ」他：武市 通治	2
●紀行	秋遊福と不動山(奥美濃)……………奥田英一郎	13
御嶽山(木登)……………宮脇 慎典	14	
向島・若子島・佐木島・因島(瀬戸内)……………多摩 守康	18	
当尾から奈良坂へ(谷中)……………雪雄 雪雄	24	
●連載	標高による山の紹介シリーズ 6 △△666の山	28
鎌ヶ先・栗嶽・栗ノ木岳……………木村 太郎	24	
宿禰山(山登)……………松田 敏男	32	
●連載	三角点を訪ねて⑤	34
奥伊吹の山、ブンゲンへ(湖北)……………生駒 登峰	32	
●旗振り通信の研究⑩	議部 純	46
三木・社ルート……………柴田 昭彦	38	
●1等三角点峰(500以上) 548座完全の記録(第33回)	坂井 久光	53
山形氏と東北・北陸地方への山旅……………中村 敏文	50	
●父鬼街道と拾原越(紀勢)……………中村 敏文	50	
●文学歴史探訪ハイク⑩	松永 恵一	56
●織通神社に祀る之を訪ねて(京南)……………西尾 寿一	56	
●(山のレポート) 山の地名を歩く⑤ 長と丈と岳……………西尾 寿一	56	
●コース	古長 清司	62
●ガイド	長岡 慶二	64
① 芹川ダムと鞍掛山(湖東)……………西尾 寿一	64	
② 栗駒山(後志)……………西尾 寿一	66	
③ 阿蘇陀ヶ峰(後志)……………西尾 寿一	66	
④ 富岡山と唐母山(信濃)……………山形 歳之	68	
⑤ 下辻山(大峰)……………山形 歳之	68	
⑥ 衣掛林道から日本コバ(後志)……………金谷 昭	70	
沿線ハイキングガイド……………79	79	
サービスメニュー……………76	76	
せせらぎ……………79	79	
新ハイキング関西(代巻) 村田 賢俊	112	
バス時刻表(鈴鹿山系)……………110	110	
編集後記・広告案内……………85	85	

## 巻頭言

神武景氣といわれたバブルがはじけてもう何年になるでしょう。今は景気が悪いけれど、やがてまた、あのときのように景気がよくなると期待する人が多いようですが、果たして景気は回復するのでしょうか。私は、あのとき的好景氣こそが異常で、今が日本経済の本来的姿であるような気がします。

資源の少ない農耕民族の日本人が経済大国になり、みなが発達に暮らせたことがあの一時期を除き、今までにあったでしょうか。あのとき、日本人はそれまで培ってきた堅実で質素な生活を忘れ、大人から子どもまでがお金が頼りの生活におぼれてしまったようです。より便利で簡単で楽がしたいと、努力することや汗を流すのを嫌い、お金でそれらを手に入れようとなりました。

質素な暮らしを当たり前と思い、お金に頼らないで頭や身体を使い、汗して努力してみよう。きつとお金には換えられない生き方や喜びが発見できると思います。

汗をかきながら一歩一歩山頂に近づいていくなか喜びを感じる、まさにそれが山登りの醍醐味です。

新ハイキング関西(代巻) 村田 賢俊



### 〈山からの便り〉 小笹の宿の怪？

奥田英一郎

久しぶりに、また、たわいのない話をします。

ある初夏のことです。日と2人で、夜行をかけて天川村川合から大峰の弥山に登りました。緑の美しい季節だったので、夜の山は何の彩りもありませんが、しかし、昼間とはまた違った趣があって、けっこう楽しいものでした。

特に夜にだけ鳴く野鳥が印象的でした。キヨッ、キヨッ、キヨッ、キヨッ、キヨッ、キヨッ、キヨッ、つんざくようにかん高く鳴き続けるヨタカ。また、ヒイーン、ヒイーン、ヒイーンと、闇夜に低く長く口笛を吹くように響くトラツグミの声などは、どこか意地悪く、人間をあざけてでもいるよう

で、不気味なものでした。しかし、長くて暗い夜も東の空がわずかに白んでくると、どこからともなく野鳥の鳴き声が起こり、湧き上がるような囁りの大合唱となったのです。それは実に賑やかなものでした。

ひとしきりそれが続いたあと東の空が明るくなり、やがて青空がまぶしくなると、あのすさまじかった野鳥の囁りがぱたりとやんでしまったのです。緑濃い山々が蘇り、静寂のなかでウグイスだけが、時々遠くで鳴くくらいでした。

オオカメ平で清々しい冷たい水で顔を洗ったあと、トウヒとシラベの純林の間を朝露に濡れながら歩き、弥山の小屋に着きました。国見八方殿からは遠く遙かに台高山並が、近くには険しい大普賢岳・小普賢岳が小さなコブのように望まれました。

草地でゆっくり朝食をとった

あと、八経ヶ岳まで行き、山頂から紫紺に沈む雨紀の山々の遠望を楽しんだあと、釈迦岳まで行くという日と別れ、それぞれに単独行動となりました。

1人で弥山に引き返し、大峰北部の山々を縦走して北上しました。一の坪付近では爽やかなブナ林の木もれ陽を浴び、竹筒を叩くように鳴くツツドリの声をのどかに聞きながら、快適に歩きました。

行者、彌山の小屋で少し横になり、無双洞への下り道をやり過し、七曜岳あたりからは特異な形ですぐわかる稲村ヶ岳を遠望し、和佐又への下り道もやり過し、再び気持ちのよい小ササの道を、また彩り豊かな初夏の山を堪能しながら歩き続けました。

単独行は気ままなもので、伯母谷から柏木へくだって、その日のうちに帰るのか。それとも、山上ヶ岳あたりでもう



### 随想 (山のエッセイ)

一泊するのでもいいなあと思いつつも、つい柏木への道もくんだりそびれてしまうと、疲れも出てきたせいもあるか、歩く速度もしだいに鈍りました。

山上ヶ岳の宿坊では行者さんたちが多くかもしれない。かといって稲村の小屋までは少し遠いし、などと思いつながら、小笹の宿まで来て、冷たい流れの水を飲んで、少し休んでいると、そうさ！、ここにはいい水があるし、それに横になるのにかっこうの詰所がある。少し陰気な感じがしないでもないが、せいしくは言うまい！と、ザックを下ろしたのです。

大樹が繁っている薄暗い周辺には卒塔婆が立ち並び、理源大師と役ノ行者をまつた小堂がある。貴、いくつかの僧坊があったというだけに、どこか修験道場の雰囲気も漂っている所でした。

いつの間にか暗くなり、残り

のパンにスブレッドとサラダの缶詰などで簡単な夕食を終えると、別にこれといってすることもなく、ちよっと横になって、ひょっこりと人が現れるのです。白いカッターシャツに地下足袋を履いた姿は、山仕事をしている人のようでした。初老の男性は覗き込むようにして「ひとりですか。火に気を付けてくださいいね」と言っただけで、もうすっかり暗くなったなかをさっさと南を指して、明かりもつけずに見えなくなりました。

どこから来てどこへ行くのか知らないが、もっとも近い山里の柏木までも、これからまだ2、3時間はかかるだろうに、とちよっといふかったのです。

そんなことも、あまり気に留めるようなこともない、と夏用シュラフをかぶって再び横になったのです。が、前夜から歩きための疲れのせい、か、すぐに眠ってしまったのですが、小さ

な水の流れる音がやたらと耳について、何度も目を覚ました。時には水音が人が喋っているように聞こえてくることなどは、谷間で露営するときはしばしば経験することで、特に気にも留まなかったのです。

ところが、やはり、夜更けに人が話している声が耳について、ふと目を覚ましたのです。初めは、同じように夜行をかけて歩く人がいるのかと思ったのですが、話し声も歩く音も、はたとやんでしまったのです。やっぱり谷間のあれかもしれないと、そのまままた、寝入ってしまったのです。

それから、どれくらい眠ったのでしようか、こんどはかなりの数の人たちが、さわめいているのが聞こえてきたのです。はっと目が覚めて耳を澄ますと、不思議なことに寝経の音ははたとやんで、あとは軽やかに流れ



## 随想 (山のエッセイ)

一泊するの面白いなあと思いつつも、つい柏木への道もくんだりそびれてしまつと、疲れも出てきたせいもあってか、歩く速度もしだいに鈍りだしました。

山上ヶ岳の宿坊では行者さんたちが多くかもしれない。かといつて稲村の小屋までは少し遠いし、などと思ひながら、小笹の宿まで来て、冷たい流れの水を飲んで、少し休んでいると、そうだ！ ここにはいい水があるし、それに横になるのにかっこうの詰所がある。少し陰気な感じがしないでもないが、ぜいたくは言うまい！ と、ザックを下ろしたのです。

大樹が繁っている薄暗い周辺には卒塔婆が立ち並び、理源大師と役ノ行者をまつた小堂がある。昔、いくつかの僧坊があったというだけに、どこか修験道場の雰囲気も漂っている所でした。

いつの間にか暗くなり、残り

のパンにスブレッドとサラダの缶詰などで簡単な夕食を終え、と、別にこれといつてすることもなく、ちょっと横になつていると、ひょっこりと人が現れたのです。白いカッターシャツに地下足袋を履いた姿は、山仕事をしている人のようでした。初老の男性は覗き込むようにして、「ひとりですか。火に気を付けてくださいネ」と言っただけで、もうすっかり暗くなつたなかをさっさと南を指して、明かりもつけずに見えなくなりました。どこから来てどこへ行くのか知らないが、もっとも近い山里の柏木までも、これからまだ2、3時間かかるだろうに、とちよといふかたのです。

そんなことも、あまり気に留めるようなこともない、と夏用シュラフをかぶって再び横になったのです。が、前夜から歩きつめの疲れのせいにか、すぐに眠ってしまったのですが、小さ

な水の流れる音がやたらと耳について、何度も目を覚まししました。時には水音が人が喋っているように聞こえてくることなどは、谷間で露営するときはしばしば経験すること、特に気にも留めなかったのです。

ところが、やはり、夜更けに人が話している声が耳について、ふと目を覚ましたのです。初めは、同じように夜行をかけて歩く人がいるのかと思つたのですが、話し声も歩く音も、はたとやんでしまつたのです。やっぱり谷間のあれかもしれないと、そのまままた、寝入ってしまったのです。

それから、どれくらい眠つたのでしょうか、こんどはかなりの数の人たちが、ざわめいている気がして、そのうちに動行の音が聞こえてきたのです。はつと目が覚めて耳を澄ますと、不思議なことに読経の音ははたとやんで、あとは軽やかに流れ



## 「山からの便り」 小笹の宿の怪？

奥田英一郎

久しぶりに、また、たわいのない話をします。

ある初夏のことです。日と2人で、夜行をかけて天川村川合から大峰の弥山に登りましたが、緑の美しい季節だったので、夜の山は何の彩りもありません。しかし、昼間とはまた違った趣があつて、けっこう楽しいものでした。

特に夜にだけ鳴く野鳥が印象的でした。キョツ、キョツ、キョツ、キョツ、キョツと、つんざくようにかん高く鳴き続けるヨタカ。また、ヒイッ、ヒイッ、ヒイッ、ヒイッと、闇夜に低く長く口笛を吹くように響くトラツグミの声などは、どこか意地悪く、人間をあざけてでもいるよう

で、不気味なものでした。しかし、長くて暗い夜も東の空がわずかに白んでくると、どこからともなく野鳥の鳴き声が起こり、湧き上がるような囁りの大合唱となつたのです。それは実に賑やかなものでした。ひとしきりそれが続いたあと東の空が明るくなり、やがて青空がまぶしくなると、あのすさまじかつた野鳥の囁りがぱたりとやんでしまつたのです。緑濃い山々が蘇り、静寂のなかでウグイスだけが、時々遠くで鳴くくらいでした。

オオカメ平で清々しい冷たい水で顔を洗つたあと、トウヒとシラベの純林の間を朝露に濡れながら歩き、弥山の小屋に着きました。国見八方院からは遠く通かに台高の山並が、近くには険しい大普賢岳・小普賢岳が小さなコブのように望まれました。

草地でゆっくり朝食をとつた

あと、八経ヶ岳まで行き、山頂から紫紺に沈む南紀の山々の遠望を楽しんだあと、釈迦岳まで行くという日と別れ、それぞれに単独行動となりました。

1人で弥山に引き返し、大峰北部の山々を縦走して北上しました。一の坪付近では爽やかなブナ林の木もれ陽を浴び、竹筒を叩くように鳴くツツドリをのどかに聞きながら、快適に歩きました。

行者選岳の小屋で少し横になり、無双洞への下り道をやり過ごし、七曜岳あたりからは特異な形ですぐわかる稲村ヶ岳を遠望し、和佐又への下り道もやり過ごし、再び気持ちのよい小ササの道を、また彩り豊かな初夏の山を堪能しながら歩き続けました。

単独行は気ままなもので、伯母谷岨から柏木へくだって、その日のうちに帰ろうか。それとも、山上ヶ岳あたりでもう





随想 (山のエッセイ)

石庭から  
大谷山に登って

山本 久雄

5月26日、夏を思わせるような日差しの中、マキノ町石庭から大谷山へ登る新ハイの例会に参加した。

このルートは今まで紹介された記憶はなく、地図とコンパスが友だちだ。

石庭から尾根に取りつく所が多少わかりにくい、いったん取りついてしまえばよく踏み込まれた古い道が続いていた。通称石庭坂というそうだ。

稜線が近づくとルートは意外にも大谷山へと続く尾根からはずれ、浅い谷の源頭をトラバースして行く。このあたりは清流と新緑のブナ林が森のシンフォニーを奏でているようだ。

ルートはさらに西北へと続き、

約8177呎の北のコルへ飛び出した。

ここから稜線まではかつては深いヤブであったが、近年切り開かれて楽に歩けるようになった。稜線には高層のブナナードコースが大谷山、寒風山、赤坂山、三國山を越えて続く。

赤坂山の頂上からは、取りつき地点も見当つかない庄部谷山(?)が、日本海を背景にその標高に似合わず堂々とそびえていて、「おいでおいで」をしていた。

登山を始めた頃、登りついた山頂から見える山々を眺め、「次はあの山にしよう」と決め、地図とにらめっこしていたことを思い出し、ついうれしくなってきた。

最近、団体で登山することが多いのだが、人の後をついて歩く、どこをどう歩いたのか定かでないことがある。

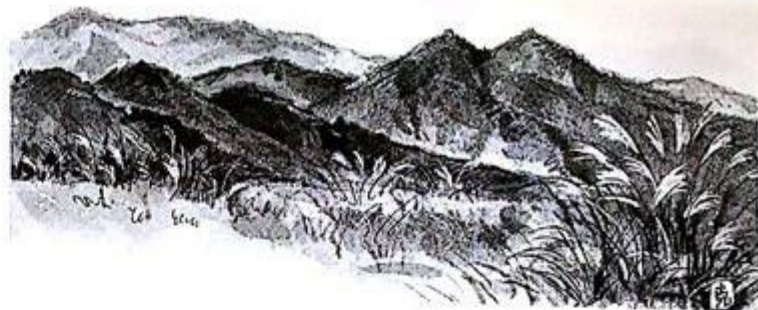
初めての山でも地図とコンパスさえあれば、夜空をゆく飛行機のように、大海原をゆく船のように、目標に向かって迷わずに歩けることが大切である。

最近の登山ブーム・秘境ブームには目を見張るものがあり、多くの出版物が書店に並び、情報が増えたと喜んでばかりはられない。

森林に立ち入ることは、その森林にはなかった外部環境を持ち込んでいること。山はどこでもだれかの所有であり、そこに立ち入っていることを知るべきである。

また、そこに棲息する動植物たちにとって、山は終生の住処である。

これらのことをわきまえて、今後も山登りを続け、自然を楽しまたいと思っている。



る水音だけが聞こえるのです。変だなと思いつつ、疲れ過ぎて神経が高ぶっていて夢でも見たのかと思つたのですが、それからは目が冴えて眠れなかつたようです。

まんじりともしないまま、夕暮れ時に明かりも持たずにひたひたと歩き去った柚人は、今頃、どこでどうしているのだろうかなどと不思議な浮かべながらも、何となく外の様子に気をとられていたのです。

すると、その時、ざぶざぶざぶと流れを渡ってくる音がしたのです。確かに、はっきりとだけれかが歩いて水の中をやってくる?と思つたのですが、目を開けた途端、気配も音もなくなったのです。

さすがに薄気味悪くなつて、それから眠らずに、ただひたすら夜明けを待っていました。夜が白みかけると早々に荷物を片づけて、食事もとらずに、ま

だ薄明かりのなかにぼんやりと佇む小堂や卒塔婆の立つ、どことなく気味悪い一夜の寝ぐらをとにしたのです。山上権現本堂前に着いたときも深い霧のなかでしたが、宿坊に泊まっていた行者さんたちの姿を見て、ホッとしました。

しかし、下りは行者さんたちと出会う洞川への道を選けて、山上迂を指してくだりました。ツツビー、ツツビーとか、ツツビ、ツツビとか囁る小鳥の声に聞き惚れながら樹林の美しい道を行くと、昨夜のことは嘘のようでした。

山上迂の小屋で赤井のオヤジさんに会って、ビールを飲みながら昨夜の話をすると、「夕暮れに会った人は上多古の人だろう。あの人は星明かりで夜道を歩ける」と言うのです。「それにしても、小生の宿なんかで、1人でよう寝たな。あそこは霊がさ迷うところや

デ。ひょっとしたら、霊たちは喋り合っている途中「にんげんが目覚めたようやデ、しばらく話をするのをやめようや」なんて言つたたんやデ」と、冗談とも真面目ともつかないことを笑いながら言うのでした。

朝食とも、昼食ともつかない前夜の残りのカレーをいただいた後、歩き馴れた道をくだったのでした。

水の流れをビチャビチャと渡っていたのは鹿だったのでしょか。たわいない話ですが、私にとつては不思議な体験でした。

道なきやぶ山を歩く

## 釈迦嶺と不動山

宮脇 慎典

奥美濃

### 釈迦嶺

福井の今庄から岐阜の藤橋に抜ける塚林道を目指す。昨年、笹ヶ峰に登った帰りに下見していたのだが、瀬戸から右折すべき所を前回と同様に直進してしまい、途中で引き返した。よく見ると瀬戸の曲がり角に「高倉峠」を示す小さな標識があった。人家の間の狭い道を通り抜け、川沿いを走る。左岸から右岸へ移り、運如上人の遺跡がある芋ヶ平に着く。

以前、この一帯は木地師が住んでいたそう。芋ヶ平の地名は彼らが常食としていた芋類を植えていたことに由来するという説や、「芋でなく鈔物師ヶ平から転訛したもので鈔物に関係している」と

いう話もある。

前回はここで通行止だったが、きょうの道路状況は問題ない。未舗装の狭い道だがよく整備されて、予想していたよりは走りやすい。やがて道は急な山腹を右に捲きながら高く上がっていく。稜線近くまで上がった所で突然舗装道路に変わると高倉峠に到着。広いスペースに石碑が立ち、福井県側の眺めがよい。

ここから岐阜県側に向かっていく。峠を越えると風景が変わり、正面に釈迦嶺、右手に笹ヶ峰に続く山々が見える。岐阜県側の道は傷みがひどく、落石が多い。右に左にカーブを下った所がウソ峠だ。

釈迦嶺より千回沢山を望む



このウソ峠で左右に分かれた道谷と赤谷が、釈迦嶺をぐるりと囲んで徳山の北で合流し、掛斐川の源流を形成している。同時に、このウソ峠で金草岳から笹ヶ峰へ続く主稜線とつながっている。以前この一帯が樹林におおわれていた頃、徳山側から道谷を溯って登りつめ、峠なのでもう越前側の谷におりていけるかと思っ

うことがあったそう。峠の名はそのような不思議な地形に由来している。立派な林道が出来、車が頻りに往来する現在ではそのような雰囲気は感じられない。準備を整え歩き始める。

釈迦嶺へは右手の林道に入る。930メートルピークを廻りこむと林道は急にやぶと化し、もはや林道の姿を留めていない。やぶのなかにかろうじて細い踏み跡がある。両手で雑草をかき分けて進むが、雑草は十分な水分を含んでおり、あつという間にずぶ濡れになる。左手の崖によじ登ると、笹ヶ峰から金草岳への主稜線と



釈迦嶺付近略図

ウソ峠一帯の地形が一望できた。進むにつれやぶが濃くなり、林道上でも迷いそうなほど、かつて林道であったことが信じられない荒れようだ。このようにしてやがては元の自然に還るのだろうか。改めて自然の力強さを感じる。

左手に廻り込みながら登って行くと、右手赤谷の向こうに千回沢山から不動山にかけて深い樹林におおわれた奥美濃最深部の山々が見える。そして行く手には釈迦嶺の山頂稜線が望まれる。正面の二つの谷の手前側の谷から取りつくことにする。

谷に入った所でテープを見つめる。谷をつめるか迷ったが、結局右手の尾根に取りつくことにする。滑りやすい急な斜面を腕力を頼りに登る。適当にやぶの薄い所を登っているとかすかな踏み跡に出た。やがて尾根はやせてきてちよっとした岩場を通過する。山頂稜線が近くなるとブナが現れ、傾斜がゆるやかになる。徐々に踏み跡が明瞭となり、それをたどると稜線に出た。なだらかな山頂稜線をたどり、釈迦嶺(1775m)山頂に到着した。

三角点と壊れた標識があった。灌木が

茂り眺めはよくないが、奥美濃の山らしい静かな山頂だ。木々の間から金草岳方面と笹ヶ峰が見える。

下りには変化を求めて北西へのびる尾根をくだることにする。登ってきた道を左に分け、しばらくは明瞭な踏み跡を行くが、やがて踏み跡は完全にやぶに消える。そして、灌木からネマガリタケのやぶに変わる。次第にその密集度は増し簡単に前に進めない。何回も足を取られながら少しずつ前進する。途中、鞍部に出て10分程度の湿地があった。湿地に足を踏み入れると意外にも靴が沈み気味が悪い。再びネマガリタケとの格闘が続く。尾根を忠実にくだらねばならないのはわかっていたが、つい楽な谷筋へと逃げてしまふ。気がつくと西側に大きくずれていた。今更登り返す気力もなくそのまま谷をくだる。次第に傾斜は急となり滑るようになってしまう。突然足元がほぼ垂直に切れ落ち崖に出たかと思っただけ、よく見ると林道跡であった。

ウソ峠に戻ると、道谷の向こうに冠山が望まれた。初秋の空にそのやや傾いた三角形が印象的だった。

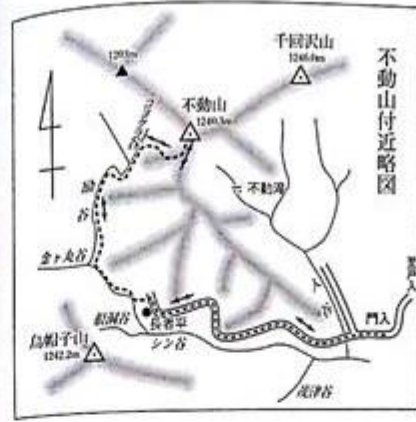
(平成13年9月1日歩く)



不動山より高丸(右)と烏帽子山を望む  
たネマガリタケと格闘しているなかでは、そういう気持ちにもなれない。視界がきかないなか、左に進路を変

え稜線を進む。あまりのやぶの厳しさと極端にペースが落ちる。いったん鞍部にくだり、最後の登りとなる。最高点と思われる木を目標にして、泳ぐようにしてようやくその木の下にたどり着いた。そこには赤布が下がっていたが、三角点はなかった。山頂付近にいたのは間違いないのだが、このやぶのなか、三角点を採るのは容易ではないと思いつつ、ガサゴソやっていると、やぶのなかで一ッ所だけ光が漏れている。その方向に進むと、ひょっこりやぶが払われた一角に飛び出し、中央に不動山(1240m)三角点があった。

山頂からは、蕎麦粒山、高丸方面がやぶの間からわずかに望まれる程度だが、登頂の満足感は大い。下りは方向を確認し、登りのルートを忠実に戻る。幸いきょうは晴れており、やぶのなかから垣間見る尾根に向かってくっついていけばよいと気楽にくっついてくっついていけばよいか北西の尾根をくだっていた。あわてて再び登り直す。やぶのなかから見る尾根の雰囲気はどことなく似ているためか、どこかで勘違いをしたようだ。やはりやぶ山の下りは要注意だ。



3時過ぎに起きる。空は華やかな冬の星座に変わっていた。いきなり目の覚めるような流星が南の空に消えていった。4時過ぎにライトを灯けて出発する。千回沢山へ向かう道から左折し、橋を渡って杉林のなかの林道を歩く。暗闇のなか、左手の水の音で堰堤横を通過しているのがわかる。ふと視野の隅に鋭い視線を感じた。右のやぶのなかから青白い二つの目がこちらを見ている。ライトを向けるとガサゴソとやぶのなかに消えた。後ろ姿はカモシカのようにだった。

登りの際につけた赤布を回収して谷にくだる。助谷では岩に濡れた足跡を見るが、最後までだれにも会わなかった。林道の崩壊地を乗り越す際に、足元にいた蛇に気をとられ、ふと前を見ると大きな犬が今にも噛みついてきそうな様相でこちらを睨んでいた。思わず身構え、岩の向こうで「こらっ」と人の声があった。秋の日の林道をのんびり歩く。門入では、一面銀色のススキが揺れるなか、秋の収穫を求めて多くの人で賑わっていた。昨夜とは違った廃村ののどかな雰囲気であった。

不動山  
崖崩れのため戸入で通行止となった。西谷林道の工事が終了したとの情報を得て、門入へ向かう。日没頃、門入着。きょうの門入は一台の車もなく人気もない。いつもの駐車地に置くとあたりはずっかり暗くなってきた。周囲の黒々とした木々の上には一番星が輝き始めてから、満天の星空に変わるまでは長くはなかった。頭上には真っ白な夏の銀河が浮かび上がる。街灯もない廃村に一人泊まるのは寂しいものだが、森本次男著「樹林の山旅」には、かつての「黄麩の村」の情景が描か

れている。そこには人々のどんな暮らしがあったのだろうか。そんなことを想像しているうちに、いつの間にか眠ってしまった。

再び林道を歩く。闇黒の道がかすかに明るくなった気がして振り返ると、東の空から細い月が昇ってきた。左手に茂津谷がぼんやり見える。いくつものカーブを進むと星空に黒々とした烏帽子山のシルエットが見えてきた。早春に登った烏帽子山の山頂から、この林道が見えていたことを思い出した。

(平成13年10月13日〜14日歩く)

▲コースタイム▼

- 【釈迦橋】ウツ峠(2時間10分) 釈迦橋(1時間40分) ウツ峠
- 【不動山】門入(2時間15分) 長者平入溪点(25分) 助谷出合(1時間) ゴヨクウ谷出合(2時間10分) 不動山(5時間30分) 門入

▲地形図▼  
2万5千1宅良・美濃徳山・広野

# 新ハイ例会・自然観察山行

## 御嶽山

### 鷺見守康

木曾

美濃地方に暮らす者にとって、御嶽山は伊吹山や恵那山と並び、日々の生活のなかでいつも眺めている、ごく身近な山である。この三つの山岳の中で御嶽が一番高く、高いがゆえにもっとも登りにくいはずなのだが、ドライブウェイの通じている伊吹は別にしても、恵那山に比べると、この御嶽に登ったことのある人は案外多いような気がする。ふだんは登山を趣味にしていない人でも「今年の夏は御嶽に登る」と宣言し、訓練のためか、一時バス通勤をやめて歩く人もいるくらいである。庶民に開かれた信仰の山として江戸時代から崇拝されてきた御嶽ならば、ということなのかもしれない。

この御嶽山には昨年(2000年)の9月にも例会山行として計画したが、台風接近のため中止したという経緯がある。実はその際、大きく定員割れが生じ、そのためバスのチャーターをキャンセルして、急遽、レンタカーに切り換えるなど、計画の建て直しを要したものだ。原因は、おそらく王滝口からの往復というコース設定にあったのだろう。そこで今回は、王滝口から飛騨側に横断する計画とした。

国道19号線は南木曾町付近で人身事故のため通行止めとなり、迂回路もなくバスは立ち往生してしまっただ。いったん中

乗鞍岳から見る、富士のように秀麗な御嶽山



津川に戻り、中央自動車道で岡谷まで北上、塩尻経由で南下する方法も考えたが、かなりの大廻りとなり、時間的に考えても妥当なことなのか判断がつかない。とありえず、このまま待機することにした。が、車内で黙って坐っているのもやり切れず、みんな事故現場へ足を運んだりして時間をつぶしていた。

だが、その途中の歩道の脇に、ハクピシンと思われる動物の死骸を見つけた。「交通事故」なのだろうか。黒々とした体毛で、鼻筋から頭にかけて白線がある。わが国でも棲息地は限られているようで、珍しい動物にこんな所で初めて出会うとは思ってもよらなかった。ハクピシンはジャコウネコ科で一見ネコのような見た目には知らせなかった。メンバーの皆は車にはねられたネコだと思いき、避けて歩いていったようだ。

地元のバス営業所の話では、人身事故の処理は通常2〜3時間を要すると言う。

2時間で終わってくればいいが、3時間以上かかればどうなるのか。私は最悪の事態を想定し、山小屋に携帯電話で連絡をとった。山小屋関係者もテレビニュースで事故のことを承知していたようで、多少の遅れはいい、と言ってくれた。もし、事故処理が長引いたときには本日行動をあきらめ、麓で宿を探すことになるかもしれない、と告げると、麓で民宿も経営しているので、その場合にも対応できる、とも言ってくれた。どんな状況になっても何とかかなりそうは見通しを得られ、気分も落ち着いてきた頃、通行止

は解除された。およそ2時間後であった。田ノ原に到着したのは午後3時前だった。早速出発する。どうしても気はせくし、花のシーズンが終わっていることもあり、自然と足取りは速くなっていたようだ。列の後方からクレームが出る。やはり、御嶽は人気があるのか、日帰りの出で立ちをしたハイカーが続々と下山してくる。これから登る私たち集団を見て、怪訝そうに、あるいは不思議そうに先頭の私に声をかけてくる。「これから登るんですか?」「ハイ!」

## 山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| *1 利尻・嶺南・洞窟・阿寒  | *35 白馬岳       |
| 2 ニセコ・羊蹄山       | *36 奥穂高・五竜岳   |
| 3 大雪山・十勝岳・穂高岳   | *37 阿・立山      |
| 4 十和田湖・八甲田      | *38 上高地・穂・穂高  |
| 5 八幡平           | *39 奥穂高       |
| *6 奥羽・早池鱒       | 40 御嶽山        |
| *7 嵐王           | 41 中央・南アルプス総図 |
| 8 奥海山           | *42 木曽駒・空木岳   |
| 9 朝日・出羽三山       | *43 甲斐駒・北岳    |
| *10 飯豊山         | *44 塩見・赤石・聖岳  |
| *11 磐梯・吾妻・安達太良  | *45 白山・荒島岳    |
| *12 磐梯・塩原       | 46 奥山・伊吹・藤原   |
| *13 日光          | 47 御在所・蔵ヶ岳    |
| *14 尾瀬          | 48 比叡山系       |
| 15 越後三山         | 49 京都北山1      |
| *16 谷川岳・吾妻山・武尊山 | 50 京都北山2      |
| *17 志賀高原・草津     | 51 京都西山       |
| *18 妙高・戸隠・飛騨    | 52 北沢の山々      |
| 19 軽井沢・浅間       | *53 六甲・摩耶     |
| *20 赤城・羅海・筑波    | 54 葛城高原・二上山   |
| *21 西上州・妙義      | 55 金剛山・岩瀧山    |
| *22 奥武蔵・秩父      | 56 紀伊高原       |
| *23 奥多摩         | *57 大峰山脈      |
| *24 大菩薩嶺        | *58 大台ヶ原      |
| *25 霧ヶ峰・両神山     | 59 赤目・奥御蔵高原   |
| *26 金峰山・甲武信     | *60 水ノ山       |
| *27 高尾・陣馬       | *61 大山・陣山脈    |
| 28 丹沢           | 62 四国山脈       |
| *29 箱根          | 63 石鐘山        |
| *30 伊豆          | *64 福岡の山々     |
| *31 富士・富士五湖     | *65 阿蘇・九重     |
| *32 ハッポウ・御料     | *66 祖母・積      |
| *33 奥ヶ原・蔵ヶ岳     | *67 奥島・御蔵岳    |
| *34 北アルプス総図     | 68 豊久島        |

\*印は新仕様の地図です

- 昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春に発行されます。この山行の際はなるべく最新版をご使用下さいませようお願いします。
- 2002年度版は「13日光・男体山・白根山」「18妙高・戸隠・飛騨」「42木曽駒・空木岳」「45白山・荒島岳」「53六甲・摩耶」を全面改訂しました。

昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1  
電話03(3556)8111(代) 〒102-8238  
支社 大塚市淀川区西中島5-11-23  
電話06(6303)5721(代) 〒532-0011  
(インターネットで検索中)  
<http://www.mapple.co.jp/>

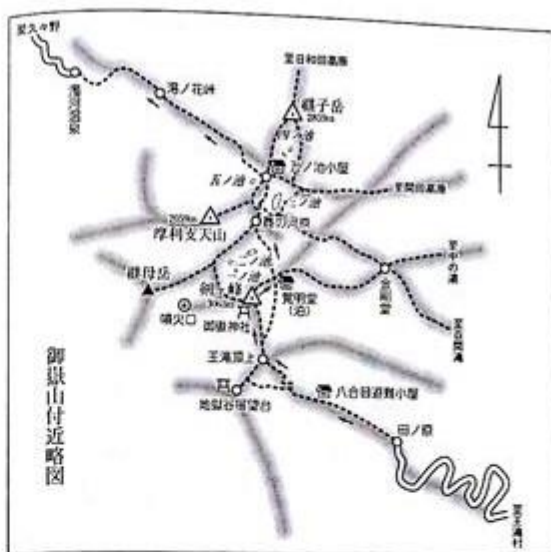


王滝頂上から望む剣ヶ峰

した。  
「ああ、御嶽の影が！」という声がかして眼下の山並を眺めると、黒々とした雄大な御嶽のシルエットが見事だ。「影御嶽」というべきなのだろう。シルエットの周囲は淡い紅紫色のベールにおおわれている。何という美しさだろう。日没直前の太陽と3000級独立峰の御嶽とが創り出した荘厳な絵巻だ。

覚明堂に到着したのは17時45分。まもなく太陽は沈み、御嶽は漆黒の闇に包まれていった。  
翌朝、御嶽には濃厚なガスが立ち込めていた。大勢の宿泊者が盛況を呈していた小屋も、登山者の多くが未明から早立ちしたせいで、私たちのパーティが出発する際には、ガランとしていた。  
出発してすぐ二ノ池を見る。わが国では最も標高の高い所にある湖である。高山の自然には低山や平地では見られない独特な地形があり、高山歩きの魅力の一つとなっている。ポピュラーなカールは氷河地形というが、わが国の高山はヒマラヤやヨーロッパアルプスとちがいで、現在氷河は見られない。だから、カールは大昔の氷河時代の名残ともいえる。  
一方で、地面が深く凍りつく永久凍土や岩の凍結破砕作用による岩塊斜面などができる地域を周氷河地域（氷河周辺地域）といい、そこから出来る地形を周氷河地形という。わが国ではこれらの周氷河地形は現役として活動中であるそうだ。そうした周氷河地形のなかで最もおもしろいのは構造土である。構造土は地面

に出来た幾何学的な模様といわれ、岩石の水が凍結した後の膨脹作用によって砕かれ（凍結破砕作用）、砕かれた礫や砂が土中の水の凍結と融解により徐々に移動（ソリフラクション作用）し、選り分けられて出来るという。地面の傾度により階段状のもの（階状土）や、荒い礫や細かい土が傾斜方向に交互に配列されたもの（条線土）などが見られる。  
御嶽の火口湖周辺には、こうした構造土が見られるものと楽しみにしていたのだが、ガスが漂っているせいか、なかなかはっきりわからない。以前、双六岳の頂上部でも経験したが、ガスのなかでは見分けがむづかしいのかもしれない。それでも、二ノ池周辺では、階状土や条線土のような模様を見た。また、二ノ池から摩利支天へ向かう途中の賽ノ河原には、ケルンのように積み上げられた石塔が多数あり、一種異様な光景だが、パッチ状に散在する植物群落と石塔の間には構造土のような模様を見ることができた。  
賽ノ河原からは三ノ池に進み、周辺の岩石帯で休憩して五ノ池小屋に向かった。五ノ池小屋とは以前の御嶽小屋のことであるが、私の頭のなかには昔の御嶽小屋



しも大きく、眼下に箱庭のような田ノ原を見下ろす。御嶽の広大な裾野があざやかだ。陽光はすでに薄暮色となり、透明なベールのように全てを包み込んでいる。  
1時間ほどで八目目の避難小屋に着く。大気が冷気を帯び、ひんやりとして肌心地よい。  
御嶽は悲劇の山だ、と言った人がいる。標高は3000級を超え、槍・穂高連峰がすっぽり入ってしまうほどの巨大な規模をもつ山岳なのに、なぜか国立公園となっていないのだ。だから、山裾から次第に開発が進み、原生林も剥ぎ取られていく。そして、なおもリゾート開発の動きがあるというのだ。この御嶽より標高の低い白山連峰が単独で国立公園とされていることと比べれば、やはり御嶽の姿は無惨というほかはないと思う。  
けれども、私のそんな感傷にも似た思いなど吹き飛ばすかのように、御嶽の自

然は厳然として大きい。  
さらに1時間を要して王滝頂上に到着。当初の予定では、ここから覚明堂に行き、明日剣ヶ峰に登るつもりであった。しかし、明日の天候は必ずしもいいとは思えないし、やわらかくて明るい陽光のなか、パーティの元氣も回復し、この勢いでこのまま剣ヶ峰に向かうことにした。  
左に地獄谷を眺め、八丁ダルの砂礫道をたどり、山の上とは思えない立派な石段を息を切らして登りつめ、17時15分剣ヶ峰に立った。  
3000級級独立峰からの見晴らしは実にすばらしい。依然として雲はあるものの、白山と北アルプスの山容がきれい。北アルプスは真南の角度からの遠望であり、乗鞍連峰・奥穂高岳・前穂高岳・槍ヶ岳・野口五郎岳・笠ヶ岳・水晶岳・立山三山・剣岳・薬師岳・黒部五郎岳が秀麗な姿で浮かんでいる。暮れゆく陽光の輝きで天上のような神々しさに満ち、いつまでも見飽きることはない世界だが、風が強くと肌を刺すように冷たい。じっとしていると身体が芯から冷えてくる。  
カメラタイムも早々と終え、日没に追いかけられるように覚明堂に向けて出発

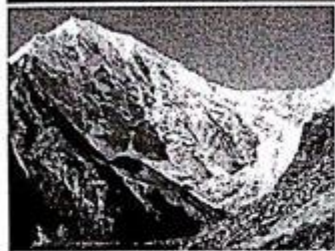
「テント泊まりですか？」「いえ、山小屋です」「まだやってくる山小屋ってあるんですか？」「ありますよ」——。こんなやりとりを何回も繰り返した。王滝頂上や剣ヶ峰の山小屋がいずれもシーズンを終えて、閉鎖されているのだから、当然の疑問かもしれない。  
天候は晴れ。雲はあるが、案外見晴ら

した。  
「ああ、御嶽の影が！」という声がかして眼下の山並を眺めると、黒々とした雄大な御嶽のシルエットが見事だ。「影御嶽」というべきなのだろう。シルエットの周囲は淡い紅紫色のベールにおおわれている。何という美しさだろう。日没直前の太陽と3000級独立峰の御嶽とが創り出した荘厳な絵巻だ。

日本・ネパール交流100年

# ペンバ氏来日セミナー&ネパール説明会

## 神々の国ヒマラヤトレッキングの魅力



ペンバ・ノルブ氏が語るヒマラヤの魅力、アミューストラベル創立10周年を記念し、ネパール一流のシェルパを招き、セミナーを開催します。本物のネパールを知る、まだとない機会です！



### ペンバ ノルブ シェルパ

1949年5月14日生まれ 53歳

ネパール・ポムツェワグールで生まれ、1968年に結婚後、帰国し山岳探検の魅力を語り、1969年より日本各地で23回にわたってクライミングツアーとしてヒマラヤ探検に参戦する。1974年には山岳探検の指導者として活躍。そして1977年にはエベレスト(8848m)に挑戦、日本隊への参加が、ロフエ(8511m)、チョオユ(8201m)などのピークを登り、シシヤン(8013m)、カンチエンジュン(8580m)、タワチリ(8167m)、アンナプルナ(8091m)などの8000m級の山でリーダーの役割を果し、数々の山岳探検に、高度カトマンズに在住し、トレッキングの通訳員としてガイド業務に従事している。

**9月9日(月)**  
時間 18:30~20:00  
場所 京都市北文化会館第一会議室  
丸太町北大路駅1番出口ですぐ

**9月10日(火)**  
時間 10:00~11:30  
場所 神戸サンセンタープラザ西館6階4号  
三宮駅(JR・地下鉄・阪急・阪神)  
西出口より徒歩7分

**9月10日(火)**  
時間 18:00~19:30  
**9月11日(水)**  
時間 10:00~11:30

場所 大阪駅前第3ビル17階会議室  
JR新地から徒歩3分  
JR大阪・各線梅田から徒歩

**入場無料**  
**要予約**

場所等、ご不明な点がありましたらお気軽にお電話ください。お席に限りがございます。必ずお電話等でご予約ください。

## ネパールカタログさしあげます！



全13コース掲載

- ・林孝治(大阪府勤労者山岳会)といくゆくりヤラピーク登山(5520m)
- ・マナスル三山大展望ヘリトレッキング
- ・天空の絶世界アマダプラムベースキャンプ
- ・ジョムソン山群と聖地ムクチナートトレッキング
- ・アンナプルナベースキャンプヘリトレッキング
- ・ホテル シャンボチエバノラマ泊 エベレスト展望トレック
- ・ロッジ泊で歩く世界で最も美しい谷 ランタン谷 ヘリトレッキング
- ・ロッジ泊で歩くヒマラヤ大展望ブーンヒル(3194m)トレッキング

電話・FAXにてご請求ください！

お問い合わせは・・・ 山旅専門旅行会社

**アミューストラベル株式会社** 国土交通大臣登録旅行業第1366号  
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前第3ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>  
E-mail: [osaka@amuse-travel.co.jp](mailto:osaka@amuse-travel.co.jp)  
**06-6456-3366** FAX **06-6456-3377**

のイメージがあった、そのあまりの変わり様に道を間違えたのではないかとさえ思ったほどだ。「ご苦労様! どうぞ休んでいってください」と声をかけた主人は、清々しい青年であった。御嶽小屋は2年前に改築され、小屋名も小屋主も変わったのだそうだ。木造の小屋は明るく清潔感に満ち、新方式による水洗トイレと合わせ、快適さでは北アルプスの山小屋にもひけをとらない。御嶽に泊まるのなら五ノ池小屋だと思った。

五ノ池小屋でのコーヒープレイク後、再出発し、濁河温泉への長い下りに入った。しばらく行くと、登山道に男性2人女性1人のパーティが道を塞ぐように入り込んでいた。私たちに気づくと男性の1人は、私たちの行動を制止し、その場で待機するよう言ってきた。女性が負傷したため救助を要請中で、まもなく救援ヘリが飛来することである。

女性の負傷は捻挫とのこと、当人には時折笑顔もあって緊迫している様子でもなさそうだし、上空を見廻してもまだ救援ヘリが飛来する気配もない。周囲も静かなので、急いで通過するむね告げて了解をとった。

通過してから、やがて救援ヘリの飛来する音が遠くから聞こえてきた。私たちはその場に立ち止まって見守ることとし、メンバーにはヘリに向かって手を振るなどの行動は慎むよう注意した。

救援ヘリは小さな姿を現したかと思うと、爆音と共にまたたく間に大接近してきた。岐阜県警察の「若駒号」だった。現場上空でホバリングし、スルスルとロープを降ろして手際よく女性を吊り上げ、数分もたたぬうちに引き上げてしまった。登山者のスムーズな救出劇を間近で目撃して、話題は遭難事故のことに集中する。警察のヘリなら費用が要らないとか、救助を求めた女性の負傷が「捻挫」であったことから、捻挫程度では、新ハイの厳しいリグダーなら歩いて下山させるかもしれない、とか。遭難者が無事であっただけに、案外のききな会話となった。

濁河花畔付近では、町役場職員や山岳会員で構成された救助隊にも出会った。負傷女性は昨日から五ノ池小屋を通じて救助を求めていたが、悪天候のためヘリがなかなか飛ばず、そのため下界から救助隊も出動していた。ヘリで女性救出と報を受け、救助隊も休憩後下山すると

のことであった。

救助隊員と言葉を交わしながら、私はそれとなく人数を数えていた。ヘリの費用は無料としても、この救助隊員の日常は支払わなくてはならないだろう。捻挫くらいは自力で歩いてしまおうという人ならともかく、やはり、山でのいろいろな事故に備えて、入山の際は保険加入など自分なりに考えておくべきだろう。

五ノ池小屋から2時間余り要して濁河温泉に下山。登山道の途中から電話予約しておいた旅館で薄茶色の湯に身を浸して汗と垢を流し、さっぱりした気分になってビールで乾杯、打ち上げとした。

(平成13年9月29日・30日歩く)

▲参考タイム▼  
(29日 晴れ) JR岐阜駅9:00(バス) 御嶽田ノ原14:45-八合目15:45-王滝頂上16:50-剣ヶ峰17:15-覚明堂17:45(泊)  
(30日 くもり) 覚明堂6:15-三ノ池7:40-50-五ノ池小屋8:20-45-濁河温泉11:00(入浴・昼食) 12:45(バス) JR岐阜駅17:00  
△地図▽昭文社「御嶽山」

## 瀬戸内海の島の最高峰を歩く(1)

# 向島・岩子島・佐木島・因島

瀬戸内

## 多摩雪雄

### 向島と岩子島

尾道駅前波止場から対岸向島の小歌島棧橋へのフェリーはわずか5分。車100円。入60円。オートバイ・自転車10円。6時から22時まで、ひっきりなしに往復している。

岩屋山東腹の舗装路を緩登して北稜の駐車地に着くと、すぐ下に四十四番大窪寺薬師如來の小宇があり、三体の石仏が安置されている。

階段で登り着いた標高1024の小広い岩屋山頂上には、大元神社の立派な社殿と常住社務所がある。

向島の最高点である南の高見山(点名向島)283・2が2等三角点の標石は

左書きの真新しいもので、頂上テレビ塔のフェンス際にある。

木の香もかぐわしいパーゴラと長卓子三組。周囲は木柵で囲われ「瀬戸のうたみち」として整備された小広い展望公園で、階下にきれいなトイレを有するコンクリート製の展望台に登れば、東に加島・百島、南に巨大な因島が横たわっている。この北麓の洋ランセンターは、たっぷり時間をかけて遊歩観覧したい。

そのまた北方、奥集落のJA支所前の重文吉原家は藤原鎌足の末裔で、江戸末期まで向島西村の庄屋を勤めた。

向島大橋を渡った小さな岩子島には見るべき所が多く、島中央十字路郷条集落

で終了する。その間、嚙子に合せて掛け声勇ましく櫓を漕ぐのは、宮島の管絃船を倣ったものであろう。

島中央十字路の南東社記号は阿弥陀寺で、小高い丘上の大寺への参道途中には、太平洋戦争で戦死した三十名余の陸海軍兵士の墓域がある。合掌、黙禱。

本堂前面にある高さ164、根回44、目通り34の樹齢不詳の大樹はビヤクシンで、広島県の天然記念物である。

### 佐木島

最高峰の成山(点名大山)250・6が3等三角点を始め、2174の大平山などは露岩峭立、樹草密生して、村人の踏み跡もなく、登高困難。との役場の回答であった。

鷺港前の高台に金比羅宮を拝し、海岸線周遊道を時計の逆廻りに進む。

路脇に幸神社を拝すると、すぐ先に立派な齊格寺を見て分岐を右へ。西の突端



岬へ緩登すると第五北川丸遺難者慰霊碑が、頂上台地のミカン畑と八重桜を見下ろすように一段高く、三段に刈り込んだ植樹を従えて台上に大きく立っていた。4月の慰霊祭には各地から遺族が参集するそうだ。前面ミカン畑の傾斜上面に保護石に囲

西方の浜ノ浦トンネル周辺は、大林宣彦監督の「ふたり」のロケ地である。トンネル東口手前の狭く急な道を登った舗装路の終点南側低地は畑作地。北側樹林のたもとに四十三番観音の簡易石厨子がある。その右手からミカン山の稜線小径は、間もなく松とミツバツツジ密生帯となり、花崗岩砂を急登する。

「三石重なる高さ二丈許り、各方九尺、一人の力もて揺すを得」とある黒雲母花崗岩が、表土の浸食により地表に露出し、上部の岩が下方の岩に重なり奇景を形成したもので、地質学上著名である。概略を記したが、周囲の樹木が繁茂して、それらしくは見えない頂上の「ゆるぎ岩」だ。その根元に四十七番八坂寺の観音石像があり、北側に西岩岳130・4が3等三角点埋定されている。

トンネルを抜け出た西海岸の砂浜には、海から向かって立つ立派な第一鳥居と、海中の石灯籠。海から並列する石灯籠の間の参道を社殿に進む。向島の無形民俗文化財に指定された岩子島厳島神社管絃祭は、漕手・嚙子方の管絃船三艘が祭典を済ませ、社前から鯨島の小祠に豊漁を祈願して戻り、社前を三ツ巴に三回廻

まれた4等三角点34・3が埋定されている。

向田港棧橋たもとにある、広島県重文の磨崖和霊石地蔵は満潮時に半身没するが、この時ちょうど干潮で、前面の石灯籠と共に全身を現していた。この丸い花崗巨岩は高さ34幅54厚さ44で、西面に像高95の地蔵菩薩が刻まれている。25の七弁蓮花座に坐し、15の深さに彫った舟形光背を負って結跏趺座しておられる。正安二年(1300)仏師念心の精密な刻銘がある。

この背後の周回道に面して、九体の地藏尊が西日を背に受けて姿勢よく跏趺しておられた。

向田野浦の龜山八幡宮に詣でると、立派な拜殿内には大きな古い絵馬が数葉あり、正面に、三韓を服従させ帰還した男装甲冑姿の神功皇后が、生誕間もない菅田別皇子(後の応神天皇)を抱いた武内宿禰と見合っているのが秀逸である。言うまでもなく、八幡大菩薩は応神天皇の化身である。

八幡様の西向かいの574の小山は全山桜の花盛りで、塔之峰干本桜として知られている数ヶ所に登り口はあるが、中腹

の一周道からは南と北だけが小広い頂上への遊歩道で、桜花のトンネルを緩登して行く。峰山頂上を一段高くして一基の石厨子と四方の眺望ガイド板が設置してある。

須ノ上集落で芋地蔵はどこかと聞きながら古い人の家を次々と訪ね歩き、果てはスクーターで通りかかった中老女性が「オレがお守りしている」と案内に立ってくれた。

南から北へ向かう海岸線道路にある湿地帯二ヶ所の北端の左手、道路の西側に低い石囲いの中の六体の石仏の右端に、「芋親世音菩薩」と彫った一体を拝した。なおも北行する。集落はずれの須ノ上小学校は、昭和51年3月に百周年記念行事を行った歴史の古い学校で、2・9歳の4等三角点も設置されているが、地図上に「文」の記載はない。

校庭東の海沿い道には簡易石囲いをした地蔵があり、彫りが判然としている八十八番地蔵を拝した。

須波集落に戻って、学校西の大寺安楽寺を訪れると、重文級の山門と築地塀はかなり傷んで、すでに門扉は開閉不能の状態であった。

#### 因島

重井町の「玉屋」に泊まった翌日、フラワーラインを登り、山頂下方の駐車場に出ると、案内図と五百羅漢の説明板がある。それによると村上水軍の総帥吉光が永禄十一年(1568)、山麓に青木城を構え、本山に観音堂を設けて常楽院と号し、静金上人を招じたとある。その観音堂に隣接して常住の休憩所があり、前面には張り出し舞台式の立派な展望所が近年設けられた。

長大な山頂には釈迦三尊像を始めとして大小様々な七百体の石仏が安置され、柏原伝六と弟子たちによって三十年の歳月をかけて製作されたものと伝えられ、現在五百羅漢と喧伝されている。白滝山(点名滝山)最高所には226・9歳の3等三角点がミツバツツジの前面に埋定され、その後方に新たに鋳造された鐘掘堂もある。ここから四方の眺望がいい。

椋浦町は「椋の里ゆうあいランド」と宣伝してはいるが、飲食店も土産物売店もない古い家並と、峠道沿いの新築家屋が目につくだけである。集落奥に小早川家墓所と珍しい良神社がある。昔(文化二年・1805)は三百軒もの人家があっ

て、千石船三十艘を有する椋浦廻船として名をなしていたと言い、金比羅大権現をまつた常夜燈は近海では最大級のもの。天上に宝珠・煙穴をもち、珍しい波返しが目を引きものである。ここから南の周回道に越える椋浦峠上には見晴らし休憩所があり、番外札所の立派な長戸庵大師堂がある。

この島の最高峰奥山からの主稜線は大山峠→大山→青影山への縦走路がある。椋浦峠の大師堂の横手から始まるよく踏まれた草道の奥にある由来書には、三庄町の観音寺を一番として、西國三十三番各寺本尊の観世音菩薩を模した石像が安置された、とある。頂上の三十三番観音まで一体一体を背負って安置したのは、天保初期(1830頃)に南蔵千守の住人青井多惣次で、旧暦3月18日の観世音菩薩の日を中心に遠近の方々が大勢詣られる由緒深い山なので、一般に観音山と呼ばれている。

椋浦峠で昼食後、12時に出発。奥山頂上まで1とある。階段を一登りすると、あとはワラビを摘み摘み、のんびり歩いて行く。

右手の斜面一帯の青竹が徐々に太くなっ

て孟宗竹になってくると、ワラビも姿を消し、扁長な頂上となる。まだ青味の少ない小広い草地を囲むように観音石像が並び、中央部に奥山(点名因ノ島)2等三角点390・5歳の赤御影の標石磁北は355度、わずかな瑕疵がある。南の斜面上に長腰掛け二基と小さな東屋。見晴らしはいい。北東風2時。30分休んで13時25分、次の大山を目指す。

椋浦峠からの登りは丸太段であったが、これからは凝木段下り30分。大山峠を越える頃には微雨となったが、雨具を出すほどではなかった。

登ることわずか5分、展望東屋の小丸に着くと、大山峠へ100歳、大山へ300歳、青影山へ1200歳とある。



奥山山頂と観音石像(因島)  
田熊町中 藤原明神から北東の貯水池に越える旧峠を過ぎ、次のピークの西

腹を浅く捲く樹林中にミツバツツジが点在し、歩きよい道が続く。

大山4等三角点222・7歳の標石を確認し、降登した小丸からは緑樹重なる肩越しに青影山の東屋が見えた。くだった鞍部は中庄町大江から田熊町中央へ越える旧道だが、大山トンネルが開通したので、あまり利用されていない。

青影山頂には15時20分に到着。ここ二ノ丸の展望東屋からの見晴らしは良好である。わずかに高い西のピーク275歳が青影城本丸で、初代村上義弘が元弘年間(1331-1333)に築城してから慶長元年に第十代吉亮が終焉するまで二六〇余年間、村上累代の城であり、三ノ丸ノ城門、石風呂、井戸等の跡がある県の史跡である。

城山と一般にいわれている城跡から西および北へのルートはなく、今登ってきた南東の旧峠から判然とした道を南の谷筋へくだると、立派な保育園に突き当たり、中学校を経て今宵の宿、須原の「見高荘」に16時40分に着いた。

長年山歩きをして各地で宿を求めたが、歌人に出会ったのは、この日が初めてであった。四階建の一階にブライムスとい

う酒な喫茶店を娘が経営し、ふくよかな中老婦人が宿所を心配している。この年(平成14年)喜寿を記念して歌集「砂浜」を出版した。「砂文字」会に属する村上艶子さんである。

翌日訪れた金運寺には十八基の宝篋印塔と多数の五輪塔を含めて何百と知れぬ村上一族の墓石が整然と配列されており、寺続きに昭和五八年に復元築城された因島水軍城は、一見の価値がある。

江ノ内の大山神社には摂社として、珍しい耳の神様と鼻の神様がある。本殿前には日本一巨大な石造七福神が宝船に乗っておられ、「その前面の太鼓石橋を渡れば金満長寿が得られる」という結構を得て、昼前に目の生名島に渡った。

(平成14年4月上旬)

△地形図V5万リ尾道・土生

△宿泊

「河野」(向島小歌島)

「玉屋」(因島重井町青木)

「見高荘」(因島田熊町須原)

☎084452(5) 0638

☎084452(2) 5112



古寺と石仏の道を歩く

## 当尾から奈良坂へ

奈良

木村 太郎

小説家堀辰雄は、生前に幾度か大和路を旅している。信濃路を散歩道にしてきた作家ではあるが、碩学の折口信夫の手引きもあって、記紀や万葉の世界に関心を持ち始めていた。大和への思慕抑えがたく、堀辰雄は多恵子夫人を伴い、昭和18年4月に当尾の里へも歩を運んだ。

堀辰雄はその旅のことを、短篇「浄瑠璃寺の春」に発表した。詳しい歩いた道筋はわからないが、当尾から奈良坂へ歩いたという。私は、作家の足跡を追い求めつつ、古寺と石仏の道を訪ねてみた。

奈良駅前から下狭川行きのバスに乗り、岩船寺口で降りる。北へゆるやかな坂道を登って岩船寺南口に着く。バス停車場

の反対側に、細い山道を見つけて取りつき、三体地藏の石仏に巡り合う。峠を越えて小さな集落にくだると、当尾名物の無人販売の店が出ている。

柿本人麿呂造立という白山神社の石段を右手に見て、関西花の寺霊場第15番札所の岩船寺の門をくぐった。この古寺は聖武天皇の勅願により、大仏建立で名高い僧行基が阿弥陀堂を建立したことに始まる。

アジサイの花の寺として知られる岩船寺だが、この季節の庭園は、ミヤコワスレの可憐な小花で埋め尽くされていた。蓮葉の浮いた池の奥に立つ三重塔は昨年あざやかな朱色に塗り直され、創建時の

浄瑠璃寺の御堂



香りを漂わせている。塔内の壁画は修復中で、公開が待ち遠しい。

三重塔の背後に廻り、岩船寺の裏山への階段を上る。檜林を抜けて小さな鳥居をくぐり、山道に出会うとすぐに尾根に立つ。尾根上はヤマザクラ・モチツツジの花木のほかに、ソヨゴ・コナラ・シラカンなどの樹木が育つ。貝吹岩と呼ぶ一枚岩のある御本陣山の高所には汗をかく

間もなくたどり着いた。

当尾の地で最高所(321m)からの見晴らしは、西の方向が開けている。遠



くに生駒連山、前方に木津川の流れ、みかの原一帯を垣間見る。晴れていれば輝いているだろうに、いまにも雨粒の落ちてきそうな曇り空で、風景がうすばやけていたのが惜しまれた。

みわたせばさすのかはらのしろたへにかがやくまでにはるたけにけり

(会津八「南京余唱」より)

岩船寺門前の石船に別れを告げて竹やぶの道に入る。一顧不動に手を合わせ、T字路に出て、笑い仏と眠り仏にゆかりを結ぶ。唐臼の壺が置かれた辻に来て、小川に沿いつつ田園道を愛宕灯籠の立つ東小へ歩く。途中、東小田原寺跡の石段をやりすこし、地名から西小田原寺、またの名を九体寺ともいわれている浄瑠璃寺へと廻る。

花の寺第16番札所の浄瑠璃寺では、アジサイの花の季節は終わっていた。この寺の馬酔木の花は、散文で詩を綴った作家堀辰雄の、大和への憧れの象徴として知られる花である。立ち枯れの木のイメージが繰り返して現れた、死の予感に満ちた長篇『菜穂子』を書き上げた後に、生を謳歌する万葉集の明るい歌ぶりを求めて、堀辰雄は大和路への旅に出た。

「浄瑠璃寺の春」の導入部で、当尾の里を探し歩き、「漸々とたどりついた浄瑠璃寺の小さな門」のそばに、作家は馬酔木の花を見つめる。かねがね作家が「一種の憧れをもってゐた馬酔木の花」は、闇の中の灯明のように古寺の内部へいざなう。そして作家は、浄瑠璃寺の塔を見て、「翔け去つたこの世ならぬ美しい色をした鳥の翼のやうなもの」を発見したので。

その鳥の翼のやうなものは、実は塔の錆ついた九輪の円環だったが、作家の存在そのもののモチーフのようにして、堀夫妻をモデルにした小さな旅物語が語られ始める。

かれわたるいけのおもてのあしのまにかげうちひたしくるるたふかな

(会津八「南京新唱」より)

庭園の池に面して、太陽の昇る方向に位置する丘の上に、現世の苦しみをのり越えさせるといふ浄瑠璃浄土の教主、薬師如来を納めた三重塔はそそり立つ。水煙を飾りつけた塔を見上げると、塔は天上へ果てしなくのびているような錯覚すらおぼえる。丘から振り返り、池の対岸を眺めると、西方極楽浄土を願う九体の

阿弥陀如来に、屋根をおおう瀟々酒な本堂が目につく。春秋彼岸の中日には、本堂中央の背後に太陽が沈んでいくといふ。

妻と寺の少女とに世間話をさせて、作家はゆっくりと九体の阿弥陀仏を見て廻る。だが、その時に開扉されていた厨子内の秘仏、吉祥天女像は無視している。その理由は判然とはしないが、豊かな暮らしと幸福を授ける徳性と美性を秘める、吉祥懺悔会の女神には馴染もうとはしなかったのだらう。

堀辰雄の小説に登場する、葉穂子を始め「物語の女」たちは、みなが悲劇的な相貌で描かれている。それらの女性像と異なりすぎた吉祥天女像であるがゆえに、作家はわれしらずに拒絶の態度を見せていたのかもしれない。

じやうりのなをなつかしみゆきふるはるのやまべをひとりゆくなり

(公津八「南京新唱」より)

琉璃不動を見るために浄琉璃寺奥ノ院まで足をのびし、赤田川にかかる木橋を渡った。闇の漂う山中に残された磨崖仏は、石が割れてずり落ちており、彫られた線もはっきりとしない。西小から

大門にかけて点在する石仏群に心を残しながらも、来た道を引き返した。浄琉璃寺門前の、梵字の「ア」の字を四方に刻んだ角塔婆の立つ所から、林のなかの山道に入る。

この道は赤門坂とよばれる古道で、浄琉璃寺の南大門跡の窪地に水呑み地蔵がある。剣豪荒木又衛門も口にしたと伝わる清水が今でも湧き出ている。奈良と笠置・伊賀を行き交った昔の旅人たちも、この場所を腰を下ろしてひと息ついたことであろう。

車道がついて便利になったぶんだけ、昔の街道が廃れていくのはさびしい。水呑み地蔵から先の道は草が生い茂り魔道に近い。人が通らなければ、野の草花は自生の自由が与えられる。こんな所なのにと思えるほど、キンポウゲ科の艶やかな金色の小花ウマノアシガタが群生していた。

舗装された林道に飛び出し、浄琉璃寺南口へ歩き、車道を中ノ川交叉点へ向かった。笠置と柳生とに分岐する場所に来て、柳生街道を走る車をさけて国道沿いの北側にのびる地道の旧街道へ進んだ。この辺は京都府加茂町・木津町と奈良市との

境界地である。雑木林の続く丘陵上の道をたどり、般若寺越の奈良坂に出ようと思った。

小庭風の平地に出て、信仰心を絶やさない中ノ川集落の村人に手入れされた伊勢辻の石仏と石塔に出合う。長い間、旅人の無事を見守り続けた石仏に親しみを覚えた。二つの電波塔を過ぎ、生駒山を前に眺めつつ、奈良奥山の瑞々しい緑を左に見て、緑ヶ丘浄水場に出る。天気予報通りに降り始めた雨の中をぬって、青山住宅地前の町道を通り、奈良阪南口のバス停へ着いた。

いにしえより多くの和歌に詠まれてきた、奈良と京都の二都のみやびをつなぐ奈良坂あるいは京街道と呼ばれる道であった。その道を横切って路地を折れると、通りに面して花の寺第17番札所の般若寺の楼門が立っている。コスモス寺の呼び名がついた、花の般若寺の庭園の中を、無粋にも雨傘を広げて巡り歩いた。

聖武天皇が大般若経を奉納した由緒をもつ般若寺の徳を慕ってのものか、どこからかコスモスの種が飛んできて、歳月とともに自然に増殖してコスモスの寺になったのだという。三十三観音石仏を取

り囲んで、この季節に早咲きのコスモスがもう開いている。コスモスだけでなく、青色のヤグルマソウ、黄色いハナビシソウ、愛らしいシランソウの花々が、本堂や楼門、十三重石塔のまわりで、雨をも気に留めず、健気に咲き誇っている。

ただ雨模様はせいなのか、奈良坂の夕日地蔵を詠んだ公津八の歌のいしぶみだけが、愁いに沈んでいるように見えた。ならばかのいしのはとけのおとがいにかさめながるはるはきにけり

(公津八「南京新唱」より)

その日堀辰雄は、浄琉璃寺から奈良坂を越えて南都へ帰ってきた。そのまま東大寺の裏手へ出て、馬酔木の咲いている春日野の森へ歩いていった。この旅の後には病に臥せる生活が続き、大和路の散策は、生きているということを実感できた、堀辰雄の最後の巡礼行だったという。

を目にしていたのだろうか。作家の言葉によれば、「ひどく疲れて何もかもが妙にぼおつとしてゐる心のうち」に、「ずつと昔の日の自分」の旅姿を鮮やかに蘇らせていたのである。馬酔木の花には、時間を超越して永遠のイメージが宿るとでもいいたげに、堀辰雄の美しい小品「浄琉璃寺の春」は閉じられる。

佐保川の石橋を渡り、登大路に近づく、興福寺の五重塔が見えてくる。興福寺の庭に桜が開き、春日野の森に馬酔木も咲く頃に、古国古京をまた訪ねてみよう。あをによし平城の華やかな春を巡り遊ぶために……。

(平成14年5月7日歩く)

▲コースタイム▼

近鉄奈良駅前(奈良交通バス25分) 岩船寺口(25分) 岩船寺(貝吹岩15分往復) 30分 浄琉璃寺(25分) 奥ノ院(30分) 赤門坂水呑み地蔵(30分) 中ノ川交叉点(40分) 緑ヶ丘浄水場(15分) 奈良阪南口(5分) 般若寺(5分) 奈良坂夕日地蔵(30分) 近鉄奈良駅

▲地形図▼2万5千 柳生・奈良

私達におまかせ下さい。待っています!



詳しくはホームページを見て下さいね。

登山用品専門店

とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.yoshimisports.co.jp/>

JR天王寺駅北出口  
より東へ強歩5分

新ハイ関西66号  
標高△△66mの山

鎗ヶ先 (966m・美濃)  
乗鞍岳 (866m・湖北)  
栗ノ木岳 (1066m・高見山地)

鎗ヶ先

岐阜県の西の端から滋賀県にすこしまたがるあたりに掛妻関ヶ原養老園定公園がある。その範囲内の岐阜県掛妻郡春日村に鎗ヶ先はそびえている。標高は低い、名前のように頂上部が尖って見え、登りこたえのある山だ。

会の人たちと5人で目指した。登山口は美東寺本にあり、取りつきは寺本の東のはずれに流れ込んで谷沿い道だ。すぐに堰堤の左側を越えて、小さな尾根上の踏み跡をたどった。山腹を登りつめると北側が大きく伐採された明瞭な尾根

に出た。

伐採地を過ぎれば自然林が多くなり、雑木の美しさを楽しみながら、不明瞭な尾根になってきた急な斜面を登った。南北に続いていく山頂直下の尾根に出て、北へ直角に曲がった。一登りで雑木のなかの山頂に達した。木々にさえぎられて展望はなかったが、なぜか幸せな気分になる山頂だった。

(平成3年10月10日歩く)

△コースタイム▽  
寺本(2時間) 鎗ヶ先(1時間30分) 寺本

△地形図▽2万5千=美東

乗鞍岳

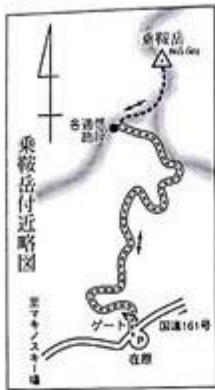
野坂山地という山塊は、滋賀県と福井県との県境付近にある。代表格は山地の名称になっている野坂岳。敦賀の南に大きくそびえている若狭・越前国境の山城で、最高峰は三重嶺で滋賀県今津町の山。湖北とも呼ばれる地域に属している。野坂山地は南北・東西両方に尾根をもつ山塊なので、奥美濃の山地を小さくしたような印象の深い山城だ。その東端に乗鞍岳があり、国境スキー場の奥の山にあたる。

この山も6人の例会山行で登った。登山口のマキノ町在原に車を置く。広い駐車場があり、車道を登る。山頂近くまで車道を歩く山だ。山頂直下に防衛庁・警察・N.T.T・関西電力の通信施設があるためである。しかしゲートがあるので車はほとんど通らず、のんびりと展望を楽しむながら気楽な気分登られた。そのように思えばこの山もい山だった。

通信施設から上は登山道となり、草原のなかの明るい展望の道だ。琵琶湖がリアス式海岸かと思われる形で望めたのがとても印象的だった。湖面が光り、そ



乗鞍岳登山道より琵琶湖を望む



の中に緑のこんもりとした山とか島が重なるって見え、ほのぼのとした気分になった。他の山ではなかなか望めない感動がある

あった。目指す方向に向きなおれば、山頂部の濃い緑の森と光るササ海との対比も、深い味わいがあった。

(平成12年11月3日歩く)

△コースタイム▽  
在原(2時間) 乗鞍岳(1時間30分) 在原

△地形図▽2万5千=駄口

栗ノ木岳

「山頂にはシャクナゲの木がたくさんありますよ」と、山の会の大山さんから情報をもらって数年経っていた。ちょうど頃合いと思われる時期に車を出してくる田辺さんの参加を得た。西村さんと私の3人で、登山口の三重県一志郡美杉村にある若宮八幡宮に向かった。修験業山から栗ノ木岳へ三角形を描くように周遊する計画だった。

若宮八幡宮は深い社のなかにあり、夜遅く着いたときの森閑とした佇まいが、何とも清々しかった。

まだほの暗い明け方から、囁いばかりの鳥の鳴き声が社の杜に湧いて、眼が覚めた。しばらくの間、夢と現との境を

「松田敏男 山の絵画・版画展」  
9月20日(金)〜10月5日(土)  
10時30分〜18時30分(日・祝定休)

会場 ギャラリー百号  
東京都渋谷区宇田川町35の4  
オーグレイブ1F  
☎03(3496)9517

内容 北アルプス・南アルプス・大雪山及び樹林・花・池邊などの山岳風景、水彩画7点、シルクスクリーン版画28点

奇岩怪石の岩峰

俗離山

韓国には、現在国立公園が20ヶ所ある。その中で、山の名の付く公園は15ヶ所であり、それぞれ有名な山が含まれていて、日本にも知られた山が多い。韓国の国立公園は以下の通りである。

- | 名称           | 所在        |
|--------------|-----------|
| (1) 智異山国立公園  | 慶尚南道      |
| (2) 慶州国立公園   | 慶尚北道      |
| (3) 鷓鴣山国立公園  | 忠清南道      |
| (4) 閑麗海上国立公園 | 慶尚南道      |
| (5) 雪嶽山国立公園  | 江原道       |
| (6) 俗離山国立公園  | 慶尚北道・忠清北道 |
| (7) 漢拏山国立公園  | 濟州道       |
| (8) 内蔵山国立公園  | 全羅北道      |
| (9) 伽倻山国立公園  | 慶尚南道・北道   |

- | 標高                 | 所在地      |
|--------------------|----------|
| (7) 徳裕山 1508 呎     | 徳裕山 慶尚北道 |
| (8) 小白山 1439 呎     | 小白山 慶尚北道 |
| (9) 伽倻山 1430 呎     | 伽倻山 慶尚南道 |
| 00 雉岳山 1288 呎      | 雉岳山 慶尚南道 |
| 01 無等山 1186 呎      | 全羅南道     |
| 02 龍門山 1157 呎      | 京畿道      |
| 03 俗離山(天皇峰) 1057 呎 | 俗離山 慶尚北道 |

(1)から(3)までの漢拏山・智異山・雪嶽山は特に有名で、日本の旅行社による登山ツアーも行われ、私も三山は登頂済みである。それに続く山として俗離山や伽倻山がある。俗離山・伽倻山の名は山麓の寺院が観光地として知られているが、登山の山としての知名度は低く、ツアーによる機会などは全くない。登頂するには個人で行くはかない。韓国では登山が国民一般に広く人気がある。登山道は整備され、道標も完備しているが、ご存知の通りハンゲルの因である。私としては、中国語や英語なら少しは理解できても、ハンゲルとなると全くお手上げである。ところが今回機会があった。俗離山に登ることができた。俗離山は慶尚北道・忠清北道の境界

生駒聳峰

韓国

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 00 徳裕山国立公園  | 全羅北道      |
| 01 五台山国立公園  | 江原道       |
| 02 周王山国立公園  | 慶尚北道      |
| 03 泰安海岸国立公園 | 忠清南道      |
| 04 多島海上国立公園 | 全羅南道      |
| 05 北漢山国立公園  | 京畿道       |
| 06 雉岳山国立公園  | 江原道       |
| 07 月岳山国立公園  | 忠清北道・慶尚北道 |
| 08 小白山国立公園  | 忠清北道・慶尚北道 |
| 09 月出山国立公園  | 全羅南道      |
| 10 邊山半島国立公園 | 全羅北道      |
- 朝鮮半島の最高峰は北朝鮮と中国の国境にそびえる白頭山で、標高は2744 呎。2000 呎以上の山々は全て北朝鮮側に属し、韓国の最高峰の漢拏山(濟州

にあり、ソウルから南へ約200キロ余、車で約3時間である。俗世を離れるということから名付けられた俗離山は韓国八景の一つで、昔から大々金剛または小金剛と呼ばれ、景観に優れた山である。奇岩怪石の岩山に映える春のツツジ、秋の紅葉がすばらしく、年間200万人もの人々が訪れる。山脈は主峰の天皇峰を中心に、思徳峰・文殊峰・観音峰・立石台・文蔵台等の峰々がそびえ、山麓には韓国の由緒ある名刹法住寺がある。その中で一番よく登られているのは文蔵台で、比較的短時間で登れるうえに、山頂の岩峰の特異な形状から特に人気がある。そこで通常俗離山に登るといふとこの文蔵台のことになり、一等三角点の存在する最高峰の天皇峰は平凡な形のせいか、人気がないようである。登山口は法住寺の見学ができることもあり、道がよく整備された忠清北道側から登る人が圧倒的に多い。車でソウルを出発する。大都會の車の渋滞は世界中どこも同じで、高速道路に入るのに2時間もかかった。韓国の高速道路はよく整備されていて、4車線とか

文蔵台



- 島)は標高1950 呎である。韓国の山を標高順に調べてみると、
- | 山名           | 標高     | 所在地 |
|--------------|--------|-----|
| (1) 漢拏山      | 1950 呎 | 漢拏山 |
| (2) 智異山(天皇峰) | 1915 呎 | 智異山 |
| (3) 雪嶽山(大青峰) | 1708 呎 | 雪嶽山 |
| (4) 五台山      | 1563 呎 | 五台山 |
| (5) 加里旺山     | 1561 呎 | 江原道 |
| (6) 太白山      | 1546 呎 | 江原道 |

3車線の所もたくさんあり、ワールドカップのためか、まだまだ工事中の所も多く見かけた。郊外に出ると、穏やかな丘陵地帯の所どころがピンク色に染まり、ツツジの花が真っ盛りであった。ところで、これらの丘で特に目についたのはたくさんの墓地である。芝生の原に点々と土饅頭が盛り上がり、墓碑が立つ。田畑になりそうな所が墓地になっていて、その数がありすぎる。これでは農業に差し支えるのではと思われた。また、都会でも農村でも教会の尖塔がたくさん目につく。一度に二つ三つと見えることがあり、キリスト教の広がりを感じた。京畿道から忠清北道に入り、中央高速道路の曾坪インターで降りる。道端の食堂で昼食をとる。外人など来ない一般食堂で、教えられた通り、「チャーイ、マガスミダ(おいしかった?)」と言ったら、店の女将さんがにっこりとした。もう少し話せば、と非常に残念だった。さらに歩いて飯井温泉に到着。炭酸水の温泉で、サウナもあり大勢の人で賑わっていた。びりびりと肌に刺激があり、有

名らしい。

道標に「俗離山」の文字が見え出す。何しろ目に入る文字はハンゲルばかり、何も理解できずにいたので、漢字を目にして安堵した。

きょうの泊まりは俗離山の少し手前の農村にある旅館。俗離山脈の支線の麓にぼつりと建っている。何か青少年センターを兼ねているらしく、小中学生の姿が大勢見られた。私たちは別棟の二階に案内される。部屋はオンドル式で、ほんのりと暖かい床に布団を敷いて寝た。

朝はひんやりと肌寒い。朝食を済ませて車を走らせる。車道の小さい桜並木は満開である。今年の日本は開花が早く、私が日本を出発するときにはすでに散り果てていた。

俗離山の入口で有名な正二品松が立派



食べ物や飲み物が売られている。背後の岩の上から縦走路を展望すると、谷を隔てた聴法台の岩峰がそびえ、急斜面を登る人が小さく見える。岩峰の連なりはすばらしい景観である。

ここから大きくくだり、また登り返す。その急斜面を見て少し大変だと思っただけ取りついてみるとさほどでもなく、聴法台を通過する。正面に文蔵台の岩峰が見えてきた。鏡餅のような円形の岩が突き出し、山上には大勢の人の姿が見える。すぐ下にはアンテナの鉄塔が立ち、手前の鞍部の山小屋の周辺には人々が群がっていた。

若いアベックや幼児連れの家族、中年の男女の姿も多い。日本のように中高年の姿は少ない。韓国の登山はまだまだ若い人の世界である。

鉄階段で頂上に登る。鏡餅状の大きな一枚岩で、周囲に柵が巡らされ、10坪くらいの広さがある。大勢の人で、自由に動けない。360度遮るものがない大展望。はるかに登山口の商店街が霞み、連なる岩峰稜線の先には、私の登りたかった天皇峰が穏やかな姿を見せていた。祝日のこととて、山小屋周辺は銀座並みの

な姿を現す。大臣並みの正二品の位を与

えられた松である。ここは有名観光地で、多くのみやげ物店や食堂が軒を連ねる。俗離山ホテルの手前で交通規制され、駐車場に誘導される。きょう4月5日は韓国の祝日(緑の日)で、土曜日・日曜日と三連休になり、行楽の人数が多いとのことであった。

公園の入口で入場料を支払い訊ねると、1等三角点の天皇峰は休山で入れないと言う。私が一番楽しみにしていた1等三角点は、断念せざるを得なかった。もっとも俗離山で一番有名なのは文蔵台で、一般の人々は俗離山といえば文蔵台に登るそうである。

公園内はよく整備され、各所にきれいなトイレ舎や案内板が立つ。法住寺の観光は後にして、川沿いの車道で登山口の洗心亭に向かう。水平の車道で、貯水池を過ぎてお寺のような売店を通り、40分程で洗心亭に到着する。ここで道は二つに分かれる。直接文蔵台に登る道と、神仙台・聴法台を経由する道である。また天皇峰の分岐点でもあり、入山禁止の標示が出ていた。例年3月1日から5月31日までと11月15日から12月15日とあり、

人々で埋まっていた。

私たちの登ってきた縦走路は人が少なく、たいていの人は直行ルートを登っている。下山はその道をくだる。まだまだ登ってくる人が続き、行き交うのも大変だ。こちらの道も結構急坂で、鉄階段が混じり歩きづらい。それなのに、幼児連れの家族の姿が多く見える。本当に山登りは韓国での一番のリクリエーションらしい。

登山口の洗心亭にくだと一段と人の群れが多くなる。山に登らずここまでの人もけっこう多いようだ。

法住寺を見学する。新羅時代に建てられた寺は仏教文化の面影があり、中でも33の青銅大弥勒菩薩像が突き出している。広い境内(現在補修中)に点在する彩色された建物群は、日本の寺とは違った趣がある。境内の一隅に湧き出る「甘露水」は、石灰岩質の山からの湧水で、大変うまかった。法住寺は韓国の名刹で、日本からの観光ツアーもある。

今回は私の目的とした1等三角点には登れなかったが、有名な山の一つに登れて大満足。山の様子もわかったので、天皇峰には1人でも来られそう。

山を休ませるためとある。

私たちは神仙台を経由するコースに入る。おおかたの人たちは文蔵台に直行のコースに向かうので、こちらの道は静かである。沢沿いの道はすぐに天皇峰の分岐になり、柵止めされた道には、ここでも通行禁止の文字が大きく書かれていた。

公園の管理は行き届き、腕章を捲いた女性が登山道を掃除している。山小屋を過ぎると沢を離れ、段差30cmもある急な石段が見上げるばかりに続く。たちまち息が切れる。そして最後は、これも急傾斜の鉄製階段が待っていた。急なだけに高度が上がり、稜線の岩峰群が突き出し、何しろ岩峰を登るので、日本の山とは異なる状況である。稜線に到ると、岩の上でコンロを据えていた青年の1人が、日本語で天皇峰から稜線を縦走して来た、と言う。私は気になっていた三角点のことを訊ねると、「ありましたよ」との返事であった。しかし、同行の温さんは、入山禁止なのに若い者は守らないと顔をゆがめていた。公園ではコンロも禁止されているとのことである。

神仙台の小屋でひと息いれる。簡単な

案内の温さん夫妻には大変お世話になった。(平成14年4月5日歩く)

#### ▲コースタイム▼

俗離山駐車場(20分) 法住寺(40分) 洗心亭(1時間30分) 神仙台山小屋(40分) 文蔵台(1時間10分) 洗心亭(35分) 法住寺

#### ▲登山コース案内▼

- (1) 法住寺→洗心亭→文蔵台→法住寺  
距離11・6km (所要時間4時間20分)
- (2) 法住寺→洗心亭→文蔵台→神仙台→慶業台→金剛谷→法住寺  
距離12・2km (所要時間5時間)
- (3) 法住寺→洗心亭→天皇峰往復  
距離12・6km (所要時間6時間)

#### ▲交通▼

- ソウルバスターミナルから俗離山行き(約3時間30分)
- ▲宿泊▼  
ホテル5棟。旅館・民宿多数あり
- ▲問い合わせ▼  
国立公園俗離山管理事務所  
大韓民国忠清北道報恩郡内俗離面 舍乃里205 ☎(韓国) 0433(42)5267

## 三木・社ルート

柴田昭彦

## 【三木・社方面ルート】

●神出旗振山(神戸市西区神出町東)は、ハイキングコースでよく知られた雌岡山の南西方向に位置する小高い丘(標高163・83の三角点)で、山頂西方の広場には忠魂碑が建っている。その南麓に最明寺があり、付近を茶山と呼ぶ。南西麓に山王神社がある。この山は、古代のノロン場だという(川口陽之「垂水史跡めぐり」)。須磨の旗振山から受けて、三木方面へ旗振り中継したという。

★『新修加東郡誌』(昭和49年)によると、雌岡山の近くに住む老人が忠魂碑のある丘の上での旗振りを目撃しており、須磨の旗振山からの信号を受け取って、城山

へ中継した場所と考えられるという。

★川口陽之「垂水史跡めぐり」(垂水区役所広報相談課、昭和50年初版)には、須磨「旗振り山」と明石「旗山」の解説があるが、神出「旗振り山」は載っていない。改訂版(昭和52年初刷、昭和54年2刷)には、最明寺の解説の末尾に、「この寺の北方の台地は『旗振り山』と呼ばれ、米相場の信号中継所でした」とあり、これが、神出旗振山である。ところが、第4次改訂版(昭和57年)では、雌岡山の中腹(神出中学校の北東)にある愛宕神社を「旗振り山」として紹介しており、最明寺の解説の末尾にあった先述の文は削除されている。どういいうわけで、旗振り

神出旗振山の山頂(茶山展望台)



場が茶山から愛宕神社に変更されたのか不明で、愛宕神社は北西側が遮られる立地なので旗振り場とは考えにくい。なお、神出旗振山から三木へは直接、信号を送ることはできない立地である。

★「史跡と坂のまち 神戸散歩」(神戸市、昭和53年)の垂水区最明寺の解説(270頁)に「この寺の北方の大地は『旗振り山』と呼ばれ、米相場の信号中継所だっ

た」とある。「垂水史跡めぐり」(昭和52年)からの引用と思われる。

★平成12年8月31日、筆者が最明寺の右側から北へ登ると、展望のない広場に出たが、片隅に神戸市貿易観光課が昭和54年に設置した展望案内板があり、20年ほど前は見晴しがよかったようだ。北側に出ると展望が開けていて、城山がはっきりと見えた。

★神出中学校の北西にも別の小さな丘があり、神戸市西区北部の住宅地帯では山頂に愛宕神社と記入してある。南から小川の西に沿い、中学校の校庭西端から登ってみると、山頂は草木におおわれて社は跡形もなく、嘉永年中の愛宕灯籠のみが残っていた。

★城山(加古川市志方町、中道子山城跡)は標高271・63の山で、旗振りの話が伝わっており、志方町の沼田家には昭和40年代まで望遠鏡があったという(新修加東郡誌)。「増訂印南郡誌」(大正5年)によると、維新前、魚橋山(北山奥山、1823)に中継所が出来て、城山を経由して、加東部へ通信されたという。

★『志方町誌』(昭和44年)によれば、本当の名前は中道子山で、俗に訛って

「ちゅうとすさん」とも呼び、城山と呼ばれることが多いという。赤松氏則が1380年代に築いた城跡として知られる。志方城山は1等三角点の山であり、松川良衛「兵庫三角点の山をゆく」(自費出版、1996年)のガイドには地元で有名な山として紹介されている。「播磨 山の地名を歩く」にも載っている。

★筆者は、平成13年8月19日、志方の城山に登ってみた。JR加古川駅から広尾經由細工所北口行きバス(1時間に1本)に乗り、城山登山口で降りて、登り40分下り30分である。本丸での広大な展望が、旗振りに最適な山であったことを裏付けている。登山口に駐車場があり、一般車は入れないが、途中まで舗装道がついているのは残念である。

★『歴史と神戸』第22巻第6号(昭和58年12月)には、山田宗作氏が『東播タイムス』(昭和30年)に載せた「三木の眼がね通信」の記事が再録されている。山田氏は、三木市の古老岡村覚治氏(三木市文化財保護委員)から聞いた話を神戸新聞に発表している。すなわち、明治20年頃、城山の頂上から手旗を振り、三木のほうでは美斐川ぶちの現在の中町(戸川年巴

氏宅裏)でこれをキャッチしていた。大阪から三木まで約十分で通報できたという。三木で遠めがねを据えて、信号を受信する人は、「眼がね屋」と呼ばれ、特別な技能者として珍重され、旅から旅へ遊び人の風体で渡り歩いていったという。ただし、小倉千尋氏の話によると、「眼がね屋」は代々その職を続け、今も子孫が現存しているので、旅人ではないということである。中町は現在の福井1丁目である。

★『増訂印南郡誌』によると、東神吉村折田山と神吉村東の裏山も、魚橋山からの信号の加東部方面への中継地点であったという。升田山は、105・133三角点から西方にかけての山塊である。東神吉町神吉の北東の黒岩山(132・53)には「裏山」という小字地名があるので、神吉村東の裏山に同定できるようだ。加古川市教育委員会生涯学習推進室文化財担当の岡本一士氏によると、神吉の古老にたずねても旗振りの伝承はないとのこととで、ある郷土史家は、旗振りは地元以外の人が行ったために記憶に残らなかったのではないかと言われたという。

★升田山については、加古川市の島田一

志氏のホームページ「山であそぼっ」のなかでレポートされている。一帯は、升田山古墳群と呼ばれている。昔は斗形山と表記され、「八十の岩橋」と呼ばれる岩盤があるという。すばらしい展望の開ける三角点から南東へだんだん急になる岩場を指しているようだ。なお、升田山はやぶ山であり、探訪する季節によって蜘蛛の巣に悩まされることだろう。

★西谷勝也『伝説の兵庫県』(のじぎく文庫、昭和36年。神戸新聞総合出版センター、平成12年復刊)には、明石市「かにが坂」(和坂)と加古川市「益気の八十橋」(斗形山、升田山)の伝説が載っている。和坂については本誌64号で述べた。「わかか」という読み方は本来は誤りだが、現在では適用している。

★川上博『神戸背山風土記』(神戸新聞出版センター、1983年)には「日岡山を経て、赤穂や岡山まで信号を送っていた」とあるが、加古川市教委の岡本氏によると、日岡山に旗振り伝承はないとのことである。姫路歴史研究会編『姫路の山々』(中島書店、1996年)によると、日岡山は、姫路市御着の南の火山(南山)、広畑区京見山に次ぐ、大和朝廷の烽火伝達地

なく、加東郡教育委員会(社町)の酒井隆昌氏によると「正規のルートを通る通信を、來住町でこっそりと横取りしていたのではないか、との見解もあります」とのことである。

★須磨園編『はりまハイキング』(神戸新聞総合出版センター、2000年)では168・3峰を緑山とするが、現地の道標や『関西周辺 低山ワールドを楽しむ』(ナカニヤ出版)のガイド記事、ならびに『播磨 山の地名を歩く』の山名総覧では、小野富士(197・7峰)を惣山とし、168・3峰は無名となっている。惣山(緑山)とは、村民共有の山のことである。入会山(入相山、入合山)、立会山ともいい、江戸・明治時代には日本の山のごくにも見ることができた(上杉喜寿『越前若狭 続 山々のルーツ』安田書店、昭和62年、134頁)。

●鳴尾山(加東郡滝野町・西脇市境)で旗振りが行われたことは、滝野町ふるさと研究青年部編『滝野町拾遺集1』(昭和50年)に見える。上滝野の藤本松太郎氏の口述によると「加東郡地方では、印南郡志方から鳴滝山へ中継されていたとのことですが、その後(明治四十年頃)城山か

点であったという。

★渡辺久雄『忘れられた日本史』(創元社、1970年)には、岡山方面への旗信号コースが地図に示され、落合重信『地名に見る生活史』(神戸新聞社、1981年)でも踏襲されている(本誌63号参照)。その出典である、岡長平『岡山太平記』(宗教文庫、昭和5年)には「黒金」ではなく、「黒金」になっていて、所在不明の旗振り地点である。筆者は、金ヶ崎を誤聞したものと推測している。黒金は加古川の船交通の拠点として発展した所で、神出旗振山と志方城山を結ぶ線上に位置しており、通信が行なわれた可能性はあるが、旗振り伝承については確認できていない。渡辺氏がどんな根拠によって「黒金」を「黒包」に変更したのか不明だが、あるいは、落合氏が資料を提供したのかも知れない。

★荒井・櫻井・佐々木・佐藤共編『日本史小百科 交通』(東京堂出版、2001年)には「米相場と旗信号」(240頁)があり、『兵庫県下手旗信号コースとマイロクウェーブコース』が『忘れられた日本史』から転載されているが、出典が明示されていない。

ら直接社取引所の櫛へ中継されており「した」とのことである(ただし、鳴滝は誤植で、鳴尾が正しい)。筆者は、次号で述べる水上ルートが開かれた間(明治中後期)だけ、鳴尾山の旗振り場が用いられたのではないかと考えている。

★『播磨 山の地名を歩く』には、鳴尾山が紹介されていて、西脇市駅の南西の板波の旭ヶ丘団地に、鳴尾山城跡への登山道の案内板があり、城跡まで徒歩30分、頂上まで徒歩30分であるという。

★筆者は平成13年12月26日、『播磨 山の地名を歩く』の記述をもとに、旭ヶ丘団地から鳴尾山城跡へ登ってみた。城跡のある愛宕山(176峰)の真東の麓にある団地内の登り口には「愛宕山道」とあり、西へ上がり、最後はジグザグに登ると15分ほどで山頂に着く。鳴尾山城本丸跡には愛宕神社が鎮座しているのので、愛宕山と呼ばれるのだろう。ここは鳴尾山塊の最北端のピークで、見晴らしがよい。尾根筋に縦走路がありそうだが、不明瞭なので、南方の10番鉄塔に向かう。水場跡が手前にある。鉄塔からの巡視路は下りとなり、谷に分岐がある。そのままくだればテニスコートの右側から平野

ない。また、旗振山と岩屋を結ぶ線が実線(マイクローウェーブコース)になっていて間違っている。巻末の参考文献には、『忘れられた日本史』と高橋善七『日本史小百科 通信』(近藤出版社、昭和61年)が見当たらない。岡長平『岡山太平記』(落合氏)『忘れられた日本史』、『日本史小百科 交通』と、岡氏の研究が今でも引き継がれていることは「忘れられた事実」とならないように指摘しておきたい。

★『小野市誌』(昭和44年)には、「來住の学校前の山上でその手旗の取次ぎがされていたのを見た人も現存している」とある。『新修加東郡誌』によると、小野市來住町と加古川市の境にある山に旗振り伝承が残るという。小野市役所企画課市史編纂係によると、学校の正門は南東を向いており、南西方向の168・3峰は「学校の前」とは言えないとのことである。南の安場山(156・3峰)か、南東の138峰の山(電波塔があり、展望良好。1988年、大阪―尾道のろしりレーの中継所に用いられたことがある)ではないかという。大正年間の『加東郡史』『來住村史』等には來住の山での旗振りの記載は

町に出るが、左をとり、9番鉄塔へ向かう。鉄塔からは少し登り、水平道となつて次の尾根(工場の東方)にのる。次の鉄塔は右下に見えるが、ここで左をとって東へ尾根道を上がる。不明瞭な道だが、登り切ると縦走路に出合う(北への縦走路も通れそうだが)。右(南)に向かってシグダシグしながら縦走すると再び明瞭な巡視路に出合う。ここに(1550-1554)の標識があり、三角点のすぐ北西の鞍部にあたる。道は三角点の西側をからんで続き、左手にやぶの薄くなつた所から入ると、ほとんど三角点に着く。城跡から35分ぐらいである。展望は南東が少し見える程度である。上滝野から登ったとすれば、旗振り場はここであろう。旗振りさんのたどったと思われる道はここから南に明瞭に続いている。すぐ下の鉄塔からは社町域は言うに及ばず、遠く雄岡山・雌岡山が並んでいるのが見えて広大な展望が開ける。南に続く道が東に向きを変えると線路沿いの道になる。三角点から20分ぐらいである。筆者は車を利用したが、西脇市駅から山に入り、滝野から帰ることができよう。ふりかえると、『播磨 山の地名を歩く』の解説は城跡のあ



愛宕山（鳴尾山城跡）

る愛宕山についてふれてあるだけで、三角点については、城跡から「頂上まで徒歩30分」と記すのみで、登山道の紹介もない。

★社町の田町（現在、社地区）にある法蓮寺の西の一角には、加東米穀取引所（上林正矩「商品取引所の知識」によれば、明治31年開設、大正5年閉鎖。市場は明治20年代には開かれていたようである）があった、

鳴尾山（後には、志方城山）から受信したわけである。受ける側の田町の旗振り場（櫓）では、俗に「めがね屋」といわれる、望遠鏡（長さメートル足らず）で察知する係があり、旗の動きをのぞき、伝声管で情報を屋内に伝え、仲買人の小僧さんたちが田町筋を大声でふれて走ったという（新修加東郡誌）。社町の上月輝夫氏の聞き取りによると、志方城山で振る旗を見て、大きなブリキのメガホンで櫓から下に伝えたという。

★社町の郷土史家、上月輝夫氏が老人会の求めに応じて書いたという、「ふるさとやしろ」（社町老人会、年代不明）の一文に「米相場と旗振り」があり、「大阪、西宮の甲山、六甲山、須磨の鉢伏山、神出の雄岡山、志方の城山、社」と伝えられたという。上月氏は、祖父（昭和41年没）の話と、西脇市の人（寸種をしていたという）から昭和50年頃に聞いた話から、内容をまとめたという（筆者が平成12年9月30日に上月氏から電話で聞いた話による）。明治17〜18年頃から旗振りが始まったという。電報があっても、戦の維持のために旗振りは継続され、大正2〜3年頃まで続いたという（明治28年以降は、雨や霧

の日には電報が用いられた。上月氏によると、米相場で大儲けをしたあとには、豪勢に芸者遊びを繰り広げたとのことである。桑名の夕市においては、女たちが相場師（殿さん、将軍）の袖にすがりついて、相場で儲けさせてとせがんだという話もある（桑名の民俗「昭和62年」。インターネットで「桑名の夕市」を検索すれば、「その手は桑名の焼きはまぐり」といった、お座敷の戯れ歌が拝見できる。なお、筆者の調査では、甲山での旗振り伝承は確認できないままである。六甲山は金鳥山、鉢伏山は須磨旗振山、雄岡山は神出旗振山と考えれば辻褄が合う。

★三草山（社町北東部、423・9㍎）でも、旗振りが伝えられている（新修加東郡誌）。しかしながら、加東郡教育委員会の酒井氏によれば、「田町は、受信はしたが送信したようなことはないとのこと」であり、社町の上月氏も三草山での旗振りについては、聞いたことがないという。聞き誤りであろうか。

★「播磨 山の地名を歩く」には、源平の古戦場で見られる三草山を紹介しているが、旗振りについての記述は見られない。南北朝時代に山城が築かれており、

見張り台にふさわしい立地であった。もしかすると、神出旗振山、志方城山、鳴尾山などから受信したのかも知れないが、裏付けはとれていない。

### 【さんしょう山について】

★本誌63号で、羽束山の北西にある旗振り山「さんしょう山」について述べた。その別称の「三四郎山」については、兵庫県郷土グラフ第三篇「神戸・六甲」（北尾敏之助著、兵庫県観光連盟発行、昭和25年）に次のように記載されていた（36頁）。「羽束山は行手にその秀麗な全貌を現し、主峰を中央にして、甚五郎、三四郎と名づける二つの峰が左右に位置し、さながら美しい兜を伏せたような形である。甚五郎も三四郎も、昔この山に立て籠っていた兇賊の名をそのままつけたもので、殊に大道甚五郎のことは、この辺の郷土史によく出てくる名である。三輪神社の三輪山を焼いて、いつさいの重宝を失ったのも彼れの所行だといわれている」。

この三輪神社は、大和の三輪神社に準じて建てられたもの（神戸・六甲）34頁）で、三田駅のすぐ北に鎮座している。

『季節の道（昭和39年）で「三四郎山」を紹介している伊達雄雄氏は、兵庫県郷土グラフの図版カットを担当されており、伊達氏が北尾氏の記事から「三四郎山」を採用したことがうかがえる。それにしても、甚五郎に比べると、三四郎の情報が少ないことがわかる。地元の名字には「さん志よう」「甚五郎」があつて、「三四郎」がないことも裏付けとなるだろう。

★『三田市史第三巻古代・中世資料』（三田市、平成12年）には中世城館「香下城」（香下字さん志ようほか）の資料があり（510〜5頁）、「羽束山は「サイショウ山」ともよばれ」と記載されている。これは、『有馬郡誌下巻』に500・5頁峰を「宰相ヶ岳」としているのを羽束山にまで拡大したもので正確ではないと思われる。なお、同資料にある「香下城位置図」等によれば、さんしょう山（500・5㍎）、羽束山、甚五郎山（431・8㍎）、394・9㍎峰（甚五郎山の東のピーク）に香下城の遺構が見られる。

★本誌62号の随想で、今津町の三重嶽の山名について考察したことがあるが、『日本山岳ルーツ大辞典』にある「産所

集落名からの発生名」（倉田正邦）という記述は見逃していた。森岡外の「山椒大夫」（安寿と男子王の物語）をきっかけに、柳田國男や喜田貞吉による「サンジヨ」の研究が大正期に行われ、最近では丹生谷哲一氏の研究（『編書房』1993年）がある。山名の語源を探ると、中世・近世に起源を持つものにたどり着く。三重嶽宰相ヶ岳、三四郎山はそういった事情から生れた山名なのかもしれない。慶佐次盛一「北摂の山」（『西部編』（ナカニシヤ出版、平成14年）には宰相ヶ岳のガイドがある。

### 【篠山市の畑山、三田市の感応寺山について】

★本誌63号でふれた畑山については、篠山市地域文化課の向井氏によれば、「三嶽の別称としてありますが、畑山の地名からきていると解されており旗振りの伝承はありません」（平成14年1月の返信による）とのことであった。なお、のろし山と呼ばれる山については、古地図に表示があり伝承も残るといふ。郷土史の先生方に問い合わせても、篠山市内には旗振り山に関する情報はないという。従って、



多紀連山では感応寺山から受信したというが、その地点は不明のままである。

★田岡香逸「日本神信仰史の研究」(民俗文化研究会、昭和46年)の「神山考」によれば、各地にある感応寺は、もとは「神の山」を意味した「感応寺山」に由来するものという。各地にカンノヤマ、コウノヤマなどがあるが、交野山(交野市)・神野山(山添村)・鴻志山(岡岡市)・豊能町)や旗振りの行われた神於山(62号)など、すべて神山を意味する山名である。旗振りの行われたという三田市の感応寺山(63号)も同様に神山と考えられる。一般に神体山とも呼ばれるのが新しい呼称で、古くは神山と呼ばれていた。野洲町の三上山が御神山であることはよく知られている。従って、西宮市の甲山は今ではカブトヤマと呼ばれているが、麓の神呪寺がもとは感応寺であったことから、本来は、神山(コウノヤマ)であったと考えられている(田岡香逸「西宮地名考」民俗文化研究会、昭和45年)。

### 【柳谷西山について】

●大阪府島本町の柳谷西山(向谷山、大沢山)が旗振り山であることについては

本誌57号と63号で紹介したが、文献に記載があるかどうかは不明であった。大阪府立中央図書館に所蔵されている、奥村寛純編著「水無瀬野をゆく―島本町の史跡をたずねて―」(郷土島本研究会、昭和63年)には、大沢山について、「近世では、大阪の米相場の変動を、この山上で旗の合図でうけ、それをさらにつぎにリレーしたとか、「旗振り峠」の話は今でも村人たちから耳にする。山上からの展望は、実にすばらしい」とあった。大沢集落で、今でも旗振りの話が語り継がれていることがわかる。同書によると、大沢山付近には、源義経や赤松則村(円心)の旗立峠の伝説があるというが、この伝承はもう地元でも消え、その場所もはっきりしないという。

### 【近江八幡での旗振りについて】

★本誌58号で、野洲町の相場振山(田中山)から八幡への取り次ぎをなしたことが、「鈴木氏家譜」に見えることを紹介したが、この「八幡」というのが、どこのことなのか不明であった。また、小脇山十三仏(岩戸山)は、木村至宏編「近江の山」(京都書院、1988年)の太



郎坊山の解説では、「紅かす山」または「おぼん山」と呼ばれ、山頂の岩座には紅白のターバンが巻かれているという。その岩の一つに刻まれた矢印は近江八幡市岡山方面を指しているが、具体的にどこを示すものなのか、やはり不明のままであった。

●滋賀県立図書館で、「近江八幡ふるさと」の昔ばなし(近江八幡市教育委員会、昭和55年)に「米相場師お蝶」という話があることを見つけた。それによると、近江八幡の長田町にあった五郎兵衛という米屋の主人の妻はお蝶といい、美人で、男まさりの米相場師だったという。

このお蝶は、慶応元年(1865)、堂島で旗振り通信が始まった時、米相場を長田村まで、大旗を振って早く知らせる方法を思いつき、大もうけをしたという。「お蝶は人を使って、大阪から旗でリレー

する場所を造り、時間を決めて大旗を次々と振らせました。そして、半日とたたぬうちに、大阪の米の値段を知ることができるようになりました。最後に旗を振らせられた場所は、鏡村の山の頂上でした。

この旗を見に行く役目は主人五郎兵衛でした。ちょうど五郎兵衛の裏の田んぼから、鏡の山を見通すことができます」とある。

★中島伸男氏の研究(蒲生野20)では、鏡山に旗振り伝承はなく、相場振山(田中山)が旗振り場であった。「鈴木氏家譜」の「八幡」は、今の近江八幡市長田町であり、小脇山十三仏(岩戸山)の岩の矢印は、やはり長田町を指していると考ええると、すべて辻褃が合うのである。相場振山で旗振りをした鈴木治平は天保3年(1832)に生まれ、明治13年(1880)に亡くなっている(中島、蒲生野22)ので、慶応元年頃に旗振りをしたのも治平であろう。長田町から見ると、鏡山の右側に相場振山が連なっており、お蝶は、鏡の山に含めて呼んでいたものであろう。

### 【日本テレビの番組について】

★平成3年6月14日の日本テレビの放送については本誌57・63号で紹介したが、番組名は調べていなかった。新聞各紙のテレビ欄によると、夜11時25分から放映された「TVMック謎学の旅」というドキュメンタリー番組で、「再現望遠鏡通信」「相場が走る・江戸望遠鏡情報台戦」とある。毎日新聞の当日のテレビ欄には「江戸時代の望遠鏡のナゾに迫る大高洋夫」と題して、望遠鏡をのぞいている写真も載っている。解説には次のようにある。「井原西鶴の『好色一代男』の中には主人公が奉公先の両替商で望遠鏡をのぞくシーンがある。この時代、両替商になぜ望遠鏡が置かれていたのか、何に使っていたのか、大高洋夫がレポートする。当時大阪・堂島には米相場、金銀相場がたち、両替大店商が支配していた。相場情報をいち早く握ったものが財を成すのは現代と同様で、情報合戦が盛んに行われ、旗を使った暗号と望遠鏡がその手段。この通信方法は明治三十年ころまで続いたという。」

★この紹介記事の前半は曖昧だが、朝日新聞の解説欄には少しだけ理由が書いている。「井原西鶴作『好色一代男』の主

人公、世之介の奉公先である両替商、春日屋には、なぜか望遠鏡があった。遊び人の世之介がこれを使ったのはのぞきのためだが、春日屋は望遠鏡を何の目的で使ったのか。望遠鏡の歴史を追いながら、なぞを解く。」

★『好色一代男』は1682年の作であり、京都春日屋の望遠鏡が旗振り通信に用いられたという証拠はない。一般庶民にも望遠鏡が親しまれるようになってきたことを示すものと考えられている。春日屋はみんなに見せびらかして自慢したかったのだらう。『好色一代男』の話は、本誌62号で紹介した名著、白山晴也「眼鏡の社会史」(ダイヤモンド社、平成2年11月)に載っており、この中の「米相場と望遠鏡」の記事をきっかけとして、このテレビの企画が立案されたのであろう。

(つづく)

(平成13年4月17日成稿・9月20日補訂)  
(平成14年3月2日追補)

★参考概略地図は前号を参照ください。

## 奥伊吹の山、ブンゲンへ

湖北

## 磯部 純

岳友の3人で歩くのは、前年10月に水木野に行つて以来だから、11ヶ月振りということになる。

この日登る山は伊吹山から虎子山へと続く尾根の北方に位置し、滋賀県・岐阜県の県境にある「ブンゲン」。滋賀県の山のうち、三角点の高さで見ると、伊吹山・金鷲岳・白倉の頭に次ぐ第四番目の高峰である。と言っても、登山口の奥伊吹スキー場が高所にあり、登るルートがグレンデなので、そんなに高い山に登ったとは思えなかった。

「ブンゲン」という山名は、近くにある「ブンゲン谷」に由来する説や、この山の花崗岩中にウラン、希土類の元素が

含まれていることから「ブンブン」と呼ばれていたのが、「ブンゲン」に変わったという説がある。別称の「射能山」も、大垣山岳協会の藤井氏が北伊吹鉱山事務所で収録して、この名称を紹介したことからそう呼ばれるようになったと聞か、今では「ブンゲン」の山名が定着しているようだ。

北陸自動車道米原インターから国道21号線を東へ走り、醒ヶ井の先で左折、県道19号線に入る。野一色東から伊吹山の西麓を通り、山東本巣線を奥伊吹スキー場へ向かう。

30年程前、スキーに行くときにこの道を通ったことがあるが、最近では通ったこ

ブンゲン山頂の三角点



とがない。以前には姉川沿いの狭い道をくねくねと曲がりながら走った記憶があるが、今では道幅も広がって歩いて走りやすい。

甲津原を過ぎ、新穂峠への道を分岐して右へ走ると、最奥が奥伊吹スキー場だ。私の記憶とは違って、初級から上級者までが楽しめるように、広いスキー場へと変わっていた。

奥伊吹第一ロッジ前の広場へ駐車する。準備を整え、右手のグレンデにある広い道をリフトに沿って登る。冬には色とりどりのスキーヤーでいっぱいのはグレンデも、この時期では全く人影はなく、スキンの原と化していた。天気はまあまあだが、これから歩く右手県境の山々は、ガスにおおわれて見ることができない。道脇にはハギ・イヌタデ・ツリフネソウ・

ツキミソウ・シシウド・ミゾソバの花がいたる所に咲いている。タンポポも花を開いていて、よく見ると、珍しくも在来種のカンサイタンポポだった。

シャクナゲグレンデにある二本目の第8ペアリフト降り場で休憩。初心者用のゆるい斜面だが、歩いて登ると息が切れる。夏と違って9月半ば、風が冷たくて思ったほどに汗は出てこない。リフト降



ブンゲン付近略図

り場正面の壁には、赤ペンキで「しゃのやまへの近道」と書かれてあった。「しゃのやま」とは、もちろん射能山のこと。近道は右手の天狗岩滑降コースを登るのだらう。2人はそこを登ろうと言ったが、初志貫徹、予定通り品又峠へ向かった。

山裾を流れる小さな谷の水音が心地よい。尾根を廻り込むと、自然のいたずらか、大岩に四角に開けられた穴から谷水が滝となって流れ落ちていた。グレンデをつめ登っていくと、第6リフト乗り場そこが品又峠だった。このあたりに百もの池があったことから百池峠とも呼ばれている。この峠には近江から美濃へ越える古道があるはずだが、それらしい道を見つけないことはできなかった。

峠から少し北へ登り、4等三角点へ寄ることにする。このピークは日の出山と呼ばれる、山頂には展望台が建てられている。その足元に4等三角点、点名「品又峠」があった。向きは南向き。北面に040、東面に基点、西面には国地院と彫られ、四つの保護石に守られていたが、標石はカヤ原のなか。だからから見捨てられた存在だった。

展望台に登ると北から東へかけて一望

できる。ただ、この日は残念なことに、目の前に見えるはずの金鷲岳も、ガスに霞んで見ることができない。目を転じて南を見るが、山の上は雲のなか。これからたどるリフト沿いの県境尾根には道らしきものは見当たらない。そこで、やぶ漕ぎを避け、ブナ平グレンデの第7リフト降り場まで滑降コースを登ることにした。

コースは荒れていて、斜面もかなり急だ。たちまち汗が流れ落ちる。だが、県境尾根であるリフト下の斜面を登ることを思えば、はるかに楽にちがいない。すると、どうしたわけか、いつも先頭を歩く保田君が遅れがちだ。今年は山へあまり行っていないと言っていたので、トレーニング不足なのだろうか？ イヤイヤ、ここまで二回も雉打ちに行ったので、腹の調子が思わしくないのかもしれない。コースを登り切り尾根へ着くと、あたりは霧で白一色。10分の先も見ることができない。尾根はこのあたりで微妙に入り組んでいるので、勘で歩いてはどこへ行ってしまうかわからない。霧に視界を遮られていなければ、迷うような尾根分岐ではないはずだが、確実に尾根にのる

ために、まず、基点の第7リフト降り場まで行き、地図と磁石で方向を定めて進んだ。のった尾根には背丈ほどのササが繁っていて、前夜の雨でササはビショビショ。迷わず雨具を着用し、尾根に付いたササの密生したなかの踏み跡を、足探りて進んだ。

いったん、高度20リフト程下り、登り返すとササがなくなり、しっかりした踏み跡が現れた。少し進むと、その踏み跡はV字状にターンする。あたりが全く見えないう状態では、別の道を先程のリフト降り場へ引き返しているような錯覚にさえ陥る。地形図で確認するとヘアピンの尾根だった。地形図で見ると上に鋭角にVターンしていたのである。

次のピークまで登ると霧がいくぶん晴れてきて、あたりの地形を見渡すことができた。地形図そのままの姿で谷を挟んですぐ目の前に、先程思案したリフト降り場があったのである。ササがなくなり、あたりはミスナラやブナの林。踏み跡もすっかりと付いている。視界はあまりよくないが、味気ないゲレンデ歩きや、やぶ漕ぎから開放され、深山を思わずブナ

そんな感慨に浸っているのも束の間、ピークを廻り込むと開けた所に出た。そこは標高1226.6リフトのピークで、スキーリフトの終点。県境尾根にまでリフトがのびていたのである。もちろん、このリフトは持ってきた地形図には載っていない。このあたりの木々は切り取られ、ちょっとした展望の良いピークであった。いつしか霧も上がっていたが、ブンゲン山頂はいぜん雲のなか。一方、金鷲岳はクッキリとその姿を現してくれていた。

この場所からブンゲンに向かう尾根には、しっかりと道が付けられていた。ササが刈られ、切り株で歩きにくかったが、やぶ漕ぎすることを思えば最良の道といえてよい。道の両側には何本ものナナカマドが立ち並び、実も赤く色づき始めている。もう少し秋も深まれば、見応えのある紅葉の道になるにちがいない。次のピークには花崗岩の大岩があった。その上に立つと展望は最高。この大岩は『近江百山』『近江の山を歩く』の書物の地図に載っているが、いずれもその位置が違っているようだ。二つの本の地図に大岩と書かれている場所は、標高1226.6リフトのリフト降り場があるピークで、

実際の大岩はその一つ西のピークにあると読んだのだが……。

さらに二つのピークを越えるとブンゲン(1259.7リフト)山頂。それまで見えていた山頂へ登り着くと、それを待っていたかのようにガスが出てきて視界を閉ざす。本来なら、南に虎子山、その奥に伊吹山、東には月山、蕎麦粒山。北には目の前に金鷲岳が横たわっている光景を堪能できるのに、あたり一面、白一色。残念なことにも見えない。

広場の北には、だれが付けたのか山名標識が二枚。その一つには「斜能山」と書かれているではないか！間違っって表示されているとその標識を破壊しようと思っただけ、ポールに打ちつけられていてはずせない。やむを得ず見えないよう



ブナ林の北西尾根をくぐる

尾根はブナの自然林で、深山に登ったというムードがいっぱい。最初の小さなピークまでくぐると、このときになって初めて陽が差してきた。振り返って山頂を見上げると、木々の間からガスの晴れた山頂が見えるではないか。もう少ししゅっ

会が掲げた「ブンゲン」の標識をバックに登頂記念を写す。

さて、三角点は？と探すと、深い霧におおわれた広い山頂の真ん中に立っていた。点名「大岩谷」である。向きは南向きで、傷のついていないきれいな標石だった。その姿を写真に撮り、これでセレモニーは終わり、昼食にする。木をざわつかせるほどに風が強くなり、雲の流れも速い。汗に濡れた体には防寒具を着ても寒さはいちだんと身に滲みる。

下山路は山頂から北西へのびる尾根をくぐる。道のないやぶ漕ぎになると覚悟してくだったが、ありがたいことに踏み跡が残っていた。山頂直下のササ原ではやや苦労したが、尾根にのるとササも少なくなり、踏み跡もはっきりしてきた。踏み跡の脇には、ムラサキアブラシメジモドキが顔を出している。それを眺めながら採る。

▲コースタイム▼  
奥伊吹スキー場ロッジ前(50分)品又峠(5分)日の出山(40分)第7リフト降り場(1時間)大岩(20分)ブンゲン(1時間15分)大長谷(20分)ロッジ前  
△地形図V2万5千横山

くりとしていたなら、大展望が望めたのかも少しなかったのだが、残念！唯一の救いは、下山間際にガスの切れ目から雄大な伊吹山の姿を瞬時とも覗き見ることができたことだったろうか。  
尾根にはホツツジの白い花が咲いていて、はや山栗のイガが口を開けて落ちていた。9月に入っただばかりだというのに、山はすでに秋たけなわだ。  
急斜面を大長谷へくだる。途中、足を滑らせて転び、突いた肘が痛む。谷へくだったからの道はわかりにくかったが、「若竹荘」と書かれた標識の道をとらず、谷沿いの道をくだると奥伊吹スキー場手前の大駐車場へと出た。  
ロッジ前広場に置いた車へ戻り、ロッジで飲み物を調達。ささやかな反省会を楽しんだ後、京都へと車を走らせた。  
(平成12年9月15日歩く)

オリジナルグッズ  
登山用品専門店  
山と山道具のアドバイザー

中型ザック紹介

◆ワイルドミユウ◆

## 神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

IMOCK.  
KOBÉ

イモック山遊行くらぶ

9月8日(日) 兵部名山シリーズ  
阿瀬溪谷～蘇波岳(1074m)  
10月13日(日) 大野山系  
観音峰(1347m) 詳細はお問い合わせ下さい。

〒653-0039 神戸市長田区日笠町17番1号  
カフゾビル2F  
TEL (078) 621-5851  
FAX (078) 621-3528  
■営業時間/10:00-20:00 ■定休日/日曜日

山小屋2～3泊。シンプルで、フロントポケット、重量にも耐えるようにシングルプレートフレームを内蔵し、アクティブな山行に最適。立体裁断で身体にフィット。

\*カラー ファインレッド×モノクロ  
ネイビー×モノクロ

\*容量 40ℓ  
\*重量 1800g  
\*素材 高密度ナイロン  
\*価格 ¥16,000

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第33回)

## 山形氏と東北・北陸地方への山旅

坂井久光

平成7年8月21日から山形氏と彼の未踏の東北地方の1等三角点峰への山旅に付き合った。私は再度であるが、同じ山でも全く新しいコースからの登頂もあり、参考になると信じるのでその記録を発表する。

21日の夜は北陸道米山サービステリアで車泊。

22日、二王寺岳(2等・1420m)に再登を試みるも、雨のため途中で引き返し、二王寺温泉に入浴し、駐車場で車泊。

23日、二王寺岳に登頂後、北上して朝日温泉に入浴し、道の駅「温海」で車泊。

24日、5時40分出発。鳥海山駐車場7時30分〜50分。新山(鳥海山)11時30分〜43分。七高山(2229m)登頂12時05分〜25分。駐車場に16時20分帰着して車泊。

25日、6時10分出発。田代山の家11時17分〜35分。田代岳(1178m)登頂14時05分〜30分。上部は沢登りになった(登りのち小雨)。下山後、長湯温泉に入浴し、道の駅「蘭果」で車泊。

26日、7時50分出発。登山口10時33分〜50分。尾根道。中岳(1024m)登頂12時45分〜13時10分。登山口着14時35分〜15時07分。その後田山温泉に入浴して、阿比高原で車泊。

四ツ滝山(点名桂川岳)にて



27日、高倉山へ向かったが、雨のため引き返し、トピア温泉に入浴後、荒屋新町の村上旅館(昭和61年泊)に泊まった。

28日、9時45分出発。黒森林道の峠手前の登山口(標識あり)10時22分〜11時35分。高倉山(1051m)登頂12時45分〜13時。登山口着13時45分〜14時。綿帽子温泉入浴。生出キャンプ場で車泊。

29日、6時15分出発。キャンプ場登山口7時50分〜8時。大駒ヶ岳10時〜10分。三ツ岳(戸米岳・1159m)登頂11時〜30分。大駒ヶ岳12時15分〜25分。登山口14時。三ツ岳は西方から刈り込みあった。新郷村キリスト墓地から新郷温泉に入浴して入浴。生出キャンプ場で車泊。

30日、6時05分出発。キャンプ場7時37分〜45分。林道駐車8時25分。矢槍山(564m)登頂8時55分〜9時25分。駐車場9時38分。野辺地経由むつ市釜臥山登山道路を行くと、工事中でやむなくスキーマの駐車場に車泊した。

31日、5時45分出発。展望台6時40分〜50分。釜臥山(879m)登頂7時47分〜8時10分。スキー場9時25分〜10時15分。十符海水浴場で車泊。

9月1日、7時出発。野辺地から薬師野で左折し、清水川沿いに走った。宗教法人の大和山を經由し、峠を越えて小川目沢にくだり、月光滝(御岳岳団)から(8時30分)沢コースを登るもひどく茂っていた。中腹からやぶ漕ぎして最近伐採された東岳(648m)へ登頂。昔、私が登った頃はネマガリダケや雑草のやぶで、30分も探してやっと見つけた三角点だった。撮影して少憩後、尾根筋を下山

するが、少しはずれた東の大清水沢出合にくだってしまった(13時)。浅虫温泉に行くと入浴後昼食をとり、馬ノ神山(549m)登頂16時45分〜55分。下山後、林道の広場で車泊。

2日、5時40分出発。津軽半島の東側を北上。蓮田村の阿弥陀川沿いの林道を西進。大倉岳登山口駐車7時17分。川を渡って尾根筋を登り、小屋を通って前山のコルをくだり、急坂を登ると、社のある大倉岳(677m)に登頂9時〜25分。良い道でヒバやブナ林の山道も手入れされていた。登山口10時37分〜11時02分。国道を海岸沿いに北上。根岸の不老不死温泉に行くと入浴。その後さらに北上し、平館燈台のキャンプ場で車泊した。

3日、7時43分出発。野田から才沼林道を上り、滝の上で駐車8時20分。林道終点8時38分。才沼に行き、茂ったやぶ道を探しながら登って鳴川岳の稜線に出て登山道に合した。鳴川岳9時05分〜カモシカ乗越10時40分。青森銀行の標柱までやぶ漕ぎで登り、沢筋をつめ、ネマガリダケの切り開きの茂みの下をくぐった。りかき分けたりして登り、丸屋形山(7

18m)登頂11時53分〜12時20分。山形さんもやぶ山の難峰を登って満足そうだった。下山は、鳴川岳13時10分。駐車場14時20分〜15時15分。不老不死温泉入浴後、蟹田キャンプ場で車泊。

4日、6時10分出発。半島を西へ横断して十三湖岸の相内から北へ。桂川を通り四ツ滝山道をつめ、広場で駐車8時。登山道標がある。谷へくだって渡渉して対岸のブル道を登り、登山道との分岐の二股8時40分〜50分。よい道がブナ林のなかについており、快適に登り、四ツ滝山(670m)登頂9時17分〜37分。周囲のネマガリダケは切り開かれて小広く、展望もよい。昔、私は西からやぶの尾根筋を苦労して登ったが、やぶがひどくて標石は確認できなかった。2人で感激の握手。駐車地に10時25分に戻り、国道を南下。金木町で岩木川を渡って右折し、日本海岸の屏風山(1等・55m)の稲荷社のある丘上へ12時40分〜50分。海岸を南下して深浦町のゆとり温泉で入浴後、行合岬キャンプ場で車泊。

5日、5時48分出発。樹形山への母沢林道を上るが、2人入った所でトラックが路肩に落ちて不通。やむなく引き返し、

南の追良瀬川の支流沿いのオサナメ林道（昔私が登ったコース）へ向かったが、母沢林道への峠道が廃道と化していた。送電鉄塔まで行って引き返した。国道に出て南下し、黄金崎不老不死温泉に久しぶりに入浴した。上に新館が建っていた。行合岬のキャンプ場に戻り車泊。

6日、5時55分出発。轟木駅近くの母沢沿いの林道を奥に進んだ。きのうのトラックは引き上げられたのか姿はなく、ブルの跡があった。林道終点駐車6時30分、45分。周辺は小広く、左には通行禁止の林道への分岐があった。この林道が「点の記」にある樹形山への登路で、草が茂り水溜まりも多く荒れている。上り下りの約3・5kmを歩いて終点着7時41分、47分。先もブル道が続く、やぶはなさそうだ。林道の先で尾根筋の急崖への切り開きがあり、標識があった。ネマガリダケの切り開きを急登し、なおも密集に一条の切り開きが続いていた。1時間30分かかってやっと樹形山（820m）登頂9時、25分。山形氏と感激の握手を交わし、三角点を撮影。昔、私が南からやぶ漕ぎして登ったときは、一本のシラカバが立っていたが、今はない。不思議

に周辺一帯には立木がなく、この木がただ一本だった。標石を見るのは今回が初めてである。往路を下山して駐車地11時07分、20分。またゆとり温泉に行き入浴と昼食。午後は国道を日本海の風光を見ながら南下。深浦・岩崎を通り、白神山麓の秋田・青森県境の八森町に百名水「殿の水」の道の駅があり、休憩がてら名水を味う。能代で左折し、大館から高速度で花輪に出た。地蔵岩で右折し、南下して志張・銭川温泉を通り、アスピーライン入口の無人ドライブインの駐車場で車泊。

7日、6時53分出発。朝からガスがかかり展望はゼロ。頂上駐車場に7時57分着き、八幡平（2等・1614m）へ行った。当時、一次基準測量のため、名古屋の下請会社玉野綜合コンサルトの社員2人がテントを張って、朝からトランシットを標石に立てていたのに出会い、山形氏が男鹿半島の本山（1等三角点・715m）の標石のことを訊ねた。「現在測量中で、無事自衛隊の敷地にある」というので、下山後、国道341号線を通り、玉川から上比内内に出た。山間の上り下りのカーブの多い道で、さすがの山形さ

んもお疲れの様子。185号と7号と101号線を経て、やっと男鹿の航空自衛隊に着いた。入山許可を得たが、山頂付近の道路決壊のため車輛不通の工事中で案内できず、工事が終わり次第案内することだった。今回は標石を拝見できずだった。天王パークで車泊。

8日、5時24分出発。日本海沿いを南下、途中、道の駅「温海」で休憩。風ヶ崎の南の府屋で左折し、大川沿いの車道を小俣に行き、1時間登って、日本国2時間コースを1時間で登って、日本国（2等・555m）登頂11時02分、35分。山小屋を新築中で、昔とすこし道の様子も変わっていた。崇峻天皇の第一皇子皇子皇子が登られ、都の方向を望見されたのが山名の由来とか。付近に日本国という集落もあり、当時の朝廷の勢力圏がこの付近まであった証拠といえよう。また、戊辰戦争の遺跡のことも書かれていた。小俣へ下山後、朝日まほろば温泉に行き入浴。昼食をとってから、小国町を経て長井市の奥、木地山ダムの下手に駐車して車泊。

明日は合地峠へ。（次号へつづく）  
（文中の太子は今回登った1等三角点の山を平す。）

## 西国巡礼道を榎尾山へ 父鬼街道と松原越

コースタイム 東北高速和泉中央駅（バス30分）父鬼（5分）八坂神社（50分）大岩林道終点（1時間20分）七越峠（20分）三國山（30分）平本杉峠（1時間30分）熊野寺（25分）榎尾山（バス30分）和泉中央駅（バス45分）泉大津駅（徒歩13分、5時間）

### 中村敏文

の難所は近世の道よりずさんでいる。

① 父鬼街道（堺市鳳から和泉市父鬼）  
明治二五年の大阪府統計書に初見する。仮定線道の父鬼街道は、堺市鳳町長承寺の小栗街道から分岐して和泉市父鬼に至る道で、明治の新道は父鬼の集落南端からやや西廻りで、鍋谷峠を越えて伊都郡平村へ通じた。一方、旧道は標高835mの七越峠を越えて灯明ヶ岳の中腹を掘越観音へ詣で、または西国三番札所の粉河寺や高野山金剛峯寺参詣の問道であった。

明治の道は一部変更されたり改修され、鍋谷峠越の国道480号線となっているが、七越峠越の旧道は山籠りが大岩林道工事で完成したが、峠までの2・5km

② 八坂神社（和泉市父鬼町）

和泉中央駅前発のバスは国道480号線を半時間ほどで終点の父鬼へ着く。バス停から東側の石段を上がると、旧横山村父鬼の氏神、八坂神社が鎮座する。案内板には文武天皇の大宝二年（702）に武威高き素戔嗚尊命を祭祀したとある。皇室に反抗する人々、即ち鬼の住む土地を鎮めるための社で、この地を父鬼とする。

八坂神社の隣の桃林山観音寺は昔は行場で、街道の少し先に役行者坐像がある。

七越峠越の大岩谷沿いの道



父鬼川流域の横川谷は奈良時代からの横山庄で、文武天皇や光明皇后の伝承説話がある。国分寺町の国分寺は智海僧正と女鹿にからむ光明皇后生誕地といわれ、仏並町には五瀬命と横山郷支配者の五十瓊敷入彦命をまつる男乃宇刀神社がある。横川郷の惣領守で明治の郷社となり式内社に比定される。大野町の阿弥陀寺は光明皇后御平産勅願所であったと伝

承される。

③ 大岩谷の父鬼街道（父鬼町の山地）  
バス停から舗装路を少し南へ行くと左上に薬師堂がある。国道から左へ離れ、鍋谷橋手前の分岐路を左へ行けば宮の谷林道で、千本杉峠に通じる。分岐路を右にとって大石橋を渡れば父鬼街道を拡張した父鬼大岩線林道である。右手に畑を見て川沿いを歩いて雑木のなかへ入ると、宮の谷への細い山道が分岐する。楠の根元に「右しもかわ左かうや ほりこし」と刻んだ道標と、享和二年（1802）銘の七越峠越街道造成時の「道造供



父鬼から松原越・楨尾山付近略図

養塔」がある。堀越観音と西国霊場粉河寺と高野山への七越峠越の参詣路を示している。  
大岩谷の溪流沿いに50分、バス停から3分で林道は終点となり、右手の杉の植林地帯の急坂を1時間余り登ると、右側にスキ原が広がる支尾根に着く。右前方に経塚山、左前方に三国山など和泉山脈の山々を見ながら20分余りも尾根を南へたどり、七越峠へ到着する。

④ 七越峠（父鬼・かつらぎ町の境界）  
峠の名称については、和歌山の海岸から七ツ目の峠にあたるという説や、父鬼側の曲折を繰り返す険しい登りから付けられた峠名という説もあるが、いずれも不詳である。  
昭和初期まで営業していたという茶屋跡に「七越峠茶所跡」の大きな石碑と石地蔵がある。瘡がなおるといって堀越観音と高野山詣での泉州か

らの間道で、西国三番札所の粉河寺と四番札所施福寺を結ぶ最短距離の巡礼道として古くから利用され、近世の峠は賑わっていたという。  
西行の「山家集」に「熊野へ参りけるに七越の峯の月をみて詠みける」の詞書付きの歌碑がある。「立ち昇る月のあたりに雲消えて 光かさめる七越の峯」  
峠から西南2kmの国道480号線の鍋谷峠へは三国山レーダー基地建設時に林道が完成し、峠から東北1kmの三国山へは宿山（866m）山腹を抜けて林道が通じる。松原越の旧道は七越峠から宿山・三国山へと標高800mを越える尾根を通過していたが、林道の開通で途切れてしまった。

⑤ 三国山（父鬼・河内長野市滝畑）  
和泉・河内・紀伊の三国にまたがる三国山へは七越峠から20分を通じる。886mの山頂は乾（北西）方は和泉国、良（北東）方は河内国、坤（南東）方から興（南西）方へかけては紀伊国で、三国の境にそびえる一乗ヶ岳ともいわれ、四圍の展望の優れた山であった。現在は山頂南西方の尾根に対空監視基地が建設さ

れ、レーダー受信所やドームの近代設備が自然を圧倒している。

⑥ 松原越・千本杉峠（父鬼・滝畑）  
三国山の林道終点から東北へ四十五丁（約4.9km）といわれる松原越の巡礼道へ入る。西国巡礼道の粉河寺から東へ廻って穴吹川を溯り、七越峠へ上って宿山・三国山へと850m前後の和泉山系の尾根道を上り下りして楨尾山の急坂をくだる巡礼道は、醍醐寺から岩間寺への山越え同様の難所であった。  
三国山から半時間で父鬼から宮の谷の急坂を上がってくる千本杉峠に着く。宮の谷の間道は父鬼から滝畑と施福寺への最短距離だが、道幅狭く急坂も多いので利用者が少なく、峠まで1時間はかかるだろう。休み場もない峠は松原越沿いに巡礼道の名残を留める古い石像だけが目につく。

千本杉峠から2km余りの尾根道は上りの少ない道だが、楨尾山にかかる1km余りは道幅も細く、山の中腹を横切っていくので歩きづらく、峠から1時間半もかけて施福寺へ到着する。

⑦ 楨尾山施福寺（和泉市楨尾山町）

楨尾山は601mの広い山地で、近世は施福寺の寺領で朱印地であった。寺蔵の重文「楨尾寺縁起」によれば、欽明天皇の飛鳥時代に天皇の勅願により、播磨の人行満が開創し、宝亀二年（771）には播磨国の法海が移住したとある。

次いで役小角が法華経一部八巻二八品を書写し葛城の秘所に納め、当寺には巻尾の一品不脛品を納めたことある。寺名の由緒は法華経の最後の巻を埋めたゆえ巻尾寺から楨尾寺となったという。

慶雲三年（706）には行基が登山して懺悔秘法率塔婆を建立したとも伝承されている。伝承説話の草創期の寺はさておき、当寺は葛城修験道の行場として発足し、奈良時代には道場や僧坊が整備され徐々に寺観が整えられたと思われる。

平安時代には高僧が当寺を訪れ、帰唐後の空海も四年間は当山で修行したという。観音霊場巡拝も普及し、行尊の「十三所巡礼手中記」では長谷寺より始まり七番、覚忠の「巡礼記」では那智山より始めて八番、当寺は初めから西国三十三所に選ばれ、平安後期には西国四番札所に固定される。

南北朝の争乱では松尾寺とともに終始南朝方として戦い、敗北して寺運も衰えた。応仁の乱では細川晴元の反対派細川氏綱の西軍に与して立ち廻り、河内畠山勢や根来衆も当寺に立てこもっている。  
戦国末期には織田信長に反抗したが、焼き打ち令を恐れて寺僧の大半が退散した。また、豊臣秀吉の根来攻めに敵対し、岸和田城主中村氏らの攻撃で大きな被害を受けた。

慶長八年（1603）から豊臣秀頼の援助を受けて寺の再興に着手するが、寺領は楨尾山六石であった。徳川幕府も寺の再興に援助を継続し、庶民層の信仰圏も拡がり、最盛期の元禄年間には寺内に八〇余りの坊舎が林立していたという。  
弘化二年（1845）の山火事で堂宇の大半を焼失し、西国四番札所として寺を維持してきたが、現存の本堂・大師堂・護摩堂などは安政以降の建造物で、秀頼寄進の仁王門のみ桃山時代の建築である。

本堂から曲折の多い階段混じりの参道1kmを10分余りでくだると、楨尾山バス停である。和泉中央駅へは30分、南海泉大津駅へ40分余りである。

ありとおし  
蟻通神社に紀貫之を訪ねて

松永恵一

紀貫之の伝説

「枕草子」第二百四十四段。  
蟻通の明神。貫之の馬が病気をした時、この蟻通の明神様の祟りだというので、歌を詠んで奉納したというのが、実におもしろい。

「貫之集」「俊頼髄腦」は伝える。

貫之は馬に乗ったまま、和泉国の蟻通明神の御社前を、闇夜だったのでそれとも知らず通った。馬が突然倒れ死んでしまった。意外なことに不審に思い、松明の光で周囲を見てみると神社の鳥居が見えた。「どういふ神様がいらっしゃるのですか」「御祭神はありとおしの明神と申し上げて、何かにつけて咎めだてをなさることが多い神様です。もしかして乗

馬のままでお通りになったのではないか」「その通りです。この闇夜で全く知らずに馬に乗ったまま通ってしまったのです。どうしたらよいでしょうか」

神官は神憑ったような様子で、「お前は、私の前を無礼にも馬に乗ったまま通った。当然、知らないで通ったのだから許すべきであらう。お前は和歌の奥義に達した者である。その極意を顕わして和歌の道の神髄を歌に詠むことができるならば、馬は必ず蘇生するだろう。これが明神の御託宣である」と言った。

貫之はただちに沐浴して身を深め、歌を詠んで御社殿の柱に貼りつけて丁寧に参拝した。しばらくの時が過ぎると明神がこの歌に感応なさったのか、倒れてい

蟻通神社参道



た馬が起き上がった、身震いをして高くないで立った。神官は「明神様がお許しになられた」と言って、神憑りの状態から覚めたということだ。

雨雲の たち重なる 夜半なれば  
神ありとほし 思ふべきかは

雨雲が幾重にも空を蔽っている夜半だったので、蟻通の神様がいらっしゃるとは迂闊にも思いもありませんでした。お許しください。  
〔俊頼髄腦〕

蟻通伝説

「蟻通」の名前の由来を「枕草子」第二百四十四段は、打聞のまま紹介する。昔ある帝が、若い人だけを寵愛になって四十歳以上になった人は殺しておしまいにいった。人々は遠国に行って身を隠したりなどして、都の中に年寄りはいなくなつた。親孝行者であつた中将はひそかに家の地を掘り、その中に両親を隠し世話をしていた。この親はたいそう賢明で博識だったので、この中将も若いがいそがしく評判よく、思慮ある利口者で当時の権勢ある者として、帝も御寵愛になつていらした。

唐の帝は、この国の帝を何とかしてだまして討ち取ろうと思つて、しよちちゅう智恵だめしを仕掛けてきた。ある時、つやつやとした丸く削つた二尺ほどの木を、「この木の根元と末はどちら」と聞いてきた。全然わかるはずもないので、帝はたいそう頭をお悩ましになつた。この中将はお氣の毒に思い、親のところへ行つて「実は、これこれのことがある」と言つたと、父親は「流れの速い川に立つたまま横に投げ入れて、その時方向をかえて流れてゆく方を末と記してやれ」と教えた。

中将は早速参内して、「こうしてためしをみましょう」と言つてその木片を川に投げ入れた。そして、先になつて流れて行く方に印をつけて送つた。本当にその通りであつた。

また二尺ぐらいの全く同じ長さの蛇を、「これはどっちが雄でどっちが雌か」と言つて献上してきた。まただれにも全くわからない。中将がひそかに父親に尋ねると、「二つを並べて、尾の方に細い若枝をさしよせて、その時尾を動かさない方を雌と心得ろ」と言つた。早速、その通りしたところ、本当に一匹は動かさず一匹は尾を動かしたので、そうした印をつけて送つた。

しばらくたつて、七曲りにくねつた小さな管玉を献上して、「これに紐を通して、お返しいただきたい。私どもの国ではだれでもがしていることです」と言つてよこした。「どんなすばらしい細工師でも役にたたない」と、そこに居合わす多くの上達部・殿上人、また世にあるすべての人が言うので、中将はまた親のところへ行つて、「これこれで」と言つると、父親は「大きな蟻をつかまえて、二匹ばかりの腰に細い糸をつけて、もう一方の

口に蜜を塗つてごらん」と言つたので、そのように蟻を入れたところ、蟻は蜜の匂いをかいで向こうの口から出て行った。その糸の通された玉を送つた後には、「やはり日本の国は賢明であつた」と言つて、その後にはそうした事もしなくなつたという。

帝は中将に、「どんな恩賞を与え、どんな官位を授けたりよからう」とおっしゃつた。中将は「官も位もいただきますまい。ただ年老いた父母が都に住むことをお許しください」と申し上げた。帝は「たやすいこと」とおっしゃつてお許しになったので、すべての人の親はこれを聞いて喜ぶこと大変なものであつた。中将は上達部・大臣にまで昇進させなされたということだ。

さて、その人が蟻通しの明神になつたのであろう、その神の御前に参詣した人に、ある夜現れておっしゃつたというの

は、  
七曲りにまがりくねつた玉に紐を蟻が通したので蟻通しと言ふのを人は知らないのであらうか。

とおっしゃつたと、人が話してくれたことだよ。



蟻通神社・冠之洲

コース概観

地元の人から「蟻通さん」と親しみをもって呼ばれる蟻通神社。紀貫之の「蟻通明神」を素材にした世阿弥の謡曲「蟻通」は、「親孝行の神」「知恵の神」「敬老の神」として蟻通神社の名を全国に広めた。蟻の熊野詣でとして知られる熊野街道は、小栗判官照手姫の伝説から、泉州では「小栗街道」と呼ばれる。のんびりゆったりと泉南の伝説の地を訪ねてみた。

JR阪和線長滝駅下車。駅を出て左へ、すぐ広い道に出る。右折し、そのまましばらく進むと右側に蟻通神社がある。朱の鳥居から続く参道は松原の昔を感じさせる。祭神は大国主命。人皇第九代開化天皇紀元九十三年に五穀豊饒、国土開発の神としてまつられたと伝える。往還の旅人に神楽ありと本殿は街道に背を向けていた。境内に入るとすぐ小さな池があり、紀貫之の歌碑が伝説とともに残されている。貫之は落馬するが、そのはずみで冠がとび落ちた。冠が落ちた池を「冠之洲」という。蟻通神社は北西の熊野街道に沿った市場と安松の集落の中間にあったが、昭和十七年(1942)陸軍の飛行場建設のために現在の長滝の地に移された。

長南中学校を右に折れ、国道26号線を横断して南中間本の集落に入る。道幅が狭くなった所を左へ曲がり、すぐ右へ坂道を上って行くくと船岡山の頂上に出る。右手前方に関西空港への連絡橋が見え、臨空タウンの背の高いビルが見渡せる。神功皇后が三韓征伐から凱旋される途中、この丘の麓の岡本浦で船を泊めて休息をとられたと伝える。

同じ道を熊野街道へ戻る。両側に池を見て榎井の集落に入る。左手の家並の間に豊臣方の勇将堀尾右衛門の五輪塔がある。大野治房隊に属し、大坂冬の陣では「夜討ちの大將」の名を高からしめたが、夏の陣では和泉榎井の合戦で、紀州浅野長晟の部将亀田大隅・上田宗古らと戦って壮烈な戦死を遂げた。

紀伊国以外の唯一の五体王子社である初井王子跡が、個人の家並の庭に残されている。後鳥羽上皇はこの地で御奉幣・里神楽・相撲等を奉納したと、定家の「熊野御幸記」は伝える。

しばらく進むと、右側に重要文化財に指定されている十七世紀の豪農の住宅奥家住宅がある。時代とともに幾度の改築が行われているが、部屋は四室が田

の字に並び、奥の二室が大きくて食い違ひになって土間につきだし、これにもう二室が加わった六室の建物だったと推定されている。「食い違ひ」の建築様式では泉南最古と言われている母屋と大きな式台玄関をもつ書院・長屋門がある。

しばらく歩くと右側に淡輪六郎兵衛の墓がある。キリシタン大名小西行長に仕えていたが、主家滅亡のため浪人。大坂夏の陣の榎井合戦に出陣し、堀尾右衛門らとともに紀州浅野と交戦。目覚しい働きで討死。



榎井のバス停を右へ入ると日枝神社。熊野街道へ戻り榎井川に出る。橋の手前右側に「榎井川古戦場跡」と刻まれた大きな石碑がある。慶長二十年(1615)大坂夏の陣のとき、大坂方は大野治房を将とする二万騎、徳川方は浅野長晃の軍八千騎がここで相対した。

榎井川を渡り、さらに新築川を渡ると間もなく右手に国史跡海会寺跡の森が見えてくる。海会寺は七世紀に建立された寺で、塔と金堂が東西に建ち並ぶ法隆寺と同じ伽藍配置になっている。寺域の東隣では、この寺を建立したと考えられる豪族の巨大な居館跡がみつかっている。隣接する泉南市立古代史博物館の特別展示室には発掘調査でみつかった瓦や金属製品・仏像などが展示されている。

一岡神社の鳥居前を通り過ぎたあたりからあぜ道をたどり、厩戸王子跡に出る。建仁元年(1201)10月7日、後鳥羽院は紀州熊野に行幸の際、信達荘にある厩戸の御所に泊られたと伝える。熊野街道に沿って設けられた熊野九十九王子のうちの一つで、次の宿泊地は和歌山の海南市藤白神社であった。

- と分かれ、左へ鋭く曲がると右側に土手が見えてくる。石段を上ると海宮宮池が見渡せる。川を堰き止めてつくられた大きな池は、僧行基によって開かれたという。
- 海宮宮池の所で右折。右に集落が見えてくるあたりで、斜め右へとり新家の集落へ入る。右へ行って行くくと右側に山田家住宅がある。山田家はこの地の豪農で庄屋を勤めた。曲がりくねった狭い道の新家の集落を抜けるとJR阪和線の新家駅である。
- ▲コース▼  
JR長滝駅―蟻通神社―八丁畷地蔵―船岡山―船岡神社―堀尾右衛門直之の五輪塔―初井王子跡―奥家住宅―淡輪六郎兵衛の墓―日枝神社―榎井川古戦場跡―国史跡海会寺跡―泉南市立古代史博物館―一岡神社―厩戸王子跡―海宮宮池―山田家住宅―JR新家駅
- ▲地形図▼2万5千1博井
- ▲費用▼  
JR天王寺駅―長滝駅 620円  
△問い合わせ先▼  
古代史博物館 0724(83)6789



「山のレポート」  
山の地名を歩く⑤  
たけ 長と丈と岳

西尾 寿一

日本語(ヤマトコトバ)と漢字との意味の違いについて考えてきたが、出発点の違いは妥協を繰り返しても、解消されない部分があるようだ。

標記の三つの漢字はそれぞれ、タケおよびダケであるが、漢音では、チョウ・ジョウ(興)・ガクとなる。長と丈(又は俗字という)は長さを求めるのに対し、岳は高さの厳しさを求めている。この意味の異なる漢字になぜ「タケ」の訓を当てることになったのだろうか。このタケの過ぎた解釈によって混乱が生じていることも事実なのである。

大野晋「日本語はいかにして成立したか」の中で「垂直という言葉は漢語であるから、それをヤマトコトバで何と云うかを考えると、それはタテである。」と述べ、この言葉には二つの意味があり、「第一は上下垂直ということである。第

二は前方へ一直線ということである。」とされる。つまり、ヤマトコトバではタテという言葉には高さも長さも含まれていたのである。このような例は漢字はむしろ、英語でもあり得ない。一つの言葉で多くの意味を伝えるということは、言葉が少なくてよいシンプルな社会でもあるが、これによって誤解を生じることもある。

タテの元はタタであるという。タタはタチ(立)と同源で「月日がタツ」とか「都へタツ」とかに使われ、さらに「波タツ」や「音タツ」があり、このなかに長さや高さや、空間的な広がりをも含んでいる。

一方、長・丈をタケとするのも「馬術に長ける」とか「背丈け」とか表現する。前者は技術が高い段階であることを意味し、後者は背という垂直のものを丈という長さで表現するので、共に長さや高さで共存している。

この問題が文献でどう扱われているかを紹介してみたい。

江戸期膳所藩のつくった地誌『近江興地志略』には前述「長・丈・岳」の漢字

と日本語の解釈のズレが垣間見えておもしろい効果をみせている。高さや長さを共通の言葉で語る場合に生じる都合のよい面と危険とが同居している事実が気づかされてしまうが、これが戦国特有の「シャレ言葉」となっておもしろがられ、拡散していく様子が手に取るように見える。

近江と美濃の境に長久寺という集落がある。この地に「寝物語」の石碑がひっそりと建っている。旧中山道の忘れられたようなだれも行かない一角だが、意外にもこの地に日本語(ヤマトコトバ)と漢字の接点が見事に露出している。

「寝物語」とは長久寺が東西の境であり、近江側二十軒・美濃側五軒(江戸期)の家があって、中には壁一枚で美濃・近江の者が寝ながら物語りするという。長旅の途中この寝物語で再会した人もいたというが「五軒の家は美濃なまりの詞を用ひ、専ら金を遣うて銀を通用せず。二十軒は近江詞にして銀を通用す。」とあり、旅人は両替の必要もあり、まるで現在の海外旅行の趣さえ感じられる。

長久寺には別に「長競」の伝承がある。この長競はさらに「たけ競べ」や

「嶽競」などとも称されるように様々な形で発展進化する。

まず地誌では「たけくらべは上古の玉倉部の転化、長久寺の長久もたけくより附きしなるべしといふ」とある通り、同音の言葉状況を合わせて次々と付会している。事実かどうか不明ながら、この話はおもしろく巷に伝播していく性質を持っていることだけは確かである。その延長線で見れば「長競」は別の項目で、「長越」という中山道の大道の名にまで登りつめるのも意外ではない。「路長競を過ぐる故に此名あり」とある通り、これは街道の長さを競べている。次に「たけ競べ」と号するのは付近の四ヶ寺の僧が「碩学論議問答」することであり、これは「長」の別の意味がある「長じる」競争である。最後に現れるのは「嶽競」で、ここに登場するのは同じ湖北の伝説である伊吹山と竹生島の「山の背くらべ」とは違って、旅人が街道を歩きながら道中に現れる山(嶽)を楽しみながら競べる構図である。

以上でタケの三点セットの意味をみたが、わが国は言葉の国だといわれる。

「言葉のさきはふ国」で言葉に霊力があり、その言葉が発せられると周辺に活発に作用するので、たとえ事実であったとしても後向きに暗い言葉は嫌われる。酒という言葉はサカリ(盛)とサカエ(栄)とミ(水)の合体進化なので、酒を呑むと世の中がバラ色に染まっていくのは経験上事実である。わが国の言葉の性質上大酒を呑むことは大いに発展的で好ましいことなので、酒びたりになる人が多いのかもしれない。「万葉集」に「サカミズク」の言葉があるのもうなづける。

さて、タケの祖とみられるタツ・タチは上方への伸長と前方への発達とが含まれている。それは特定の長さや高さを表現するのではなく、際限なく成長していく意味が込められている。言葉が固定的でなく将来性を含み、植物が発芽して成長するようにとらえるならば、「旅立ち」のように若者が無限の宇宙空間に飛び出していく門出の言葉ともなる。

竹は特定の植物名となっていて、その早い成長力と旺盛な生命力はやはりタツ・タチからきたものだろう。

先に挙げた山の背くらべ伝説にしても、どうやら日本人は山も成長するものと考

えていたようで、各地に「一夜で大きくなった」話が伝わる。火山活動で山が成長することは物理的に可能だが、この場合は日本語のもつ性格がスケールの大きい伝説の誕生を可能としたのであろう。タケは、長・丈・岳(嶽)などに振り分けられ、高や喬とも関係を保ちながら漢字世界に嫁入りした感もあるが、日常生活ではいぜんとして生き続けているのである。

われわれが山や岳を使うときも、その意味は甚だ深いものがあることを忘れないようにしたい。

観光バスなら 確実第一の  
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
  - ・中型 (28人乗り)
  - ・中2階 (45人乗り)
  - ・大型 (55人・60人)
- いづれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983  
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

(里山シリーズ10 彦根)

野鳥と森と万葉の山川  
せりかわ  
**芹川ダムと鞍掛山**  
くらかけやま

一般コース(★)

長宗 清司

芹川の水源は霊仙山の南。岐阜県境あたりの谷水をいくつも集め、深谷となり、風穴で有名な河内集落や多賀神社の別宮がある栗栖の集落を抜け、彦根市の平野部に至る。

今回のコースは、芹川が平野部から琵琶湖に注ぐ流域を散策する。

JR彦根駅から、湖国バス(多賀町役場行き)に乗り、久徳口で下車して一円の集落に向かう。

昔、このあたりは洪水や干ばつによって水争いがたえず、抜本的解決策として、一円地区の裏山の谷間を利用して芹川ダムがつけられた。川をせき止めず、芹川本流から導水路によって水を注ぎ込む、

土曜式のダムである。昭和三十一年に完成し、現在のダム湖周辺は野鳥の森として整備され、県民の憩いの場となっている。

芹川ダムを中心に周辺が特別鳥獣保護地区となり、狩猟禁止や土地開発が制限され、野生鳥類が多く集まる楽園になった。留鳥も多く見られるが、冬場はマガモ・コガモ・ジョウビタキを始め、オシドリ・ルリビタキをよく見つける。まれにカンムリカイツブリ・ダイサギ・オオハクチョウ・カモ類も見られる。

ダムを一周する探鳥路が整備され、一年中パードウォッチングが楽しめるほか、ビジターセンターでは、小中学生の学習の場ともなっている。

大上の鳥籠の山なる不知哉川

いさとを聞かせ我が名告らすな

(万葉集 巻十一「二七〇」)

淡海路の鳥籠の山なる不知哉川

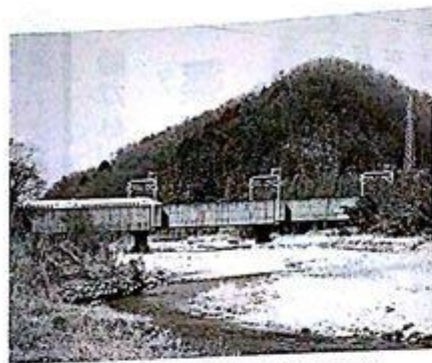
日このころは恋ひつつもあらむ

(万葉集 巻四「四八七」)

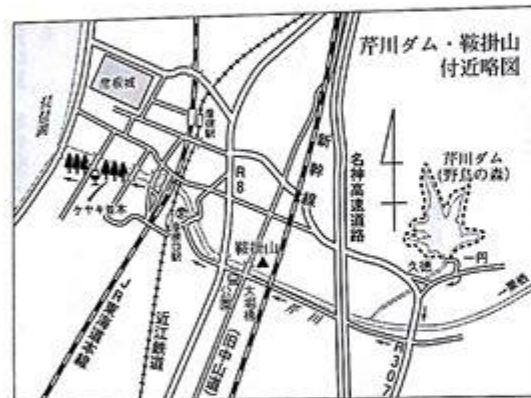
「鳥籠山」は、古くから歌枕や文獻にみられる。王申の乱(672)のとき、大海人皇子の軍が近江の軍を破った記事に、鳥籠山が戦場になったとある。所在

不知哉川は芹川の別名で、かつては松原内湖(現在はない。千々の松原と佐和山の間にあった)に注いでいたが、四百年前、当時の彦根藩主の井伊氏が彦根城築城の際、北上していた芹川をせき止め、城西の西側に堀としてつけかえさせた。このとき掘り上げられた土によって高い土堤がつくられ、芹川の土手の補強として植えられたのがケヤキである。

四百年を経た今では、これらが大きく成長し、美しいケヤキ並木になった。川辺を訪れる人々を喜ばせている。



鞍掛山(大堀山)と芹川を渡る新幹線



芹川ダムからの水を加えた本流は、旧中山道にかかる大堀橋までは田園地帯を流れている。

鞍掛山はこの大堀橋の右岸に見える高い山で、山頂へは築に登れる。

山上には大正天皇が立ち寄られた記念碑がぼつんと建つ。山上からの眺めは想像したよりも美しく、登山口にある歌碑からもうかがえるように、万葉人が身近

野鳥探索路から芹川ダム



については諸説あるが、通説では彦根市大堀町にある標高145.5mの大堀山(別名鞍掛山)が、町内にある寺の山号や字名に「鳥籠山」として残っており、古文書などから推察しても鳥籠山に間違いないとされている。したがって、歌碑などからみてもこの山の傍を流れている大堀川(芹川)を不知哉川とする説がもっとも有力である。

で美しい姿の里山を歌に詠んだ思いが伝わってくる。

(平成12年11月6日歩く)

(平成13年5月5日歩く)

(平成14年2月24日歩く)

▲コースタイム▼

JR彦根駅(バス10分)久徳口(15分)

滋賀県立野鳥の森ビジターセンター・芹川ダム湖探鳥路一周(1時間)久徳(10分)

月ノ木(10分)中川原(10分)大堀橋(10分)鞍掛山(30分)近江鉄道彦根口駅(20分)濟福寺(10分)七曲り(仏壇店街)(10分)御三条橋(ケヤキ並木)(40分)琵琶湖岸(20分)池州橋(バス15分)彦根駅

△地形図▽2万5千11高宮・彦根東部

△問い合わせ先▽

彦根市観光協会

☎0749(23)0001

滋賀県立野鳥の森ビジターセンター

(芹川ダム)(月曜休館)

☎0749(48)0121

湖国バス(彦根)

☎0749(25)25001

近江タクシー

☎0749(22)0106

静かな山

やくしやま  
薬師山

古賀 慶二

七種山や七種槍は比較的よく歩かれているが、薬師山(616㍎)方面はぐっとハイカーが少なくなる。しかしその反面、人ずれしていない、静かな山域である。

薬師山ハイキングの一助になればと思いい、いくつかのコースを紹介する。

この山域には標識がほとんどない。岩稜・やぶ(シダ等)・けもの道等、危険や迷いやすい所もある。また、ハイカーが極めて少ないため、十分注意して入山する必要がある。

ハイキング適期は晩秋から春、新芽の明える頃が特によく、夏場は避けたい。また、狩猟解禁中はハンターが入るので

要注意。地形図・コンパスは必携である。

入山にはマイカーが便利だが、公共交通機関を利用する場合、JR福崎駅から徒歩またはタクシーを利用することになる。前之庄から入山する場合は、姫路駅より前之庄方面行きのバスを利用し、夢前町役場前で下車して徒歩となる。

七種・薬師縦走路

しっかり踏まれた縦走路であるが、一般的な道標はないに等しい。目印が頼り一部わかりにくい所がある。遊歩道入口より十字峰経由、薬師山まで約3時間。

西尾根

踏み跡はあるが、七種・薬師縦走路と比較した場合、道標はなく目印もないに等しい。三枝草から薬師山まで約3時間。

西南鎌尾根

縦走路から、岩稜部はやせ尾根までは比較的明瞭な踏み跡がある。しかし、くだるに従いシダ・倒木・けもの道が多くなる。シダのなかをくだる道らしいもの

もあるが、これを見越してしばらく尾根通しに進むと、自然に下りとなり、明王寺池の畔にたどり着く。薬師山から牛舎まで約2時間。

薬師南尾根

薬師山から397・3㍎のピークまでは縦走路と同様である。ピークから峠まではシダが多くなる。ピークから板坂コー

スは、鉄塔まで最近人の通った形跡がなく、けもの道とブッシュである。板坂から397・3㍎まで約1時間10分、397・3㍎から薬師山まで約1時間30分。

センターコース

南尾根の448㍎を過ぎてこのルート

にくだる指標がある。小さなものなので見落とさないように注意すること。林道から薬師南尾根まで約1時間。エスケープに利用可能であるが、一般的ではない。

三枝草コース

道路沿いに祠があって、この左手に道

峠コース

がのびている。これをつめて縦走路に至る。祠から縦走路まで約40分。縦走は中級。

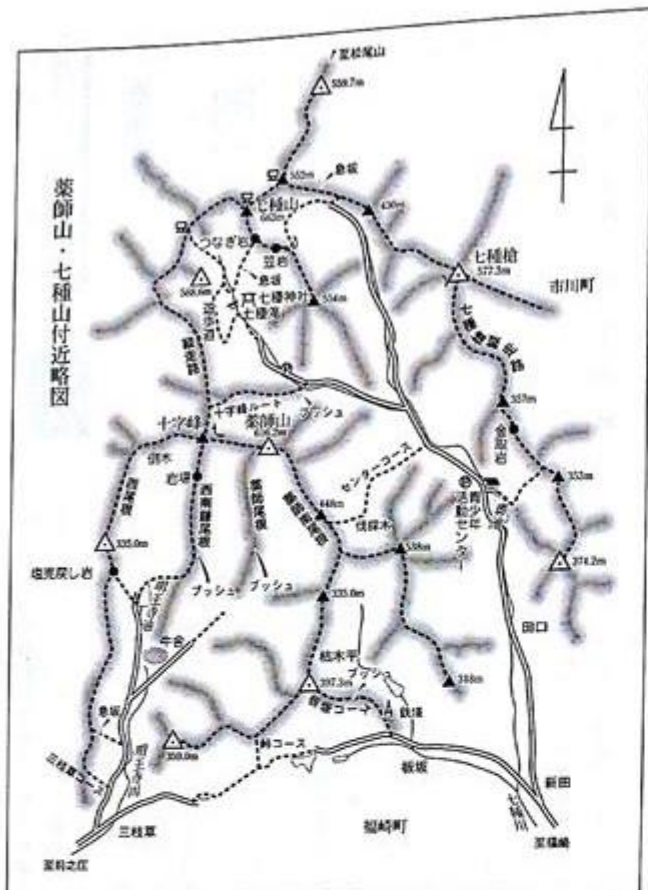
峠にお地藏さんがあり、ここが登り口である。397・3㍎より峠まで下り30分、登り45分。縦走は中級。

十字峰ルート

縦走路より林道まで、下り約50分。下部はややわかりにくい。エスケープに利用可能であるが、一般的ではない。

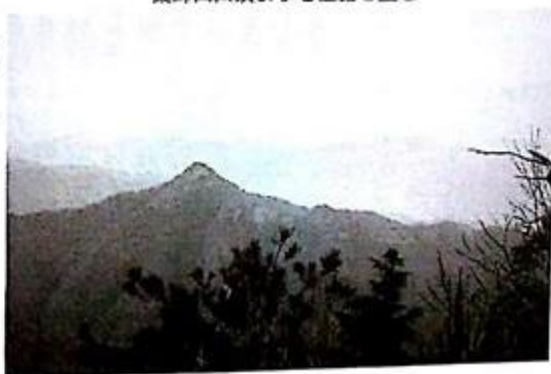
\*ルート名などは、便宜上付けているものがあります。以前からの慣習的な呼び名がありましたら、訂正したいと思っておりますので、ご一報いただけたら幸いです。

△地形図▽2万5千前之庄・寺前



薬師山・七種山付近略図

薬師山山頂より七種槍を望む



岩屋尾根から

阿陀弥ヶ峰

中級コース(★★★)  
西尾 寿一

鈴鹿における霊仙山の位置づけは極めて重い。その体積・面積・標高などは無論のこと、周辺の山中・山麓に暮らす住民の多さでも特筆すべきものがある。主峰のほか衛星峰の数でも群を抜いているが、そのうちで霊仙三峰と考えているものに、霊仙最高峰・谷山・阿弥陀ヶ峰がある。

霊仙最高点・三角点峰・南霊山とを三山とする考え方もあるが、筆者らはそれらをまとめて一山とする。他の二山は霊仙山を形成するのには欠かせない性格をもつ山として、あえて三峰の扱いとしている。

その阿弥陀ヶ峰は、「阿弥陀堂」があっ

たことからその名の由来としているが、案外登られていないのである。霊仙山のあの混雑に比して何という不遇なのであろうか。それには登路がいまひとつ明確でないところがあるのかもしれない。それさえ知らなければもともと人気が出るはずの山である。

今回、比較的わかりやすいルート提案してみた。

ルートは河内から岩屋尾根を使って阿弥陀ヶ峰に登り、西尾根を下降し、「阿弥陀堂跡」を経る。さらに西尾根を上丹生に下山するもので、現在最も利用価値の状況ともに優れている。ただし、岩屋尾根は少し長いので、短縮するならば梓川の右俣を少し入ると中尾林道があり、これを使うと若森神社で岩屋尾根に合流するので早くなるが、登山のおもしろさが若干失われる。

アプローチはJR醒ヶ井駅か柏原駅よりタクシーで河内へ入る。梓川の二俣を右に入るとすぐ橋があり、それを渡ってジグザグの登山道に取つく。

車の場合は河内へ入ると芋ヶ谷を長く歩くことになるので、別コースのほうが便利だ。

阿弥陀ヶ峰(谷山下部より)



岩屋尾根は始め尾根の北側をトラバース気味に登る。城跡を経て峠状になった所で林道に出合い、展望がきくようになる。

林道を捨てて旧道を選んで行くと、次第に尾根の西側のトラバースとなり、名の由来の岩屋に着く。小規模ながら石灰岩の割れ目が小屋のように見える。谷側は石垣が積まれ、利用価値の高かった時

代をしのばせている。

岩屋からわずかで若森神社である。左から林道がきている。若森神社は河内の氏神さんで、俗に「若森さん」と呼ばれているが、杉の古木が倒れて無残だった。このたび、新しく石造りの立派な社と鳥居が新設されたが、新しい宮というものは味気ないもので、あたりは殺伐としている。林道も工用用のものが見られるが、もう少し慎重に扱えなかったのかと、よそ者ながら考えてしまう。

「若森さん」から道は二分し、尾根を直登するものと左へトラバース気味に行



くものがある。急ぐ向きには右の尾根をとって地図の破線路をたどると30分は早く山頂に着ける。今回は左の道をとって、黒々とした樹林帯とサッカー場ほどの広さをもつ大平(706m)を経て峠に至る。大平からすぐ下が河内の水源で、雨雲帯があると聞く。

峠は明るい見晴らしのよい場所だ。霊仙山も見えるので昼食によいだろう。峠からの道はやや不明確ながら、尾根の北側を探すとテープがある。左にピークが二個見えるが、南に派生するピークにつられて行ってはならない。道はあくまで北側をたどっている。

テープを探しながら行くとやがて道も明瞭になり、二次林に白いカレンフェルトの点在する実に気分のよい尾根になる。春か秋のこのあたりは絶品と言うべきだろう。

頂上が近づくとやぶが出てくるが、北側を捲くように進めば、杉木立の端が阿弥陀ヶ峰(876m)山頂だ。石灰岩の上に立てば雄大な霊仙山が一望だ。

西尾根(正確には北西)を15分くだると、町界尾根が分かれる所に「阿弥陀堂」の跡がある。あたりはカレンフェルトが無

数に乱杭菌のように立ち並んでいる。赤い灯明塔が二基ある所の奥に、霊仙山の形をしているといわれる石灰岩があり、これが御神体だったのだろう。阿弥陀と言っているが、おそらく仏教以前の山岳信仰が原点だろう。展望も秀れているので大休止によい。

下山は、真西の尾根だ。正規の登拝道だったとみえて深く掘れ込んでいる。巨木が二本脇をかためて堂々の威風を漂わせる。すぐに小さいヌク場に着き、道標がある。その下が芋ヶ谷ルート分岐だ。ただし、このルートは伐採で道が埋まり、歩くのはむづかしい。尾根を西へ直進すれば広い尾根から次第に細くなり、石灰岩が出てくる。北へ振るようになると登山口の浄水場におり立つ。この道は比較的良好である。後は上丹生から醒ヶ井駅へ帰る。(平成14年春歩く)

- ▲コースタイム▼
- 河内(1時間40分) 岩屋(10分) 若森神社(40分) 峠(1時間20分) 阿弥陀ヶ峰(15分) 阿弥陀堂跡(15分) 分岐点(1時間20分) 浄水場
- ▲地形図▼2万5千彦根東部・霊仙山

2等三角点のある山

富岡山と居母山

山形 歳之

富岡山(2等・点名直見)

初級コース(★)

舞鶴自動車道の福知山インターから国道9号線に入り、夜久野町に向かう。JR上夜久野駅から直見を目指して西垣のバス停に到ると、居母山登山口の標示が出ていた。2等三角点の富岡山より、居母山(3等三角点)のほうが有名である。きょうは先ず富岡山が目的である。この直見の村落を挟んで、東に居母山、西に富岡山と向かい合っている。しかし、富岡山への登路に関しては何の標示もない。

村人に訊ねてみると、「採石場の林道を終点まで入り、そこから登れる。林道

に鹿止めの門があるが、施錠してないから通行したら閉じておいてください」とのことであった。

村を抜けて林道に入ると、すぐ金網張りの鉄扉がある。昔の鉱山はすでに廃鉱となり、掘削された山肌がむき出しで、幾帳かの廃屋が残っていた。川沿いの林道は舗装されているがかなりの急坂で、高度を上げると堰堤の所で終点となった。堰堤から上は沢も細く、取りつきにビニール紐がぶら下がっているが、道は定かではない。

左が植林右が竹林。なだらかな沢状の歩きやすい所を登る。やがて沢の傾斜がきつくなる頃、左の尾根からの道が現れた。折り返しながら山腹を捲いてこの道をたどると、南からの道に合流した。

一登りで稜線の鞍部に到着する。ここから右の山頂を目指す。周囲は手入れされた植林地で、径30〜40cm。高さ20cmくらいの木々が直立していた。

富岡山(707・3m)山頂には2層くらいの丸太櫓が組まれ、きれいな標石が入っている。植林帯で展望は得られないが、二、三枚の登頂板がぶら下がっていた。その中の一つに、消えかけた私の所



富岡山

属する会の名があって驚いた。20数年前のものである。

結局、下部の沢は道が不明瞭だが稜線上は明瞭で、距離は少し長いが南の山中か、西の三谷の集落から登るほうがわかりやすいようだった。

(平成13年10月23日歩く)

▲コースタイム▼

林道終点(1時間) 富岡山

▲地形図▼20万Ⅱ鳥取 5万Ⅱ出石

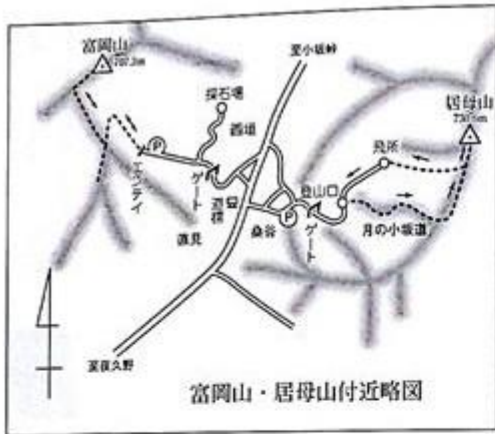
2万5千Ⅱ直見

居母山(3等・点名未始)

初級コース(★)

以前の新しいハイキング関西誌上で、「いぼやま」でなく、正しくは「いもやま」と書かれていた。居母山は富岡山よりポピュラーで、登山口の標示もあり、登山道も明瞭であった。

私の目的は2等三角点の山であるので、



富岡山・居母山付近略図

先に富岡山に登ったが、翌日同じ西垣のバス停から道標に従って登る。桑谷の集落を抜け林道に入ると、鹿避けのゲートが現れる。舗装が切れ、ぬかるみ状態の林道は、この先駐車スペースがないので、車は桑谷の村内に置くほうがよい。

門を開け林道を登る。水源池を過ぎ、分岐を右に橋を渡ると、「月の小坂登山口」がある。登山道は尾根にのびている。左折する林道にも居母山の標示があるが、これは林道終点の「飛所」登山口を示している。

月の小坂道を登る。幅1mくらいの手入れされた良い道が植林のなかを登っている。一登りで稜線にたどり着く。このあたりは広葉樹林で、栗のイガがたくさん散らばっている。ただし、親指の先くらい小さなものばかりで、鹿の糞に混じって散らばっていた。

稜線の道は遊歩道並み。ルンルン気分であつたと「飛所」からの道が合流し、やがて居母山(730・6m)山頂到着となる。

林のなかのトイレは山頂に似合わないが、鎖がぶら下り、刈り払われた頂上は

展望もよく、三岳山がひととき大きい。遠く大江山が霞み、低い山並にはパラポラアンテナが立つ。加悦の2等三角点だろう。三岳山の前には、龍ヶ城・伏見山の稜線がのびていた。

丸太を組み合わせた櫓の前で写真を撮ろうとしたら、デジカメがない。よい山頂なのに残念だ。車に置き忘れたのだが、これも老化の始まりか。

下山は「飛所」にくだる。こちらも多く手入れされた道が沢伝いにくだつており、簡単に林道終点におり立った。「月の小坂道」は尾根道で、「飛所」は沢道になっている。こちらにも駐車スペースはない。(平成13年10月24日歩く)

▲コースタイム▼

桑谷登山口(10分) 月の小坂登山口(1時間) 稜線(15分) 居母山(5分) 飛所分岐(30分) 林道終点(20分) 桑谷登山口

▲地形図▼20万Ⅱ鳥取 5万Ⅱ出石

2万5千Ⅱ直見

\*近くの「夜久野高原温泉」には、温泉のほかに食堂・宿舎・花壇や資料室、農産物の売店があり、お菓子もつくつていて、けっこう楽しめる。

大峰前衛の静かな山

下辻山

中級コース(★★★)  
金谷 昭

下辻山は、大峰山脈の七面山から西に派生した尾根の中央にあるピークである。山頂付近の稜線と南面は、下辻山の南にある発電用の瀬戸ダムの水源涵養林として保護され、深い原生林におおわれ、野生動物も多く棲息している。

山頂周辺は反射板とヘリポート建設による伐採が行われ、景観が損なわれてしまったが、それによって得られた360度の大展望はすばらしい。

登路は、北側の大塔村篠原からが一般的である。交通手段としてはバス便もあるが、とても不便なので、マイカーに頼らざるを得ない。

篠原へは辻堂の大塔村役場より林道辻

堂篠原線を行き、高野辻を越えるほうが近道で、高野辻では大峰山脈の大展望が楽しめる。また篠原手前には宮の滝を見ることが出来る。篠原では旧小学校の運動場に駐車できる。林道篠原線は道幅が狭く、また上流での工事車両通行のため林道脇の駐車は遠慮すべきである。旧小学校の上流にある橋を渡り、林道を200m程下流にくだると、左側に「火の用心」の標示板が設けられた袖道が出てくる。ここが登山口である。

いきなり急斜面の杉林のなかに付けられたジグザグ道を登って行く。5分程登ると右(山)側に大きな石楠花が出てくるが、村人の話では、集落周辺の杉林は昔は田畑であったという。

尾根の東側山腹を捲いて行くと、この北尾根末端のコブとの鞍部に着く。鞍部には送電柱が置かれ、これより道は右(西)側は雑木林左(東)側は檜植林との境界稜線を行くようになる。右は松茸山なのであろうか、ビニールテープが張られ、入山禁止の札がかかっている。

標高点763mへは急登となる。登り切って再びゆるくなり、しばらく行くと左右の林相は変わらないが、右の雑木の

息づかいが感じられる。送電柱巡視路分岐を左に見送ると、道ははっきりしてくる。

七面山からの尾根(七面尾)との分岐、篠原辻に達すると道は三叉路となっている。右に折れ、わずかに登るとヘリポートに出て、さらにすこし登ると下辻山(1305.6m)頂上に飛び出る。

頂上には反射板が一基置かれ、そのフェンスの南東に二等三角点標石(点名・惣谷)がひっそりとある。頂上からの展望もよいが、手前のヘリポートのほうがさらによい。ヘリポートに上ると360度の展望が得られる。

東面には大峰主稜の山々、北面には滝山・天和山、その奥に金剛・葛城。西面には奥高野の山々、そして南面は眼下に

下辻山頂上より八経ヶ岳(左)と七面山(右)



なかに樹の巨木が出てくる。ここからは地形図の稜線通しの点線路とは異なり、次の1100m峰の東側山腹を捲いて行く。稜線通しにやぶを漕いで行けないことはないが、捲き道は1100m峰の南寄りの鞍部にショートカットしている。稜線通しには防火帯であろうか、幅の広い伐開が始まるが、道はその手前を左側に入っている。杉林のなかの捲き道は杉

瀬戸ダム、中八人山の遠くは紀南の山々と、大バノラマが展開する。

大峰最高峰の八経ヶ岳は手前がブナ林で全容は見えないが、篠原辻より七面尾を少し行った東の送電柱からは全開となるので、寄り道してみよう。

下山は忠実に往路をたどればよい。

なお、下辻山から南の瀬戸ダムに頂上の反射板フェンスの最下部から巡視道があり、最後は鉄骨階段でダムにおり立つことができるが、ダムの管理道路は関電の特別許可を得なければ通行できない。また、下辻山から西にのびる村界尾根を縦走して沼田原におり立つこともできるが、読図力と健脚が要求される。

(平成13年10月14日歩く)



- ▲コースタイム▼  
篠原登山口(20分) 送電柱鞍部(1時間30分) 1100m峰の南鞍部(35分) 巡視路分岐(15分) 篠原辻(5分) ヘリポート(5分) 下辻山(1時間) 1100m峰の南鞍部(1時間15分) 篠原登山口  
△地形図V2万5千II南日裏・辻堂  
△問い合わせ先▼  
大塔村役場 ☎07473(6)0311

特選コースガイド⑩

鈴鹿

一統・近江側から登る鈴鹿の山々の  
衣掛林道から

# 日本コバ

中級コース(★★)  
磯部 純

ガイドブックに紹介されている日本コバへのポピュラーなルートは、中畑如来堂からの藤川谷道と、政所からの政所道の二つである。岩野さんの「近江側から登る鈴鹿の山々」には、その他に笠松尾根ルート(新ハイ関西29号・52頁)、藤川谷南尾根ルート(新ハイ関西29号・54頁)が紹介されているが、今回採りあげるルートは、平成13年6月に歩いたルートで、古くから友人好みのルートと言われていた、北側から日本コバへ登るルートである。

百済寺から東へ入り、角井峠を越えて横根谷の東に置き車をし、皇学園手前の衣掛林道の入口まで走って駐車する。こ



の林道は最近付けられたのか、地形図には載っていない。衣掛林道は登山者の間では、箕川道として知られている尾根につくられていて、衣掛山の近くまでのびている。その途中のピーク約840mには展望台が設けられ、「盤石の丘」と名付けられている。日本コバはこの林道を歩き、衣掛山を踏んでから登る。林道といっても、雨や霧の日には、いたる所に鈴鹿の主(ヤマヒル)が背をいっばいにのびしゆれているので、主の嫌いな人にとってはあまり気持ちのよいものではない。春には、登って行くにつれ、道脇にドクダミ・マタタビの可愛らしい白い花、真っ赤な木苺、白いホタルブクロ、大きなクマシデの実があり、目を楽しませてくれる。道はほとんど高度を上げていく。やがて右手に小高いピークの腹を捲くと、そこが「盤石の丘」の登り口。愛東町が平成11年に造成した展望台である。いくらかかからないので、休憩を兼ねて登ってみよう。登った山頂にはベンチが設けられていて、山頂の東には鈴鹿中央部の山々が描かれた看板が設置され、ここからの展望は登りの疲れを癒してくれるだろう。

展望のない静かな山頂で、近くの木に衣掛山の標識が付いている。ここからは政所道を少しの間歩くと、衣掛山を西南へ踏み跡をたどってくだり、日本コバの標識のある道を左に見て、そのまま、楡とシロモジの多い雑木林の境界尾根を西へ進む。この日本コバの標識を左に入るのが政所道の正規のルートだが、岩野さんのルートはそのまま尾根を直進する。

やがて、左に谷が見えてきた所から、湿地帯へくだるため、尾根から離れて谷へ入る。この谷に入る地点には目印が無いのでわかりにくい。わかれば、湿りくんだりやすい谷か尾根をくだれば、湿地帯上流の谷へおろすことができる。しかし、初めてこのルートを歩く人は、先程の政所道を行ったほうがよいだろう。



下におろされた日本コバの標示板

林道へ戻り、15分も歩くと林道が尾根を横切る。ここから林道を捨てて尾根に取りつく。楡と雑木林の中間尾根で、傾斜が急なうえに滑りやすい。林の境界にはだれのためのものか、「ありがとうございませう 大自然の全てに 愛と感謝を」と書かれた白い小さな杭が、何ヶ所も打つてある。尾根がゆるくなり、その尾根を右に曲

谷に水は流れていないが、V字状の谷の真ん中に足を置くと、膝まで泥にもぐってしまいそうだ。しばらくくただつて谷が広くなると、その先が湿地帯だ。疎らに生えた木の下に、膝ほどの草が繁り水が溜まっている。ここを歩くには山靴より長靴が適しているようだ。そこを東へ進むと「衣掛の泉」。名前から清らかな水がコンコンと湧き出ている泉を想像するが、名と違って、湿地帯の泥の水溜まりにすぎない。

湿地をさらに東へ進み、湿地帯を抜けて政所からの道へと出る。その道を流れて沿って右方向へくだって行くと、あたりは美しい二次林だ。やがて道は登りに変わり、こんなに日本コバ山頂は高かったかと思うほど登ると、日本コバ(別称

# 大阪50山

大阪府山岳連盟 編 四六判・予価一九〇〇円

摂津・河内・和泉の三つの地域から大阪の岳人が選んだ50山と番外2山を写真と共に紹介。山名の由来や豊かな歴史にふれながら登山コースを案内する。(9月下旬刊行予定)

# 四国の山を歩く

尾野 益大著 四六判・一九〇〇円

西日本第一の高峰・石鏡山や第二の剣山、巨樹のブナが群生する大瀧山や大座礼山など四国の山々の魅力と、登山コースを紀行文で紹介。周辺の名所や交通も記載。

★表示の価格は消費税を含みません  
ナカニシヤ出版  
http://www.nakanishiya.co.jp/  
京都市左京区吉田二本松町2  
☎075-751-1211 〒606-8316

## 新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編  
改訂2版/上製本/B6判350頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第6巻 **花の山に行く** 松本雪枝 著  
3刷発売中/上製本/B6判356頁/定価1835円 山の花を訪ねての紀行文集
- 第7巻 **山旅素描** 足立真一郎 著  
3刷発売中/上製本/A5変型判/定価1835円 山岳画家足立画伯の珠玉の画文集
- 第8巻 **旅がらすの山** 富田弘平 著  
3刷発売中/上製本/B6判368頁/定価1835円 内容豊かな紀行文50編を取めた
- 第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著  
3刷発売中/B6判336頁/定価1832円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第13巻 **甲斐の山山** 小林経雄 著  
改訂2版発売中/B6判360頁/定価1680円 山梨県の山と峠を解説した事典的な書
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著  
2刷発売中/上製本/B6判360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 **日本300名山ガイド〈東日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著  
9版発売中/A5判320頁/定価1680円 新ハイキングの精鋭5氏実地踏査のガイド
- 第16巻 **日本300名山ガイド〈西日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著  
8版発売中/A5判320頁/定価1680円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著  
2刷A5判340頁/定価1800円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 著  
B6判320頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著  
A5判310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著  
A5判286頁/定価1680円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 第22巻 **阿武隈の山を歩く** 新ハイキング・ペンクラブ 著  
A5判201頁/定価1680円 阿武隈の山115座の紀行とガイド
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編  
A5判387頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録

発行所 **新ハイキング社**

〒114-0023 東京都北区鴻野川7-6-13  
電話・Fax 03-3915-8110  
振替00130-9-146915

●価格は消費税込み ●書籍でのご注文は送料当社負担

藤川山・日本古バ・二本コバとも)標高934・2の山頂である。以前の「日本コバ」と書かれた立派な看板は外され、杭の根元に置かれている。

山頂広場の東外れに、三角点が立っている。向きは真東。側に大きな松とシデの木があり、広場の北側の背の高かった林は切り取られている。この日はあいにくのガスで、北も雨も全く展望はなかつた。



「衣掛の泉」のある湿地帯

だが、天気が良ければ、南にカクレグラが連なり、北に笠仙山や鈴鹿西部の山々を見ることが出来る。

下山路は西へ向かう。二次林のなかに踏み跡が続いている。いったんくんだり、登り返すと松尾谷の分岐。そこには「日本コバまで1km」の標識がある。そこから右へ300m程度登った尾根の分岐にはまたまた標識。そこには「日本コバまで2・5km」と書かれてある。ほとんどの人は気がつかないが、この距離表示はどう見ても違っている。

この標識のピークから北東の尾根をくだる。尾根には踏み跡が残っている。このルートは大萩が廃村になる前、小学校の遠足で日本コバへ登るために道を整備し、道標を立てたものだといわれているが、あの間違った道標はこのときに立てられたものらしい。このルートは、今では一部の登山者しか歩かなくなってしまう、部分的に道が消えている箇所があるので、地形図の破線を外さないようにくだらなければならぬ。

尾根を北へ入ると、しばらくは静かな二次林が続く。朝に歩いた北側樹南側雑木の尾根を右に見て、標高点897mを

くだり、左へ行った所が明神岩だ。岩の上に立つと、「盤石の丘」、その奥の電ヶ岳・静ヶ岳・御池岳などの鈴鹿北部の山々の姿を望むことができる。

明神岩のすぐ東から北へやぶをかき分けて斜面をくだる。その下は静かな林の尾根に変わるが、たちまちその尾根も急勾配となり、滑りやすくなる。手袋をしないと手は泥で真っ黒になってしまいうだ。急尾根をくだると、ゆるい快適な尾根下りになる。途中、左手下に、幹周りが6m近くもあるような杉の大木を挿んだりしての下りである。

いっしょに現れた道に従ってくだり、尾根から右の小さな谷へおると、その先は杉林。小屋への道へ出た所に「日本コバ」の標識が立っている。その道をくだると、朝、置き車をした所だった。

(平成13年6月24日歩く)

▲コースタイム▼  
衣掛林道入口(1時間) 盤石の丘(30分)  
衣掛山(25分) 衣掛の泉(35分) 日本コバ(50分) 明神岩(1時間20分) 大萩  
△地形図V2万5千=百済寺



# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福  
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

## 近鉄

▽近鉄万歩ハイキング「八朔祭り」  
▽大ヶ塚管内町を歩く」 9月7日(出雨天中止)〈集合〉上ノ太子駅 9時30分〜10時30分(コース)上ノ太子駅→森井八幡→通法寺跡→源氏三代墓→大ヶ塚寺内町→近つ飛鳥風土記の丘→府立近つ飛鳥博物館→推古天皇陵→子塚古墳→小野妹子墓→孝徳天皇陵→竹内街道→上ノ太子駅(約14km) 参加自由・無料(入館料は別途) 営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 35666

▽陸奥ふれあいハイキング「葛城の道」 9月14日(出雨天中止)〈集合〉忍海駅前9時40分(コース)忍海駅(バス)風の森→高朝神社→葛城の道歴史文化館→極楽寺→住吉神社→中村邸→長柄神社→宮主神社→九宮寺→六地藏→近鉄御所駅(約10km) 参加自由・無料(バス代等は別途) 営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 35666

▽ほのほのツアー「大台ヶ原日帰りの旅(東コース)」 9月14日(出)・29日(出雨天中止)〈集合〉近鉄サービスネット阿倍野野橋営業所前7時40分(コース)あべの橋駅

(特急)吉野駅(バス)大台ヶ原駐車場→日出ヶ原→正木ヶ原→牛石ヶ原→大蛇塚→シオカラ谷→大台ヶ原駐車場(バス)大和上市駅(電車)あべの橋駅(約9km) 参加費大人5310円(小人2910円) 定員各日共120名 電話申込制(申込先)近鉄サービスネット阿倍野野橋営業所06(6624) 00266

▽朝日・五私鉄リレーウォーク「春日山原生林から奈良公園」 9月15日(出雨天延期)〈雨天延期の場合9月22日(回)〉〈集合〉近鉄奈良駅下車興福寺境内9時30分〜10時30分(コース)興福寺→春日大社→(柳生街道)滝坂の道→夕日観音→朝日観音→春日山石窟仏堂→鶯ノ滝→(春日山原生林)→若草山→仏頭石→手向山八幡宮→(大仏殿)→近鉄奈良駅(約14km) 参加自由・無料(拝観料等は別途) 営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 35666

▽近鉄万歩ハイキング「室生寺・大野寺(仏隆寺経由)」 9月23日(出雨天中止)〈集合〉榛原駅前9時45分〜10時10分(コース)榛原駅(バス)高井→仏隆寺→天王橋

→室生寺→門森峠→大野寺→室生口大野駅(約13km) 参加自由・無料(バス代等は別途) 営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 35666

▽近鉄・南海・朝日合同企画「二上ノ太子山麓ハイキング(奈良側)」 9月29日(出雨天中止)〈集合〉(Aコース)二上ノ太子駅(バス)二上ノ太子駅(約9km) 参加自由・無料(バス代等は別途) 京福電鉄管理課075(80) 5315

3566

## 京阪

▽スポニチファミリアハイイク「鞍馬から福原山へ」 9月8日(出雨天中止)〈集合〉鞍馬駅前9時30分〜10時(コース)鞍馬駅→薬王坂→静原→江文峠→寒谷峠→福原山→上高野分岐→岩倉駅(約11km) 参加自由・無料 京阪電鉄ハイキング担当06(6947) 3702

▽比良連峰アタック「天狗の森・蛇ヶ峰」 9月23日(出雨天中止)〈集合〉出町柳駅コンコース9時〜10時(コース)出町柳駅(バス)桑ノ橋→猪の馬場→天狗の森→蛇ヶ峰→滝谷の頭→ボボフダ峠→畑(バス)JR近江宮崎駅(約7.5km) 参加自由・参加費大人1900円(小人950円) (往復バス代含む) 京阪電鉄ハイキング担当06(6947) 3702

▽比良連峰アタック「御殿山・武奈ヶ岳」 10月14日(出雨天中止)〈集合〉出町柳駅コンコース9時〜10時(コース)出町柳駅(バス)坊門→明王院→御殿山→ワサビ峠→西南院→武奈ヶ岳→北稜→細川越→スゲ原→広谷→イブルキのこ

バ→八雲ヶ原→山上駅(ロープウェイ・リフト)山麓駅(バス)JR比良駅(約9km) 参加自由・参加費大人2400円(小人1200円) (往復バス代・ロープウェイ・リフト代含む) 京阪電鉄ハイキング担当06(6947) 3702

▽比良ロープウェイ  
▽ネイチャー・トレッキング「ススキの西南稜を歩く」 9月19日(休)・25日(休)・27日(出雨天中止)〈集合〉JR比良駅8時45分(コース)比良駅(バス)山麓駅(リフト)→ロープウェイ→山上駅→金雲峠→中峠→ワサビ峠→武奈ヶ岳→八雲ヶ原→山上駅(ロープウェイ・リフト)山麓駅(バス)比良駅(約6.5km) 参加費2600円(往復バス・ロープウェイ・リフト代含む) 各日定員120名 1ヶ月前より電話申込制(申込先)比良ロープウェイ事業課077(596) 0516

▽ネイチャー・トレッキング「紅葉の比良山系縦走」 10月17日(休)・23日(休)・28日(出雨天中止)〈集合〉JR比良駅8時40分(コース)志賀駅(バス)山麓駅(ひわ湖アルプスゴンドラ)山頂駅→木戸峠→

萬川越→南比良峠→金雲峠→山上駅(ロープウェイ・リフト)山麓駅(バス)比良駅(約6.5km) 参加費2200円(バス・ゴンドラ・ロープウェイ・リフト代含む) 各日定員120名 1ヶ月前より電話申込制(申込先)比良ロープウェイ事業課077(596) 0516

▽江若交通  
▽こらじやくMtハイキング「白倉岳」 9月12日(出雨天中止)〈集合〉JR堅田駅8時40分(コース)堅田駅(バス)朽木衛生→南岳→中岳→鳥帽子岳→白倉岳(北岳)→鷹ヶ峰→桑ノ橋(バス)JR安曇川駅(約12km) 参加費2500円(往復バス代含む) 1ヶ月前より電話申込制(申込先)江若交通本社077(573) 2701

▽こらじやくMtハイキング「野坂岳(敦賀富士)」 10月3日(休)・雨天中止(集合)JR安曇川駅9時(コース)安曇川駅(バス)登山口→トチノキ地蔵→ノ岳→野坂岳→ノ岳→トチノキ地蔵→登山口(バス)安曇川駅(約10km) 参加費4000円(往復バス代含む) 1ヶ月前より電話申込制(申込先)江若交通本社077(573) 2701

▽京福電鉄  
▽京福ハイイク「比叡山から横川・仰木峠」 10月26日(出雨天中止)〈集合〉ケール八潮駅前9時30分(コース)ケール八潮駅(ケール)ケール比叡駅→アスキー場前→駅直前→玉体杉→横川駐車場→仰木峠→京都バス大原バス停 参加自由・無料(ケール代等は別途) 京福電鉄管理課075(80) 5315

▽歴史散策「市原周辺」 9月17日(出雨天中止)〈集合〉市原駅10時

「コース」市原駅—飯島神社—藤原坂高山荘跡—湯原寺—川島磯物文化館—惠光寺—小町寺—市原駅(約4km) 参加自由・無料(拝観料等は別途) 叡山電鉄鉄道部075(781)51221

▽歴史散策「橋」 10月8日(火)雨天中止(集合)宝ヶ池駅10時(コース)宝ヶ池駅—妙内寺—神宮神社—専修寺—幡枝八幡宮—京都精華大前駅(約4km) 参加自由・無料(拝観料等は別途) 叡山電鉄鉄道部075(781)5122

**京都バス**

▽京都北山三角点トレック「滝谷山」 9月7日(出)・14日(出)小雨決行(集合)出町柳駅コンコース8時~8時30分(コース)出町柳駅(バス)花背高原前—大見尾根—滝谷山—P877—P771—小野谷峠—花背交流の森(バス)出町柳駅(約13km) 参加費無料(バス代別途) 各日共定員200名、1ヶ月前より電話申込制(申込先)京都バス運輸部営業課075(871)7521・7522

▽京都北山三角点トレック「桑谷山」 10月5日(出)・12日(出)小雨決

行(集合)出町柳駅コンコース8時~8時30分(コース)出町柳駅(バス)大慈山—寺谷—寺谷峠—桑谷東峰—桑谷山—能見口(バス) 出町柳駅(約12km) 参加費無料(バス代別途) 各日共定員200名、1ヶ月前より電話申込制(申込先)京都バス運輸部営業課075(871)7521・7522

**神戸電鉄**

▽神鉄ハイキング「神出神社となし狩りハイイク」 9月1日(日)雨天中止(集合)緑が丘駅10時05分(コース)緑が丘駅—雄岡山—雄岡山(神出神社)—神出なし園(希望者のみ割引入園)—志染駅(約8km) 一般回)参加自由・無料(入園料等は別途) 神鉄観光事業部078(521)0321

▽神鉄ハイキング「竹谷尾根と六甲山カンツリーハウスハイイク」 10月6日(日)雨天中止(集合)有馬口駅9時15分(コース)有馬口駅—東山橋—竹谷尾根—心経岩—六甲山カンツリーハウス(カーニバル会場) 解散(約8km) 健脚回)参加自由・無料 神鉄観光事業部078(521)0321

▽神鉄ハイキング「丹波立杭焼陶器まつりハイイク」 10月20日(日)雨天中止(集合)JR藍本駅10時15分(コース)藍本駅—酒神神社—虚空蔵堂—立杭の里(陶器まつり) JR相野駅(約12km) 一般回)参加自由・無料 神鉄観光事業部078(521)0321

**山陽電車**

▽山陽ハイキング「明石海峡を望みし明石西公園ハイイク」 9月22日(日)雨天中止(集合)東垂水駅下車平磯芝生広場10時(コース)平磯芝生広場—マリリンピア神戸—アジュール舞子—大蔵海岸公園(昼食)—明石港—明石西公園—西新町駅(約11km) 一般回)参加自由・無料(須磨浦遊園地ハイキング係)078(731)2520

▽山陽ハイキング「御津町イモ掘りハイイク」 10月6日(日)(雨天延期の場合10月13日(日)) (集合)山陽通千坂下車西約300m掛保川河川敷石岸10時(コース)掛保川河川敷—龍門寺—高嶋神社—成山新田(昼食)—龍門寺—大覚寺—増尾—山陽通千坂(約10km) 家族回)参加自由・無料(イモ掘り料要) 須磨浦遊園地ハイキング係078

(731)2520

▽山陽ハイキング「馬坂峠—八家地蔵を訪ねるハイイク」 10月20日(日)雨天中止(集合)大塩駅前大塩公園10時(コース)大塩公園—馬坂峠—牛谷—湊神社—八家地蔵(昼食)—木庭神社—八家駅(約10km) 一般回)参加自由・無料(須磨浦遊園地ハイキング係)078(731)2520

**三岐鉄道**

▽鈴鹿の山を歩こう「秋の奥境尾根縦走」 10月26日(日)雨天中止(集合)近鉄富田駅8時22分発三岐鉄道乗車(電車)西藤原駅9時13分(コース)西藤原駅(バス)コグルミ谷—カククリ峠—白船峠—藤原山荘—大貝戸道—西藤原駅(約14km) 健脚回)参加費2000円(バス代別途)1000円、定員200名、電話予約制(9月2日(明)から受付)、三岐鉄道(株)鉄道部運輸課0593(64)2143

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見てください。

# せせらび

## 題字・小林玻璃三

「あっ、猿だ！」友はバスの中で目を丸くして大声をあげた。京都北山の出合橋。学生時代以来、約20年振りに京都北山を通過した。「こんな身近な所にすばらしい自然があったとは……」。友は学生時代も私と山に登っていて、当時は「1000以下の山などは登山の対象ではない」などと、うそぶいていたのだが……。

出合橋から魚谷峠までは林道が通じ、昔の木馬(きんま)道の面影は昔われてしまったが、魚谷山から柳谷峠、細ヶ谷、滝谷峠へと至る道は、山から浸み出る水を集めた沢、若々しい5月の草木、そしてだれ一人にも会わなかった静寂。まさに北山

らしさを満喫した山行であった。20年の歳月を経ても全く変わらないものが、私の心に山への情熱を呼び戻してくれた。

(加古川市 島田浩一郎)

5月18日、滋賀県白倉岳に行きました。低気圧の通過が遅いため一日中曇り空、そのせいか電車でバスも空いていました。下車して間もなく登山口に入るといきなり急登が続き、汗を流す。花は少なかつたけれど、霧におおわれた森のなさは鮮やかな新緑が目にし、千年も経ったかと思われる杉の巨木の前でランチタイムをとりました。だれかが呼び子笛を吹いてい

るのかと勘違いをしそうなヨツカの鳴き声、美しい声のコマドリ・シジュウカラ・ツツドリ・クログミ、他にも何種類かの鳥の声。姿は見られませんが、たが、こんなにもたくさん鳴き声を聞いたのは初めてでした。

雨上がりの山並を眺望しながら、小鳥のさえずりや木の葉をすする風の音、小川のせせらぎ、人っこ一人出会わない静かな山のなか、身も心も洗われる思いで、足取りも軽く充実した一日でした。(京都市 前田幸子)

病院の待合室で何気なく取り上げたグラビア誌をめくっていると、凄惨の剥げ落ちた茶色い土蔵や川屋敷が、傍らを流れる川の水面に影を映す写真が目にとまった。平福(ひらふく)という町で、兵庫県作用部作用町の一集落。「抒情的な川端風景を残す因幡街道の一の宿場町」と説明されている。近くに利神山という山もあり、戦国時代にはここに山城が築かれ、今も城垣が残っているらしい。地図もなく標高も示されていないが、

### ○新ハイ関西サビステーション

- 名峰・二岐登山 小内森—大白森—甲子—那須への縦走(標高)1名でも縦走り駅送迎可(要予約) 藤原山荘と内福(よたまた)
- 福島・二岐温泉 日観連 大和館 99622106621 福島県福島市大栗村二岐温泉 0248184120201 F 024818412705
- 富士登山・富士五湖 東海道自然歩道 (石割山・ハリモミ峠林)
- 三河山の麓 ベンション コットンテール 〒40110502 山梨県南都留郡山中湖村平野 電 055516518515
- 大菩薩連嶺中継か、沢尻根分岐点 個室・岩風呂あり JR中央線山梨駅下車タクシー10分バス20分登山口下車徒歩約1時間
- 山小屋 福ちゃん荘 〒40410002 山梨県山梨市上萩町2302 電(自宅)055313314639 (山小屋)033014179215
- 尾瀬、平ヶ岳探検と約りの山小屋 尾瀬三山(山梨県内)
- 清四郎小屋 ほんもの手打そばと売店は 樹海 〒94610000 新潟県北魚沼郡津谷村湯の森(東山) 電話0259155810028 期間外(11月4日)は 025912145026

城が築かれた山だからさして高くはない、3、400mほどだろう。平福の街を歩き、できれば利神山に登ってみたいとなった。

まさに五月晴れの暖かい一日、JR山陽本線上郡駅から智頭鉄道に乗り換え、平福駅で下車する。駅前道草取りをしていて、高年の婦人に山のことを尋ねた。するとニコリと振り返って駅裏山を指さし、「そら、上の方に石垣の跡が見えるやろ、あれが利神山（りかみさん）」。

そして別の方向を示して、「ここをしばらく行くと登山口の標識がある。そこを左へ曲がり、軒家を右に行くと、そこが入口。踏み跡があるし、さっき人が登って口開いた」と教えてくれた。顔と口調にこの山を誇る気分が少しばかりあり、「りかみさん」と音読みするのも戦国時代らしく、好ましかった。

途中でその一組が休憩していた。私たちよりやや年上の夫婦で、「さっき下に見えていたのに、早いですね。ここで300mほど。373mの山だから、もう少しです。お先にどうぞ」と道を譲られた。石垣のすぐ下

まで来て、山頂へ標高はあと20mばかり。しかし石垣が崩れかけており、かなり急な傾斜だから、ここまでで満足することにしたら。

暖かいし天気はいいし、申し分のない眺めが広がっている。先程の夫婦が来て、「眺めの開けた山ですね。あれが日名倉山（1047m）のようですよ」と地図を示しながら教えてくれた。見下ろすと直下に平福の集落が作用川に沿って細長く伸び、煙のぼりが小さく泳いでいた。

(高槻市 紀平龍雄)

私はマイカー登山なので、常に同じ所に戻ってくる。往復同じ道ということが多い。それではつまらないという人もいるが、私は結構楽しい。登りで見落としていた花を下りで見つけることもあるし、行きと帰りでは風景も違う。行きに迷わなかったのに帰りには迷ってしまうこともある。下りに迷いそうだった所には、落ちていた枝で目印しておくこともある。

5月末に、奥余野公園からソコ峠を経て北打山を目指した。

歩き始めてすぐの所で蔓性木本の白い花を見た。初めはサネカズラかと思ったが、どうも違う。葉はマクタブに似ていたがそれとも違う。帰りにもう一度よく確認し、家で本を見たら、サルナンシだとわかった。「キウイフルーツよりはるかに美味」との記述を見て、秋に再訪して味わってみたいと思った。

この時も、ソコ峠近くで帰りにウロウロしてしまった。尾根上と斜面の両方にテープがあったので、迷ったのだ。結局、どちらからも行けたのだが。

(松阪市 藪木伸人)

6月初旬、晴天の下、広島県の比婆峠を縦走した。

六ノ原から歩き出して出雲峠へ登り、そこから鳥帽子山、比婆山、池の段、立鳥帽子山と進む標準コースである。

この中、代表的な比婆山は御陵と呼ばれ、古事記に「故、其の神遊りましし伊邪那美命は、出雲と伯伎國の堺、比婆之山に葬しまつりき」と記述されている山であり、その神陵は神秘的なイチイなどの巨木に囲まれる

ハイカーの宿・池の平温泉  
ナガサキロッジ  
百名山を二つ登れる山小屋  
黒沢池ヒュッテ  
〒949-1210 新潟県中頸城郡妙高高原町の平温泉  
02555-1861 2261

休養食入浴も歓迎  
10名以上マイクروبスで送迎  
箱根仙石原温泉  
福 島 館  
〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139  
0460-449041

四季賑やかな集落高原のハイイク  
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー  
けやき造りと味の宿・日観連  
温泉旅館 けやき山荘  
〒390-1500  
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原  
0263-93125555

さわやか信州  
露天風呂 山吹の湯  
湯田中温泉(穂波)  
日野屋旅館  
〒38-0400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波  
0269-3313578

大岩だった。

鳥帽子山と池の段では、180度の展望が開けていてすばらしかった。立鳥帽子山は最高峰なので大いに期待したのだったが、狭い頂上で展望も不十分だった。

縦走して印象に残ったのは、ブナなどの鮮やかな新緑である。関西の山は総じて暗い杉の植林地帯を歩くことが多いのだが、今回は強い陽射しは遮られながらも、明るく爽やかな山歩きを楽しめた。

翌日、東出雲町の伊賦夜坂、平田市の猪目洞窟を訪ねた。

古事記には、「黄泉の国へ嫁立った伊邪那美命を伊邪那岐命が迎えに行ったが、その入口、即ち黄泉の穴の前で待たされ、しびれを切らし暗黒の中へ灯火を持って足を踏み入れた。そして最愛の妻の腐り果てた姿を見る。慌てて逃げ出したが伊邪那美命に追いかけてられ、黄泉国と在世の境である黄泉比良坂に必死でたどり着き、大岩を掘って逃がった」という物語があるが、現在、黄泉の穴は猪目洞窟、黄泉比良坂は伊賦夜坂と信じられ

ているからである。

《神話・伝承の世界》古事記・日本書紀を歩く」という本に、「伊賦夜坂は比婆山と猪目洞窟からはほぼ等分の距離にあり、生と死の境を丁度真ん中に置いた古代人の伝承は、想像の世界を限りなく膨らませてくれるのである」といった内容のことが書かれているが、その三つとも歩いたな、と感無量になった。

(枚方市 東谷 宏)

6月の例会山行で、昨年嵐のため撤退を余儀なくされた南八ヶ岳を歩きました。

今回は山脈東側の種子湯から入山し、八ヶ岳連峰を南北に分ける夏沢峠を起点として、終点の観音平まで縦走しました。前夜発1泊2日という行程はなかなか厳しく、山酔いなどの体調不調に苦しんだ方もありましたが、標準コースタイムを上回る早さで全員無事完歩できました。

山は終日ガスに巻かれて視界がきかず、期待の花たちも昨年と比べると精気に欠け、いささか淋しい感じではありましたが、

高山植物に彩られた尾根歩きには、やはりふだんの山歩きにはない充実感がありました。

また、今回は特に動物たちとの出会いに恵まれました。しらびそ小屋ではリスやウツとふれあい、赤岳では登山者見学(?)のカモシカに大接近。権現岳への稜線では、道案内する(?)ホンガラスの白班をちらした黒々とした姿を間近にじっくりと味わうことができました。

それにしても、28人という大集団の縦走はめずらしいのか、単独行の若い男性は「この人数で赤岳を越えるのは大変だったでしょう」としきりに感心していました。そんな大人数にもかかわらず、他のパーティに大きな迷惑をかけずにすんだのは、6月の八ヶ岳だったからでしょう。(各務原市 鷺見守康)

梅雨の最中と思えない、初秋のような爽やかな好天に恵まれた6月23日、小出リーダーの「羽黒山から筆捨山(鈴鹿)の山行に、55年ぶりに家内と再挑戦してきました。

〒399-19300 長野県北安曇郡白馬村赤倉高原 0261-7217255 http://www.nishiohka.com/whitehorse/	〒399-19301 白馬ブランチエ ホテル	〒384-0000 長野県小諸市高峰高原 0267-2512000	ハイキングにノ スキーにノ 志賀高原 石の湯ロッジ バス 無の湯線平床下車 0269-3412421 東京本社・東京都新宿区新宿3 120-15(新光第2ビル) 03-3341-0211	〒38-0400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波 0269-3313578	〒390-1500 長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原 0263-93125555	〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139 0460-449041	〒949-1210 新潟県中頸城郡妙高高原町の平温泉 02555-1861 2261
--	------------------------------	---	---	---	--	--	---

標高290・8mと低山のた  
め、ハイキング気分に参加しま  
したが、最初から悪戦苦闘の連  
続。岩場あり岩くぐりありと、  
鈴鹿の山の厳しさを痛感しまし  
た。

羽黒山は切手の図案に採用さ  
れただけに、林立する岩群の姿  
は感動を与えてくれました。三  
方を山、山に伊勢湾を望む、す  
ばらしい展望を心ゆくまで満喫。  
オプションで花ノ木山まで足を  
運んで四山を巡る。観音山では  
岩壁にまつられた石仏群に見送  
られて、故郷の山に足跡と思っ  
出を残し、心地よい疲れをお土  
産に車中の人となりました。

(宇治市 中村英雄)

若丹国境、八ヶ峰を歩いた。  
地形図は「久坂(ひささか)」。  
以前、幕末の志士、久坂源瑞  
を「くさかげんずい」と読むか  
ら「くさか」と読んでいたが、  
よく読むと「ひささか」ですぐ  
に修正したのを覚えていた。  
八ヶ峰は江戸期の国名で、越  
前・若狭・丹後・丹波・近江・  
山城・摂津・河内の八ヶ国が眺  
望できたから付けられたという。

「国見岳・三国峠」や「お国自  
慢・お国なまり」という文字が  
あるように、言うまでもなく江  
戸期の「国」とは「日本国」を  
指すのではなく、五八州のこと  
である。

さて、染ヶ谷川沿いにある八  
ヶ峰自然休養村に車を置き、日  
本海側の黄紅葉を求めて歩い  
た。

登山口からどどん進んで、  
P698から派生する支尾根  
を歩き、杉の植林帯を抜けると  
すばらしい自然林が目飛び込  
んでくる。樹皮にシカの角研ぎ  
痕があるのを見つめる。次に目  
の前を突然、こちらを見ながら  
逃げるものがいた。二頭のニホ  
ンザルだ。しばらくすると今度  
はツキノワグマ?の糞の匂いが  
風に乗って漂ってくる。その後  
もイノシシの土耕跡やシカ糞、  
テンユ、テン食痕、ハモグリガ  
跡と見つけて自然を満喫する。  
山頂まではゆっくりと食事をし、  
山座同定を楽しんだ。次回は目  
の前の飯盛山と多田ヶ岳に來よ  
うと心に決めてから若丹尾根を  
くだった。この尾根も「観光地  
のそれとは一味違う」カエデ類

やブナを見ながら夢心地でのん  
びりと歩いた。

五波峠からは林道歩きとなっ  
たが、アキグミの実やヤクシソ  
ウの葉を食したり、トチの大木  
を見たり、美しい滝のしぶきを  
浴びたり。まさしく山川草木を  
愛でながら駐車地に戻った(平  
成13年秋。  
(向日市 湯浅康夫)

山行短歌

4月27日 紀北矢野岳  
荒鷲の羽ばたくという滝落ちて  
流れの果てに青き星が飛ぶ  
4月30日 宝塚保養所にて  
散り散りに去りゆく友と離れても  
山で逢おうと誓い杯交わす  
5月3日 加賀富士写ヶ岳  
何求め何望み四駆を飛ばし来し  
シャクナゲ祭の初夏の北国へ  
5月7日 当尾浄瑠璃寺  
吉祥天女そのふくよかな真紅の  
くちびる想いおり塔下にて  
5月7日 奈良般若寺  
小雨に暮れゆき般若寺の樓門も  
親音石仏もコスモスも眠れよ  
5月21日 台高木ノ実穴塚  
尾根とりつきへ林道駆け登れば  
なべてのもの清く澄むブナ林

5月31日 紀泉岩湧山

一徳坊と編笠の前山を越えて  
眺めに想い満ち足りている  
6月4日 大峰積連ヶ岳  
うるわしの古田の森の白ヤシオ  
夢みつつ過ぎれば積連が待つ  
6月8日 丹波弥仙山  
水分神社のあすなろの上枝よ  
そこから槍の頭が見えるかい  
6月9日 越美三周ヶ岳  
山道を駆け下りてくる百合少女  
汝は風に舞う落花なりしを  
6月20日 越美夜叉ヶ池  
雨のむこうに夜叉ヶ姫浮遊せば  
池面波立ちてブナ林揺らぐ  
(吹田市 木村太郎)

山行短歌

4月24日 近江カラスト花の里山  
白玉の山芍薬は半開き  
豪華絢爛花弁の中は  
カラストの山が萌え出す深山の  
エビネの花に今年も会えて  
二輪草三輪草も咲き乱れ  
この花の道どこまで続く  
5月3日 綿向山・雨ヶ岳  
細尾根は石楠花の花咲き誇り  
赤とピンクのトンネル続き  
びゅうびゅう吹きつける風強烈に  
霧も走って笹原さわぎ

源流の廃車は朽ちず大納言

5月12日 御在所岳・西峰  
絶景の岩場の下の新緑へ  
秘境の樹海雨乞岳へ  
山は朝えハルリンドウも咲き乱れ  
紺碧の空春の息吹が  
5月14日 御池岳  
幻の花を訪ねてさまよって  
深山秘境新緑に酔い  
新緑に一際目立ち咲き誇る  
壺壺と蛇結次が  
5月19日 近江カラスト花の里  
山道は霧雨にぬれ鳥の声  
半鐘壺が頭上に咲いて  
5月26日 仙ヶ岳・御所平  
もこもこアセビの若葉輝いて  
グミの木平腰を下ろして  
6月9日 サクラグチ・能登ヶ峰  
絶景の鹿の草原淡みどり  
波風よせて我れを忘れて  
(近江八幡市 若野 明)

「山に魅せられて」

山は奢りを論じてくれる  
山は謙虚さを教えてくれる  
山は悲しみを受けとめてくれる  
山は喜びを微笑んでくれる  
山は父のように強く優しい  
山は兄のように逞しく温かい

山に教わりました

山に聞きまじりました  
山に情けがられることも  
山に神様がられることも  
山に仏様がおられることも  
山に登って知りました  
山に会い、友に会い、夢に会い  
山に向かって今日もそっと手を  
合わせます  
(神戸市 前田喜久子)

4月28日、横山岳と墓谷山を歩いた。

8時48分、経ヶ滝を通過した。  
滝の手前に雪のトンネルがあっ  
た。谷の水が雪を溶かしてでき  
たものである。  
9時40分、五鏡子の滝を通過  
した。イワウチワを期待したが、  
ほとんどの花は終わっていた。  
10時45分、横山岳西峰に着い  
た。時間があるので、1年ほど  
前にできた東峰への道を歩いた。  
昨年横山岳に来たとき、たま  
たま地元の山開きにつかり、  
参加されていた山本武人さんが、  
重廣恒夫さんに「こんな新しい  
道ができたんですよ」と言いな  
がら歩いていかれたのを横目で  
見て知った道だ。

八ヶ峰南北縦走の中心地  
59年秋新館築完成全館個室  
木の香匂う新浴場誕生大浴場  
オーレン小 小屋  
1泊2食付き 6000円  
4月未 11月末開設  
茅野市豊平27220 小車勇夫  
電話 02666172112799

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー  
J.R.茅野駅・北八ヶ岳登山口ま  
で送迎します  
茅野市豊平27220 小車勇夫  
電話 02666172112799

日本百名山の宿  
信州戸隠山  
森の宿めるへん  
高梨山・黒姫山登山口まで送迎  
クロコ・コースご案内  
〒38814100  
長野県戸隠村越水ヶ原  
電話 0261255412081

九州の最高峰・日本百名山  
宮之浦岳に一番近い宿  
屋久島安房登山口  
屋久島グリーンホテル  
〒89114311  
鹿児島県鹿毛郡屋久町安房  
電話 09974163021

御在所登山に  
愛知川渓谷歩きに  
山好き仲間集う宿  
朝明茶屋  
山小屋 朝明茶屋  
〒51012551  
三重県二重郡菟野町千草  
電話 059319311789

那岐山麓の宿、近くに百名山の大山  
一百名山の水ノ山・上巻山などあり。  
三百名山 那岐山のふもと  
岡山県 那岐山荘  
〒70811307  
岡山県岡田郡赤松町高岡  
電話 0866813614154

西峰から少し歩くと雪原にな  
り、その後は天上の散歩道とい  
う感じになった。20分ほどで東  
峰に着いた。  
東峰は西峰と違い、ほぼ36  
0度の眺望が楽しめた。天気は  
薄曇りだったが、北に荒島岳、

北東に蕎麦粒山が見えた。  
14時10分、暮谷山に到着し、  
杉野にくだった。  
(大津市 小林 穂)

平成13年10月27日、日本コバ  
へ登ってきた。「鈴鹿の山」  
(山と溪谷社、昭和47年)によ  
ると、昭和45年秋に道標が立て  
られるまでは、道に迷って頂上  
に立てない人もいたという。  
今では、よく整備されたコー  
スになっているものと安心して  
いたが、あにはからんや、ニヶ  
所で迷ってしまった。

最初に迷ったのは、岩屋を過  
ぎて、衣掛山との分岐点から山  
頂方向へ向かい、湿地の手前で  
危険という表示の左側を通り、  
踏み跡のわかりにくい所を抜け  
て、沢を渡った地点であった。  
道標が立っていて、日本コバ  
という表示があった。沢を渡っ  
て、まっすぐを示しているのだ  
が、そのプレートが折れている  
取れそうだが、案外頑固に残っ  
ている状態になっていたのであ  
る。けれども、左方には紫色の  
ナイロンひもがあり、どうも道  
は直進でなく、左らしいのであ

る。しかし、折れていなければ  
ちゃんとした立派な道標であり、  
だれかのいたずらだろうと判断  
して直進したところ、足下はぬ  
かるんだ湿地となり、登山靴が  
ほとんど埋没しそうになって、  
ほうほうのていで左に抜け出た  
ら、再び沢に出た。

そこにある道標は、今歩いた  
湿地でなく、沢沿いの道を案内  
しているのではないか。やはり直  
進は間違いで、左に沢に沿って  
歩くのが正しいコースであった。  
実際に沢沿いにたどるとどう  
なく、折れた道標の地点に戻っ  
た。今までもたまにそれだと思っ  
た登山者が道標を折ったのだろ  
うと思いがたかった。しかし、そ  
れなら完全に除去すべきである。  
私は日本コバという道標のプレ  
ートを完全にむしり取り、かわり  
にマジックで道標の木柱に道し  
るべを書き込んでおいた。  
もう一ヶ所、迷ったのは、山  
頂を踏んでから分岐点に戻り、  
衣掛山方面への道に入って少し  
進んだ地点である。

直進しているのに急に踏み跡が  
不明瞭になり、やぶに突入した  
ので、道はずしらしいと気  
づいたが、正しい道がよくわか  
らないような立地であった。  
道の明瞭な所まで戻ると、横  
の木の枝に赤テープを見つけた  
が、道はカヤにおおわれていて、  
進行方向の左手に道があるとは  
思えないような状態であった。  
刈り取りをしておかないと今  
後も迷う人が出そうである。道  
が左にそれるこの地点には目立  
ちやすい目印をしておいた。  
この先、尾根道を進み、左に  
林道への分岐を見たあとすぐに  
分岐があるが、右の下り道をと  
ればよい。山腹を急降下して民  
家の裏に出たら、左をとれば、  
政所の集落を抜けて舗装道に出  
られる。

最近、ヤマヒルの生息範囲が  
拡大している。これまで見掛け  
なかった所で見ると、犠牲者も  
多く出ている。原因は人工林が  
増え、間伐が行き届かないので、  
風が樹間を通り抜けられないから  
とも言われている。  
そこで、新ハイの仲間情報  
を提供していただき、ヤマヒル  
の生息地図を製作してみたい。  
ヤマヒルに遭遇された方は、  
山名(所在地)・コース・日時・  
天候・多い少ないなど、その他  
感想を知らせてください。研究  
機関・研究者からの資料の提供  
やアドバイスのお願いしたい。  
林野庁を始め、行政も植林を  
推進した一義的責任者なので、  
対策を考え行動することを望む。  
(宛先) 〒671-1126 2  
姫路市余部区上余部50の2の11  
須磨岡 榎まで  
(連絡先) 須磨岡 榎

### 山行計画 (9・10月)

新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記して  
あるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往  
復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到  
着するように申込み先に申し込んでください。電話・F  
AXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参  
加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。  
山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。  
体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。  
例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係  
に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの  
場合は2日になり200円)を支出していただきます。  
傷害保険特約内容は次の通りです。(安田火災海上保険会社と契約)

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに  
係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①  
ビッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参す  
ることを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を  
目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書  
山行名(正確に記入すること)  
期日  
住所 〒  
氏名  
会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)  
電話番号  
生年月日  
緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自  
分の住所氏名に「様」までを必  
ず記入してください。

### 湖西・箱館山から処女湖 (一般向き)

期日 9月1日(日) 日帰り  
集合 JR名古屋駅中央改札口  
6時55分/JR湖西線近  
江今津駅10時05分  
コース 近江今津駅(バス)箱館  
山(ロープウェイ)見晴  
台駅-Aコース-平池-  
処女湖-Bコース-見晴  
台駅-箱館山三角点-箱  
館山(バス)近江今津駅  
(解散14時30分)  
費用 約3000円(青春18き  
つ 使用名古屋から)  
地図 2万5千11海洋・熊川  
係 ①小出良春  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*集合駅を明記ください  
箱館山は1等三角点の山。平池  
湿原・処女湖と見どころの多い山  
です。雨天中止

山行例会の実施について  
山行例会は保険を掛けたり、  
登山届けを提出しますので、実  
施日の7日前までに上記記入例  
の通り、必ず往復ハガキで申し  
込んでください。人数により前  
もって、バスなどをチャーター  
する必要もあります。また山で  
はいかなる事態が発生するかも。  
緊急連絡先など、記載すべき事  
項はもれなくご記入ください。  
申し込みの返信案内は細目が  
決まり次第、山行日の10日前頃  
からします。早くに申し込まれ  
た方はそれまでお待ちください。  
定員のある計画は先着順に受  
け付けます。  
記載のグレイドは、常日頃山  
歩きに親しんでおられることを  
前提にしています。  
(初心者) やさしいコース  
(初級) どなたでも歩けます  
(一般) ハイキングの標準コース  
(中級) かなり経験者のコース  
(やや健脚) (健脚) は、  
危険な所があり、キツイ登りや  
下りが長く続くコースと、ご理  
解ください。

おかも池・龜山・龜山  
 峠―二本ノノ―倶留山  
 西浦峠―中太郎生(バ  
 ス)名張駅(解散)  
 費用 約5000円(大塚か)  
 地図 昭文社『赤目・倶留尊  
 高原』  
 係 ◎村田智俊 ○長比裕美  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 村田智俊まで  
 初秋の當麻高原はスキの原が  
 風にそよんでいる。倶留山から  
 西浦峠に稜走します。小雨決行  
 ファミリーハイク15  
 丹波・三岳から小金ヶ岳  
 (一般向き)  
 期日 9月5日(日) 日帰り  
 集合 新大阪駅一階正面口構内  
 7時00分  
 コース 新大阪駅(バス) 火打岩  
 一三岳―大タワ―小金ヶ  
 岳―大タワ(バス) ささ  
 やま荘(バス) 新大阪駅  
 費用 約3000円(バス代)  
 地図 2万5千〇〇〇宮田・村雲  
 係 ◎木村太郎 ○中村友昭  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
 \*定員23名(会費に限る)  
 多紀アルプス主峰三岳から岩峰  
 小金ヶ岳へ歩く。下山後「ささや  
 ま荘」で汗を流します。雨天中止  
 自然観察山行98  
 美濃・釜ヶ谷山 (一般向き)  
 期日 9月7日(日) 日帰り  
 集合 JR大垣駅8時40分  
 コース 大垣駅(バス) 伊自良湖  
 駐車場―登山口―奥の院  
 一釜ヶ谷山―釜ヶ谷林道  
 一登山口―伊自良湖駐車  
 場(バス) 大垣駅(解散  
 18時頃)  
 費用 約3500円(大垣駅か  
 らバス代等)  
 地図 2万5千〇〇〇美濃神海  
 係 ◎鷺見守康  
 申込み 〒504-0828  
 各務原市蘇原村雨町1の  
 19の5 鷺見守康まで  
 \*定員30名  
 標高700m程度の山ですが、  
 意外に山深く、植物も豊かです。  
 小雨決行  
 比良  
 大津ワングル道から橋梅滝

(一般向き)  
 期日 9月7日(日) 日帰り  
 集合 JR比良駅9時15分  
 コース 比良駅(バス) イン谷―  
 ワンゲル道―釈迦岳―寒  
 風峠―橋梅滝―北小松駅  
 (解散16時30分)  
 費用 交通費各自  
 地図 昭文社『比良山系』  
 係 ◎藤原孝子  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 残暑厳しいときです。暑さバテ  
 するようならコース変更もありま  
 す。雨天中止  
 週末ハイク42  
 キャンプ&ハイク  
 比良・八洲の滝から武奈ヶ岳  
 (中級向き)  
 期日 9月7日(日) 8日(日)  
 1泊2日  
 集合 (7日) JR近江高島駅  
 15時30分(マイカー参加  
 の方も)  
 コース (7日) 近江高島駅(バ  
 ス・マイカー)ガリバー  
 旅行村(常設テント泊  
 (8日)ガリバー旅行村

八洲の滝―八雲ヶ原―  
 武奈ヶ岳―細川越―大指  
 峠―ガリバー旅行村(バ  
 ス) 近江高島駅(解散)  
 費用 約6500円(バス・宿  
 泊・飲食代等)  
 地図 昭文社『比良山系』  
 係 ◎狩野東彦 ○加藤元彦  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*定員30名(会費に限る)  
 \*8月28日まで  
 \*マイカー参加の方は明  
 記ください  
 恒例になった夏を締めくくるキャ  
 ンプ&ハイク。食料・飲料共に十  
 分用意します。雨天決行  
 鈴鹿を歩く151  
 カクレグラ―北峰  
 (やや健脚向き)  
 期日 9月8日(日) 日帰り  
 集合 藤吹谷旧林道入口8時30  
 分  
 コース 旧林道入口―新林道終点  
 一向平谷―源流尾根―カ  
 クレグラ―北峰―カクレ  
 グラ―向平谷西尾根―P  
 708―新林道―旧林

道入口(解散)費用  
 交通費各自  
 地図 昭文社『御在所・鎌ヶ  
 岳』  
 係 ◎岩野 明 ○山田景三  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*マイカー山行  
 秘境の向平谷をつめ、支尾根に  
 取りついてカクレグラに登ります。  
 下山は新ルートP708の尾根  
 をくだります(22号51ページ参照)。  
 雨天中止  
 台高・白屋岳(一般向き)  
 期日 9月8日(日) 日帰り  
 集合 近鉄大和上市駅8時55分  
 コース 大和上市駅(バス) 湯盛  
 温泉・杉の湯(バス) 白  
 屋―登山口―白倉辻―大  
 平―白屋岳―鷺ノ郷越―  
 林道武木線武木(バス)  
 杉の湯(バス) 大和上市  
 駅(解散17時頃)  
 費用 約3500円(上本町駅  
 から)  
 地図 昭文社『大台ヶ原』  
 係 ◎西上和和 ○中村英雄  
 申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*定員20名(会費に限る)  
 白屋岳は台高の主稜線から外れ  
 ているためか、訪れる人も少なく  
 静かな山歩きが楽しめます。  
 雨天中止  
 北摂・大野山(初級向き)  
 期日 9月8日(日) 日帰り  
 集合 JR名古屋駅中央改札口  
 6時15分/阪急川西能勢  
 口駅バスのりば9時49分  
 コース 阪急川西能勢口駅(バス)  
 西経井沢―水場―大野山  
 一三本松―大野口(バス)  
 JR川西池田駅(解散16  
 時18分)  
 費用 約4100円(会費18きつ  
 お使用分空古屋から)  
 地図 2万5千〇〇〇木津・福住・  
 増生  
 係 ◎小出良春  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*集合駅を明記ください  
 樹林に包まれた静かな山です。  
 雨天中止

自然観察山行99  
 美濃・伊吹北尾根(一般向き)  
 期日 9月14日(日) 日帰り  
 集合 JR大垣駅8時40分  
 コース 大垣駅(バス) 国見峠―  
 国見岳―大禿山―御座峠  
 一龍馬ヶ原―善又―ささ  
 れ石公園(バス) 大垣駅  
 (解散)  
 費用 約3500円(大垣駅か  
 らバス代等)  
 地図 2万5千〇〇〇美東・関ヶ原  
 係 ◎鷺見守康  
 申込み 〒504-0828  
 各務原市蘇原村雨町1の  
 19の5 鷺見守康まで  
 \*定員30名  
 秋のフラワートレッキング。春  
 に負けず、花たちの彩りがすばら  
 しい。北尾根の人氣に比べ再々行  
 です。小雨決行  
 越前・鬼ヶ岳(初級向き)  
 期日 9月14日(日) 日帰り  
 集合 北陸自動車道南条サビ  
 スエリア10時00分  
 コース 南条サビスエリア(車)  
 武生インター(車) 大虫  
 町JACントリー裏―鬼  
 ヶ岳―展望台―コース―大

虫町JACントリー(車)  
 武生インター(解散)  
 費用 交通費各自  
 地図 2万5千〇〇〇武生  
 係 ◎高島伸浩  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*マイカー山行  
 頂上からは牧草半島、日本海、  
 白山まで展望する。雨天決行  
 三重・修験業山から栗ノ木岳  
 (一般向き)  
 期日 9月15日(日) 日帰り  
 集合 近鉄名古屋駅地下6時25  
 分/近鉄名張駅9時00分  
 コース 名張駅(バス) 川上八幡  
 神社―堀堤―小尾根―栗  
 ノ木岳分岐―高宮―修験  
 業山―栗ノ木岳―若宮峠  
 一川上八幡神社(バス)  
 名張駅(解散17時頃)  
 費用 約3500円(名張駅か  
 らバス代)  
 地図 2万5千〇〇〇宮前  
 係 ◎小出良春  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで

★定員31名  
 ＊集合駅を明記ください  
 修験美山は山岳信仰の山です。  
 栗ノ木岳は三角錐の鋭峰で、カタクリやシクナゲの花が多いと言われている。低山中の名山だと思えます。雨天中止

○鈴鹿百山34  
 仙ヶ岳(健脚向き)  
 期日 9月15日(日) 日帰り  
 集合 JR関西線亀山駅7時50分  
 コース 亀山駅(車)石谷林道→菅林小屋→白谷→仙ヶ岳  
 東峰→南尾根→不動祠→菅林小屋→石谷林道(車)  
 亀山駅(解散)  
 費用 交通費各自(車代1000円)  
 地図 2万5千＝亀山・鈴鹿峠  
 係 ◎山田明男 ○高原芳彦  
 申込み 〒503-0535  
 海津郡南濃町松山24の19  
 山田明男まで  
 ＊定員20名  
 ＊マイカーの方はその旨記載ください  
 石水溪から仙ヶ岳へ登って南尾根をくだります。雨天中止

北山ちよつと歩き37  
 山科から大文字山・火床(一般向き)  
 期日 9月18日(日) 日帰り  
 集合 JR山科駅9時00分  
 コース 山科駅→安祥寺→第一見晴台→第二見晴台→第三見晴台→大文字山→火床→御開寺前(解散15時頃)  
 費用 約1000円(大阪から)  
 地図 2万5千＝京都東北部  
 係 ◎呉山繁三  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 東山のメインルートから外れ、あまり人の歩かないコースです。第一・二・三見晴台からは京都南部の山々と市街を、火床からはすばらしい京都の街が望まれます。小雨決行

中国自然歩道2  
 鳥取東部・扇ノ山(一般向き)  
 期日 9月22日(日) 日帰り  
 集合 JR西明石駅西出口7時30分  
 コース 西明石駅(バス)ふるりの森→扇ノ山→畑ヶ平(バス)湯村温泉(バス)  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 ＊マイカー山行

西明石駅(解散19時頃)  
 費用 約4500円(西明石駅よりバス代等)  
 地図 2万5千＝扇ノ山  
 係 ◎古賀慶一  
 申込み 〒675-0112  
 加古川市平岡町山の864の33・17A403  
 古賀慶一まで  
 ＊定員24名  
 秋の気配が深い始めた扇ノ山を訪ねます。コース変更あり。雨天中止

鈴鹿を歩く152  
 三国岳・鳥帽子岳(健脚向き)  
 期日 9月22日(日) 日帰り  
 集合 国道306号線百々女鬼橋広場8時30分  
 コース 広場(車)鳴川谷林道終点→三国岳→鳥帽子岳(往復)→広場(解散)  
 費用 交通費各自  
 地図 昭文社「霧仙・伊吹・藤原」  
 係 ◎岩野明 ○山田景三  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 ＊マイカー山行

西明石駅(解散19時頃)  
 費用 約4500円(西明石駅よりバス代等)  
 地図 2万5千＝扇ノ山  
 係 ◎古賀慶一  
 申込み 〒675-0112  
 加古川市平岡町山の864の33・17A403  
 古賀慶一まで  
 ＊定員24名  
 秋の気配が深い始めた扇ノ山を訪ねます。コース変更あり。雨天中止

三国岳から北東岐阜県側に派生する稜線上に鳥帽子岳がそびえている。近江側からは遠い山だが、自然林のすばらしいこの稜線を歩く(35号46・48ページ参照)。雨天中止

地面狭み山行52  
 六甲・長峰山(一般向き)  
 期日 9月22日(日) 日帰り  
 集合 阪急六甲駅9時00分  
 コース 六甲駅→伯耆野山の碑→登山口→送電鉄塔→長峰山→袖谷峠→三国岩→前ノ辻→アイスロード→土橋→六甲駅(解散)  
 費用 約600円(大阪から)  
 地図 2万5千＝神戸首部  
 昭文社「六甲・摩耶・有馬」  
 係 ◎塚元一彦 ○中村登  
 申込み 〒536-0008  
 大阪市城東区関目4の14の9の901 塚元一彦まで  
 ＊先着30名  
 ＊9月15日まで  
 新ハイキング関西支部高尾山行六甲山の前山の一つを歩いて地形図とコンパスの使い方を勉強します。アルペン気分が味わえる岩の

湖北・かぶと山から日撫山(初級向き)  
 期日 9月22日(日) 日帰り  
 集合 JR名古屋駅中央改札口8時00分/JR米原駅東口9時30分  
 コース 米原駅(バス)多和田→大宝神社→南登山口→かぶと山→北登山口→山津照神社→北野神社→日撫山→飯→坂田駅(解散15時30分頃)  
 費用 約2600円(名古屋から)  
 地図 2万5千＝長浜・彦根東部  
 係 ◎小出良春  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 ＊集合駅を明記ください  
 ＊本誌65号に紹介された、里山シリーズの万葉と史跡の山を、かぶと山と結んで歩きます。雨天中止

大和路ハイイク  
 南山の辺の道(一般向き)  
 期日 9月24日(火) 日帰り  
 集合 近鉄桜井駅北口9時30分  
 コース 桜井駅北口→仏教伝家の

地海枯櫛市跡→金屋の石仏→磯城瑞穂宮→平等寺→大神神社→狹井神社→玄實庵→檜原神社→兵主神社→相模発祥の地→崇神天皇陵→長岳寺→畠田陵(西殿塚古墳)→夜都岐神社→石上神宮→(天理教参考館)→天理駅(解散)  
 費用 交通費各自  
 地図 2万5千＝大和郡山・桜井  
 係 ◎車本廣治 ○前川和佳子  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで

山の辺の道は、三輪山の西南麓から春日新層屋の西縁を縫って北上し、奈良山丘陵にいたる古道である。道沿いには、古墳、名所、旧跡、古墳、古代の遺跡が点在している。速く大和三山や二上・葛城・金剛山さらに生駒山系を望みながら歩く。雨天中止

平日水曜ハイイク56  
 京都北山・ナベ谷山と井ノ口山(一般向き)  
 期日 9月25日(水) 日帰り

京都出町柳駅京都バスのりば7時40分(50分発に乗車・北大路駅8時03発も可)  
 コース 出町柳駅(バス)花背農協前→湯澤山(片波山)→ナベ谷峠→ナベ谷山→井ノ口山→井ノ口橋(バス)出町柳駅(解散17時頃)  
 費用 約2000円(出町柳駅からバス代等)  
 地図 昭文社「京都北山2」  
 係 ◎湯浅次男 ○青木一雄  
 申込み 〒569-1133  
 高槻市川西町1の18の20  
 湯浅次男まで  
 ＊バス乗車駅を明記ください  
 ＊バス乗車駅を明記ください  
 この山系には台杉の群落があります。めったに見られない景観です。雨天中止

自然観察山行100  
 北アルプス・乗鞍連峰(中級向き)  
 期日 9月27日(金)夜29日(日)前夜2日  
 集合 (27日)JR岐阜駅23時00分

この山系には台杉の群落があります。めったに見られない景観です。雨天中止

自然観察山行100  
 北アルプス・乗鞍連峰(中級向き)  
 期日 9月27日(金)夜29日(日)前夜2日  
 集合 (27日)JR岐阜駅23時00分

自然観察山行100  
 北アルプス・乗鞍連峰(中級向き)  
 期日 9月27日(金)夜29日(日)前夜2日  
 集合 (27日)JR岐阜駅23時00分

コース (27日) 岐阜駅(バス)

費用 約27000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)  
地図 昭文社「乗鞍高原」  
係 昭文社  
申込み 504108228  
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見寺康まで  
\* 定員20名  
\* 8月31日まで

「女」(裏史)の碑が立つ野麦峠から乗鞍連峰の峰々を巡り、平湯温泉にくだります。雨天決行

京都北山歩き104  
麻村八丁から鴨瀬谷山 (中級向き)

期日 9月29日(日) 日帰り  
集合 JRR京都駅八条口団体バスのりば7時30分  
コース 京都駅(バス) 小塚上ノ

町いきぬけ在分岐口

トバ峠(廃村)八丁トラゴシ峠(コシキ峠)鴨瀬谷山(八丁大道)八丁林道(鴨瀬谷口(バス)京都駅(解放18時バス)約3000円(バス代)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 昭文社「京都北山2」  
係 昭文社  
申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

京都北山・大尾山から横高山 (一般向き)

期日 9月29日(日) 日帰り  
集合 JRR名古屋駅中央改札口6時15分/JRR京都駅バスのりばC列3番9時00分  
コース 京都駅(バス) 大原一三院(大尾山)小野山(仰木峠)水井山(横高山)釈迦堂(京都坂本駅)JR比叡山坂本駅(解放)  
費用 約5200円(名古屋から)

昭文社「京都北山1」

小出良春  
費用 約5200円(バス代)  
地図 昭文社「京都北山1」  
係 昭文社  
申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* 集合を明記ください  
比叡山系北部の主峰を結ぶ縦走です。雨天中止

ファミリーハイイク16

期日 10月3日(日) 日帰り  
集合 新大阪駅一階正面口構内7時00分  
コース 新大阪駅(バス) 養老公園(養老山)三万山(大倉山)養老山(養老公園)車場(バス)新大阪駅  
費用 約3500円(バス代)  
地図 2万5千=養老  
係 昭文社  
申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* 定員23名(会費に限り)  
孝子伝説の養老ノ池から一等三角点の山に登る。グリーンハイック登老で汗を流します。雨天中止

週末ハイイク43

台高・迷岳と池木屋山 (やや健脚向き)  
期日 10月5日(土) 6日(日) 1泊2日  
集合 (5日) 近鉄大和八木駅北口8時00分  
コース (5日) 大和八木駅(バス) 奥新井峠(飯盛山)迷岳(奥新井健康の森)スメール(泊)  
(6日) スメール(バス)宮の谷(池木屋山)宮の谷(池木屋山)スメール(入浴後バス)大和八木駅(解放)  
費用 約25000円(バス・宿泊代等)  
地図 昭文社「大台ヶ原」  
係 昭文社  
申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* 定員23名(会費に限り)  
\* 9月20日まで

台高山脈では足が不便な池木屋山、その東尾根の最高峰の迷岳の二山に登る欲張り企画です。雨天決行

北嶺・歌垣山から能勢妙見山 (一般向き)

期日 10月6日(日) 日帰り  
集合 JRR名古屋駅中央改札口6時55分/JRR山陰線亀岡駅9時55分  
コース 亀岡駅(バス) 歌垣山登山口(歌垣山)堀越峠(妙見山)院分岐(本滝寺)妙見山(上杉尾根)妙見口(電車)阪急川西能勢口駅(解放16時40分)

費用 約4900円(鉄道記念きっぷ使用名古屋から)  
地図 昭文社「北嶺の山々」  
係 昭文社  
申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

近畿百名山に登る (第44回) 湖北・伊吹山(一般向き)  
期日 10月6日(日) 日帰り  
集合 JRR近江長岡駅9時20分  
コース 近江長岡駅(バス) 伊吹登山口(コンドラ) 伊吹

高原駅(五合目)八合目

小原 伊吹山(散策路)周遊(往路)伊吹登山口(バス) 近江長岡駅(解放)  
費用 約5000円(大阪から)  
地図 2万5千=東美・関ヶ原  
係 昭文社  
申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

奈良の山  
大平山・高塚山(一般向き)  
期日 10月8日(日) 日帰り  
集合 近鉄橿原駅南口9時15分  
コース 近鉄橿原駅南口(檢校)大平山(高塚山)唐戸峠(腰折れ地蔵)東海自然歩道(門森峠)近鉄生駒大野駅(解放)

費用 交通費各自  
地図 2万5千=高見山・初瀬  
係 昭文社  
申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
宇陀(標高)の山をのんびりと

越前・野見ヶ岳(一般向き)

歩きます。あまり知られていない山ですが、変化もあって結構楽しめる山です。少々やぶもあります。雨天中止  
期日 10月12日(日) 日帰り  
集合 北陸自動車道南条サービスエリア9時00分  
コース 南条サービスエリア(車) 武生インター(車) 文室(鉄塔遠視路)野見ヶ岳(往路)文室(車) 武生インター(解放)

費用 交通費各自  
地図 2万5千=武生  
係 昭文社  
申込み 61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* マイカー山行  
頂上には年中水位の変わらない武周ヶ池があり、白山が木の間越しに見える。雨天決行

自然観察山行101  
上信越・妙高山と火打山 (中級向き)  
期日 10月12日(土)夜、14日(日)

前後発1泊2日

集合 (12日) JRR岐阜駅23時00分  
コース (12日) 岐阜駅(バス) (13日) (バス) 燕温泉(黄金清水)妙高山(黒沢池)ヒュッテ(高谷ヒュッテ) (泊) (14日) 高谷池ヒュッテ(火打山)高谷池ヒュッテ(富士見平)笹ヶ峰(バス) 杉野沢温泉(浴食)バス 岐阜駅(解放) 約22000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)  
地図 昭文社「妙高・戸隠」  
係 昭文社  
申込み 504108228  
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見寺康まで  
\* 定員20名  
\* 9月14日まで

百名山の二山を結んで歩き、華やかな紅葉を楽しみます。雨天決行(コース変更あり)  
期日 10月13日(日) 14日(日) (中級向き)



集合 1泊2日  
(13日) J R京都駅八条  
口団体バスのりば7時30分

コース (13日) 京都駅(バス)  
勝原スキー場―シャクナ  
ゲ平―荒島岳―シャクナ  
ゲ平―勝原スキー場(バス)  
旭ヶ湯温泉(泊)  
(14日) 旭ヶ湯温泉―  
ソドウ谷―赤兎山―小原  
峠―小原林道(車) 美山  
森林温泉みらくる亭(バス)  
京都駅(解放19時頃)

費用 約25000円(宿泊・  
バス代等)  
地図 2万5千 荒島岳・願教  
寺山  
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝  
◎奥比呂美  
申込み 千61010121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

紅葉の始まった越前の名峰二山  
を巡ります。旭ヶ湯温泉は山間の  
深谷谷間に建つ静かな宿です。  
雨天決行

比良を歩く16  
平から折立山・蓬萊山  
(一般向き)

期日 10月13日(日) 日帰り  
集合 J R 堅田駅タクシーのり  
ば8時40分

コース 堅田駅(タクシー) 平―  
アラキ峠―折立山(往復)  
―横山―ホッケ山―小  
女郎峠―小女郎池(往復)  
―蓬萊山―金比羅峠―び  
わこバレー前―志賀駅  
(解放16時30分頃)

費用 約18000円(京都から)  
地図 2万5千 花背・比良山  
昭文社「比良山系」  
係 ◎秦 康夫  
申込み 千61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
登山者の訪れることの少ない折  
立山に寄ってみようと思います  
(本誌特号参照)。雨天中止

鈴鹿を歩く153  
御金明神・鏡子ヶ口  
(健脚向き)

期日 10月13日(日) 日帰り  
集合 紅葉の奥阿蘇川林道風越  
谷林道広場8時00分

鈴鹿を歩く153  
御金明神・鏡子ヶ口  
(健脚向き)

期日 10月20日(日) 日帰り  
集合 J R 関西線山崎7時50  
分

コース 山崎(車) 小岐須溪谷  
大石橋―ヤケキ谷―宮指  
路岳―泉崎尾根―岩巻尾  
根―入道ヶ岳―池ヶ谷道  
―小岐須溪谷大石橋(車)  
山崎(解放)

費用 交通費各自(車代1000  
円)  
地図 2万5千 山崎・鈴鹿峠  
係 ◎山田明男 ○高原芳彦  
申込み 千50310535  
海津郡南濃町松山624の19  
山田明男まで  
\* 定員20名  
\* マイカーの方はその旨  
記載ください  
宮指路岳から入道ヶ岳へと通り  
ますので、少し長い距離になりま  
す。雨天中止

コース 広場(車) 神崎川林道終  
点 白滝谷分岐 天狗滝  
―広沢出合―お灸谷―御  
金明神―御金峠―コリカ  
キ場―北谷尻谷―鏡子ヶ  
口―風越林道―広場(解  
放)

費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・鏡ヶ  
岳」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 千61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* マイカー山行  
幻の搭御金明神に参拝します。  
神崎川ルートから御金明神、御金  
峠、そして秘境の北谷尻谷を鏡子  
ヶ口に突き上げる特別ルートです。  
雨天中止

湖北・横山と佐和山  
(初級向き)

期日 10月13日(日) 日帰り  
集合 J R 名古屋駅中央改札口  
7時30分/J R 北陸線長  
浜駅9時16分  
コース 長浜駅(バス) 観音寺前  
―観音寺―横山―石田  
(バス) 長浜駅(電車)

コース 堅田駅(バス) 南庄―滝  
寺―小野山―大尾山―仰  
木峠―野村峠―大原(バ  
ス) 出町橋駅(解放)

費用 約23000円(大原から)  
地図 2万5千 堅田・大原  
係 昭文社「京都北山」  
申込み 千53610008  
大阪市城東区関目4の14  
の9の901 塚元一彦まで  
\* 先着30名  
\* 10月15日まで  
新ハイキング関西支部合同山行  
比較山北部のピークに登り、大原  
にくだります。地形図の読み方を  
勉強します。初心者が歓迎。シルバ  
ー型コンパスを持参ください。  
雨天中止

奈良・額井岳(一般向き)

彦根駅―佐和山―近江津  
道鳥居本駅(電車) 米原  
駅(解放15時34分)

費用 約32000円(名古屋か  
ら)  
地図 2万5千 長浜・彦根東  
部  
係 ◎小出良春  
申込み 千61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* 集合駅を明記ください  
戦国時代山城があったという二  
山を歩きます。観音寺の山間をく  
ぐると、石田三成が秀吉にお茶を  
献じた古井戸があります(電車で  
移動しますので佐和山は自由参加)  
雨天中止

平白ふれあいハイイク34  
鈴鹿・日本コバ(中級向き)

期日 10月17日(木) 日帰り  
集合 J R 近江八幡駅8時00分  
コース 近江八幡駅(バス) 如来  
堂―藤川谷―岩屋―日本  
コバ―笠松尾根―織原流  
―水源寺車庫(バス) 近  
江八幡駅(解放17時20分  
頃)

費用 約45000円(京都より)

費用 約19000円(鶴橋駅か  
ら)  
地図 2万5千 初瀬  
係 ◎西上利和 ○中村英雄  
申込み 千61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* 定員20名(会費に際)  
冬の額井岳が雨で中止になりま  
したので、秋の額井岳に登ります。  
雨天中止

北摂・剣尾山から横尾山  
(一般向き)

地図 昭文社「露仙・伊吹・  
藤原」

係 ◎寺井恒夫 ○川上久登  
申込み 千61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

鈴鹿山系の西に張り出したピー  
クです。頂上から鈴鹿北部が眺め  
られます。下りは笠松尾根の踏み  
跡をたどって水源等にくります。  
雨天中止

三重の山33  
飯高・局ヶ岳(一般向き)

期日 10月19日(日) 日帰り  
集合 飯高町「飯高道の駅」  
(R166) 9時00分  
コース 飯高道の駅(車) 木地小  
屋(車) 神社登山口―局  
ヶ岳―神社(車) 飯高道  
の駅  
費用 1500円  
地図 2万5千 宮前  
係 ◎尾崎英五 ○稲垣逸夫  
申込み 千51910311  
鈴鹿市大久保町2065  
稲垣逸夫まで  
展望良。解放後、希望者は山麓  
の「無酢庵」でお茶を。近くに  
「系原」もあります。雨天決行

鈴鹿百山35  
宮指路岳・入道ヶ岳  
(健脚向き)

期日 10月20日(日) 日帰り  
集合 J R 関西線山崎7時50  
分

コース 山崎(車) 小岐須溪谷  
大石橋―ヤケキ谷―宮指  
路岳―泉崎尾根―岩巻尾  
根―入道ヶ岳―池ヶ谷道  
―小岐須溪谷大石橋(車)  
山崎(解放)

費用 交通費各自(車代1000  
円)  
地図 2万5千 山崎・鈴鹿峠  
係 ◎山田明男 ○高原芳彦  
申込み 千50310535  
海津郡南濃町松山624の19  
山田明男まで  
\* 定員20名  
\* マイカーの方はその旨  
記載ください  
宮指路岳から入道ヶ岳へと通り  
ますので、少し長い距離になりま  
す。雨天中止

新ハイキング選書

第22巻

# 阿武隈の山を歩く

・A5判201頁  
定価1680円  
(税込)

阿武隈の山は、ハイキング愛好者の辿りつくところ  
阿武隈の山115座を23名によって調べあげた紀行とガイド  
略図入り、内容豊富な読物としても楽しい新刊書です

【主な執筆者】松浦隆康／杉野智英／横山 隆  
野瀬和紀／内海幸男 他

●本誌添付の振替用紙でのご注文は送料当社負担  
発行所 新ハイキング社  
〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13  
TEL/FAX 03-3915-8110

地図 2万5千円要費・戸倉峠・音水湖  
係 ◎村田智俊  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員24名  
展望のよい笠形山に登り、藤無山は新しく拓かれた志倉かんのコースを登路に使います。フォレストステーション波賀には天然ラドン温泉があります。雨天決行

集合 JR名古屋駅中央改札口  
7時10分  
コース 名古屋駅(電車)浜松駅(電車)遠鉄新浜松駅(電車)西遊鳥駅(バス)西川(秋葉ダム)日尾稲荷(秋葉山)秋葉寺(信玄岩)秋葉橋(バス)西遊鳥駅(電車)名古屋駅(解放18時30分)  
費用 約5000円(貸空フリーきっぷ使用名古屋から)  
地図 2万5千円秋葉山  
係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
防火の守り神として全国に建立されている秋葉神社の本宮がある秋葉山は、東海自然歩道の中にあります。雨天中止  
\*鈴鹿を歩く154  
雨乞岳新ルート(健脚向き)  
期日 10月27日(日) 日帰り  
集合 藤切谷旧林道入口8時30分  
コース 旧林道終点シデの大木  
一 向山笠山麓一霧流事務所  
所隣原一炭焼きコバー猪

ノ子の頭一西南乞岳一南乞岳一南雨乞岳一奥の畑峠一奥の畑谷一核地蔵一旧林道入口(解放)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
明治の初期、雨乞岳の北西斜面の猪ノ子合圍辺に向山笠山があり、坑口が9つあった。建物も3ヶ所

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*集合駅を明記ください  
北根を代表する名山で山頂は360度の大展望です。雨天中止  
平日水曜ハイイク7  
京都北山・頭巾山(一般向き)  
期日 10月23日(木) 日帰り  
集合 JR京都駅八条口団体バス  
のりば7時30分  
コース 京都駅(バス)福居一美山コース一尾根分岐一頭巾山一上谷分岐一上谷一福居(バス)京都駅八条口(解放18時頃)  
費用 約3000円(京都駅からバス代等)  
地図 昭文社「京都北山2」  
係 ◎湯浅次男 ○青木一雄  
申込み 〒569-1133  
高槻市川西町1の18の20  
湯浅次男まで  
数年前行ったとき、尾根筋の紅葉に見とれてしまった。今年も紅葉がうまく一致しますように。上谷の下りは少し難路です。雨天中止

ファミリーハイイク7  
紀北・生石ヶ峰(一般向き)  
期日 10月24日(木) 日帰り  
集合 JR紀勢線海南駅大十オレンジバスののりば9時00分  
コース JR海南駅(バス)小川宮一犬飼寺一笠石一生石ヶ峰一旧札立峠一小川宮(バス)海南駅(解放)  
費用 約4000円(天王寺駅から)  
地図 2万5千円木木  
係 ◎木村太郎 ○中村友昭  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
一等三角点峰からのすばらしい展望と、スキの銀波が美しい生石高原を歩く。雨天中止  
自然観察山行102  
越美・夜叉ヶ池から三周ヶ岳(一般向き)  
期日 10月26日(日) 日帰り  
集合 JR大垣駅8時40分  
コース 大垣駅(バス)池ノ又林道終点一幽玄ノ滝一夜叉ヶ池一三周ヶ岳一夜叉ヶ池一幽玄ノ滝一林道終点

(バス)大垣駅(解放19時頃)  
費用 約3500円(大垣駅からバス代等)  
地図 2万5千円美濃広瀬・美濃川上・広野  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村南町1の19の5 鷺見守康まで  
\*定員17名  
夜叉ヶ池と三周ヶ岳の人氣に癒え再行します。秋の夜叉ヶ池は燃えるような紅葉です。小雨決行  
湖北・乗鞍岳から青原岳(中級向き)  
期日 10月26日(日) 日帰り  
集合 JR湖西線マキノ駅8時50分  
コース マキノ駅(バス)園境一乗鞍岳一青原岳一猿ヶ馬場山一黒河峠一白谷(バス)マキノ駅(解放16時50分頃)  
費用 約9000円(マキノ駅よりバス代)  
地図 2万5千円駄口  
係 ◎金谷 昭 ○磯部 純  
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マキノ駅までマイカー参加可  
乗鞍岳から展望のよい尾根を縦走し、ブナ林のすばらしい猿ヶ馬場山を経て黒河峠にくだります。雨天中止  
近畿百名山に登る(第45回)  
播磨・笠形山と藤無山(一般向き)  
期日 10月26日(日)27日(月)1泊2日  
集合 (26日)JR新大阪駅止  
面口7時40分  
コース (26日)新大阪駅(バス)福崎インター(バス)笠形神社一笠ノ丸一笠形山一グリーンエコー笠形(バス)フォレストステーション波賀(泊)  
(27日)フォレストステーション波賀(バス)志倉一藤無山一大屋スキー場一ロジックふじなし(バス)山崎インター(バス)大阪駅(解放19時頃)  
費用 約18000円(バス・宿泊代等)

あり、事務所が廃屋となって残っている。この廃屋から急斜面を炭焼コバに突き上げる特別新ルートです。雨天中止

中国自然歩道3  
兵庫岡山県境・駒の尾山  
期日 10月27日(日) 日帰り  
集合 JR西明石駅西出口7時40分

コース 西明石駅(バス)駒の尾山  
登山口→駒の尾山→後山  
→おこしき山→松ノ木公園(バス)西明石駅(解散19時頃)

費用 約4500円(西明石駅よりバス代等)

地図 2万5千=西河内  
係 ◎古賀慶一  
申込み 〒675-0112  
加古川市平岡町山の上684  
の33-17A03  
古賀慶一まで

秋の駒の尾は去りがたい雰囲気  
の山。後山にかけては連続散歩  
す。雨天中止

北山ちよつと歩き38  
京都東山

### 山行報告 (5・6月号) 新ハイキングクラブ関西

奈良・大和葛城山から若樺山  
5月3日(祝) 晴れ

(集合) 近鉄御所駅9:55→10:00(タクシー)水越峠10:30→大和葛城山11:37(昼食)12:20→岩橋山14:22→30→平方峠14:53→竹内峠15:35→45→近鉄磐城駅16:30(解散)

御所駅では葛城山ロープウェイの待ち時間が30分とアナウンスしていた。水越峠も車がいっぱいで登山道は入でつかえていた。葛城山頂のすばらしいツツジと大展望を楽しみ、日本最古の街道といわれる竹内街道までのロングコースを楽しんで歩いた。  
(参加者) 藤崎洗石 岡本美千子 飯田良子 福井清之 小野典子 太田勝子 桐山直江 出田年子  
◎保田 正 ◎小出良春(計10名)  
5月3日(祝) くもり

行軍塚から清水寺・東福寺  
(一般向き)  
期日 10月30日(祝) 日帰り  
集合 阪神八坂神社石段前9時00分

コース 八坂神社→知恩院→行軍塚→清水寺→福徳大社→東福寺→京阪東福寺駅(解散)

費用 約1000円(大阪から)

地図 2万5千=京都東南部  
係 ◎呉山繁三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

神社・仏閣を見て、紅葉の名所清水寺・東福寺などを見学しながらゆつくり歩きます。小雨決行

週末ハイイク44  
山陰・森山三座と大山  
期日 11月1日(日) 夜3日(日)  
前夜宛1泊2日

集合 (1日) JR京都駅八条口団体バスのりば22時30分  
コース (1日) 京都駅八条口(バス)車中泊  
(2日) 森山三座→大山

(集合) JR関ヶ原駅8:30→三坂西野尻駅8:45(車)コグルミ谷手前駐車場9:15→コグルミ谷登山口9:30→長命水10:05→カタクリ峠10:30→幻池11:00→丸山11:40→ポタンブチ11:55→幸助の池12:00(昼食)12:35→池巡り→幹北岳14:30→タテ金ヶ降→谷登山口16:08(車)関ヶ原駅17:05(解散)  
毎年5月3日に自然観察会で御池岳を歩いており、今年も新ハイの例会も同じ日に設定し、25名で歩いた。春の花カタクリもまだ咲いていて、50種余の花を見ました。  
(参加者) 平塚明美 三下須美恵 石原君子 本間 隆 小山くさるみ 小山誠次 北川慧子 伊藤喜久男 近藤郁夫 井上 光 奥野良恵 奥野富美 丹下由子 森 美香子 原 光一 原 幸子 伊藤恵美子 伊藤紀子 神原計 宮田伸子 今井知子 成田 豊 小田妙子  
◎高屋原彦 ◎山田明男(計24名)  
5月3日(祝) 晴れ  
福州・笠形山  
(集合) JR加古川駅8:45→9:00(電車)西福駅9:55(バス)

山中森山→下森山→大快峠(バス)関金温泉(泊)  
(3日) 関金温泉(バス)大山寺橋→赤山→六合目→大山寺(入浴・昼食後)バス 京都駅八条口(解散)  
費用 約2800円(バス・宿泊代等)  
地図 昭文社「大山・森山高原」  
係 ◎狩野東彦  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* 定員40名  
\* 10月20日まで  
森山紅葉の名残と大山の初冠雪を期待しましょう。軽アイゼン必須。雨天決行

海外特別山行  
台湾最高峰  
玉山登頂4日間(中級向き)  
期日 12月4日(休)7日(出)3泊4日  
集合 (4日) 関西国際空港・午前(時間未定)

大屋10:35→50→龍ヶ滝11:27→力水11:53→縦走路12:22→笠形山12:40(昼食)13:20→分岐13:30→アセビの森13:40→扇砂の滝14:43→グリーンエコー笠形15:35→40(バス)福崎駅16:26(電車)姫路駅16:52(解散)  
クリンソウの花に惹かれて歩いた。龍ヶ滝上部のクリンソウ育成保護地も、可憐な花を咲かせていた。山頂のアケボノツツジはほぼ終わりで残念だったが、まあまあ視野で展望を楽しんだ。途中、扇砂の滝へ立ち寄った。  
(参加者) 原 雅子 喜下淳一 木村 豊 東山澄夫 宮村孝次郎 栗橋崇吉 栗橋君子 中村久美子 岡田豊治 湯浅次男 中尾美智子 馬籠忠男 大谷章子 田所真里子 岡本英樹 山高義治 山崎多恵子 辻村幸裕 森本淳子 迫 恵美子  
◎藤岡 茂 ◎古賀慶一(計24名)  
湖北・七尾山  
(城陽読々山行51)  
5月3日(祝) 晴れ  
(集合) JR長浜駅9:40→50(バス)合在橋10:12→今在10:25→35→登山口10:50→西尾根11:35→40→七尾山12:30(昼食)13:

4日 関西空港(飛行機)台北(バス)嘉義(泊)  
5日 嘉義(バス)阿里山(登山)上東埔→塔塔加樓部登山口(2680m)→西峰展望台→排雲山荘(泊)  
6日 排雲山荘→玉山→排雲山荘→登山口(バス)台北(飛行機)台中(バス)台北(飛行機)関西空港(午後)  
費用 12万1千円(予定値)  
排雲山荘は清潔な山小屋ですが、スリッパ・シーズン用の寝袋とマット要。食料も各自で(現地調達可)  
係 ◎湯浅次男  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* 募集定員20名  
\* 9月10日まで

登山道はよく整備されていて登りやすい。排雲山荘(3400m)に一泊し、玉山(3952m)に登頂します。ツアーリーダー及び現地リーダー同行  
<旅行手配・問い合わせ>  
アミューズトラベル大阪支店(担当) 坂井まで  
06(6456)3366

30→送電線鉄塔14:05→林道出合14:40→大久保14:55→15:02(バス)伊吹登山口15:15→20(バス)長浜駅16:00(解散)  
七尾山の尾筋筋は可憐なイワカガミの大群落。頂上付近はワラビが群生していた。地図読みの勉強よりも花の鑑賞と撮影、ワラビ採取のほうが忙しな山行になった。  
(参加者) 竹田義英 船本裕子 川上久堅 川原博也 川島勝美 前田幸子 水谷清子 野里マコ代 高橋祥治 吉岡清夫 田中三恵子 矢野 克 前田栄三 徳永加代子 遠藤 幸 緒方由子 田中かね子 東村由美 杉田孝子 岩本いすゞ 澤田雅之 澤田幸子 ○中村 登 ◎坂本 彦 (計24名)  
5月3日(祝) 晴れ  
徳向山・雨乞岳  
(集合) 国道477号磯大納言谷広場7:50(車)奥の平8:35→行者コバ9:15→徳向山9:45→ハイガ方10:25→登り谷10:10→45→大峠11:05→雨乞岳12:10(昼食)13:00→南乙岳13:20→一勇乙岳13:30→ブナの木コバ14:25→大納言谷15:30→広場16:00

〔解説〕

縦山からの稜線は大パノラマと強風。イハイガ岳はシャクナゲ・ミツバツツジ・イワカガミの花々。大峠からの細根は赤やピンクのシャクナゲのトンネルが続いた。雨乞岳はガスと強風で寒く、早々に南尾根を大納言谷にくだった。新緑と花またたきのロングコースはすばらしい山行となった。

〔参加者〕 荻野暢子 栗本敏夫 後藤康幸 岩鶴健司 奥野太一郎 吉村 昭 大石将美 鈴木 浩 鈴木友子 佐治光江 高杉 博 谷 久雄 武村千鶴 余谷 昭 神野孝允 池田隆一 永戸鉄治 水谷俊之 梶原泰彦 石田真由美 茨木良雄 ○山田登三

◎岩野 明

〔計23名〕

伊藤新道から白滝山・蓬萊山

5月5日(日) 晴れ

〔集合〕 JR 堅田駅 8・40〜50 (タクシー) 坊村 9・15〜25 (ワサビ) 谷川 10・00〜10・15 (大滝) 10・35〜11・00 (長池) 12・00〜12・15 (長池) 12・45〜13・10 (穴) 14・00 (リフト) 打見山 14・

10 笹原 14・20 (リフト) 蓬萊山 14・30〜50 金比羅峠 15・05 林道 15・30 JR 蓬萊駅 16・40

ミズバショウはころうじて咲き残っていたが、辻谷一帯のシャクナゲは見事だった。打見山から蓬萊山の中腹までびっしりとスイセンが咲き乱れているのにもびっくりした。12万株も植えたという。

〔参加者〕 谷川俊一 長尾一令 中島 隆 松井明忠 岩鶴健司 中村英雄 谷 守 武部 剛 田中義雄 増田剛宏 ○宮下淳一 ◎秦 康夫

〔計12名〕

北摂・竜王山から摂津峡

5月5日(日) 晴れ

〔集合〕 JR 茨木駅 9・20〜37 (バス) 忍頂寺 10・20〜27 宝池 寺 10・52 竜王山 11・07〜15 穴 仏・負塚岩 岩屋 11・40〜12・02 林道 12・07 (昼食) 12・40 車 作大橋 13・26 竜王山 13・45〜55 茨倉 14・05 13・30 摂津峡 16・25 上ノ口 16・25 (バス) 高槻駅 16・47

◎岩野 明

〔計23名〕

雨乞の山・竜王山から摂津峡 谷は東海自然歩道で結ばれていた。枝道が多いので道標を確認しながら

らの山歩きだった。

〔参加者〕 小田朝子 大前千代子 大前朝子 牧 和夫 前田喜久子 柳川常雄 本間賢子 宮路ちへ子 原 雅子 飯田良子 宮路ちへ子 磯野重治 松本康成 中上紀代子 池田野子 大谷登子 西下実美子 杉田朝子 小川晴美 網木美恵子 園木英樹 岡田春美 井林寿奈子 野々山明美 波多野恵子 ○川上久堅 ◎小出良春

雲仙山 (鈴鹿百山30)

5月6日(日) 晴れ

〔集合〕 JR 鹿ヶ井駅 8・05 (重) 博ヶ畑手前駐車場 8・30 八坂神社 8・35 びんざか峠道合流 9・00 八坂峠 東登山道合流 10・40 〇お虎ヶ池 10・50 峰塚山 11・30 雲仙山 二角点 11・45 (昼食) 12・30 峰塚山 12・45 〇お嶺 13・10 汗ふき峠 14・00 博ヶ畑手前駐車場 14・30 (重) 鹿ヶ井駅 14・55

◎岩野 明

〔計23名〕

午前中は雲仙寺への昔の参拝道をとどり、雲仙の貴夫人も咲いてきた。雲仙の貴夫人も咲いてきた。いよいよお嶺になってしまった。下りでは珍しいホテルカスラの花に出会えた。

〔参加者〕 栗本敏夫 伊藤 直 吉村 昭 鈴木 浩 鈴木友子 石原朝子 幸田正栄 伊藤喜久男 島田信吾 本間 隆 伊藤重美子 木下朝子 春見重美 六戸喜久江 北川慧子 水谷俊之 武藤由美子 ○高原芳彦 ◎山田明男

美濃・日永谷 (自然観察山行88)

5月11日(日) 曇り時々晴れ

〔集合〕 JR 大垣駅 8・40〜45 (バス) 美山町仲越院校路 11・25 林道終点登山口 12・00〜10 西 沢分水 13・00〜15 日本橋 13・40 (昼食) 14・20 林道終点登山口 15・25〜40 仲越院校路 16・15〜20 (バス) 大垣駅 18・50

◎岩野 明

〔計23名〕

清流神倉川の谷に沿って長く狭い道にバスは四苦八苦。運転手の精根傾けた努力に脱帽。日本橋周回は水の豊かな所で、ガッパ谷は大変美しい渓谷。新緑に身を染めながら登った山頂は、残念ながらガッパのなかつた。

夏山春子 堀田輝子 武藤由美子 水谷俊之 宮本真幸 山形 明 若松朝子 渡辺朝子 佐々木美千代 ○山本真治 ◎賢賢守康

〔計28名〕

鈴鹿・宮指峠 (三重の山82)

5月11日(日) 小雨

〔集合〕 椿大神社駐車場 9・00 (車) 小岐須溪谷・大石橋 9・35 ヤケケ谷 東海展望 11・25 宮指路 11・40 (昼食) 12・20 小岐須峠 カワラコバ谷 大石橋 14・15

◎岩野 明

〔計28名〕

「出さうですわ」「さうですわ」案の定ヤケケ谷はヒル銀座でした。シロヤシオは残念ながら既に散り散り花が少し。東海展望もガスっていてダメ。そのかわり、単独のとても魅力的な女性々々に出会えました。水の溜る山もまたよし。

〔参加者〕 永戸鉄治 岡本美千子 柳 敏弘 雅也 池田 茂 平 龍一 柳 孝子 ○稲垣逸夫 ◎尾崎英五

〔計9名〕

御在所岳・西峰

5月12日(日) 晴れ

〔集合〕 JR 京都駅 8・00〜15

京都北山・頭巾山

5月12日(日) くもり

〔集合〕 JR 京都駅 8・00〜15

〔集合〕 国道477号線武平峠西 広場 8・20 郡尾根 8・50 高 野 9・50 P1047 11・00 御岳神社 10・30 西峰 11・00 (昼食) 12・05 御在所 12・35 13・30 武平峠 14・30 (解説) 最高の登山日和で、新緑の尾根には石楠花の花が続いた。山頂からは眺望は特にすばらしく、神崎川源流からイブネ・雨乞岳と続く新緑の樹海。道際にはヘルリンドウが咲き乱れ、下りには鎌ヶ岳から南に続く山並に見えながらの楽しい山行となった。

◎岩野 明

〔計23名〕

〔参加者〕 栗本敏夫 落合ひろ子 原 光一 原 幸子 奥野太一郎 後藤康幸 岩鶴健司 小林 隆 谷 守 谷 久雄 森本 勝 森本淳子 高杉 博 武村千鶴 針谷邦夫 服部 典 友田美保子 友田 毅 山田明男 石田真由美 永戸鉄治 金谷 昭 山村恭男 吉岡 仁 原 文字 網木美恵子 池田繁美 佐田勝利 高原芳彦 加藤圓計 佐治光江 水谷俊之 ○山田登三 ◎岩野 明

(バス) 小和木 10・20 登山口 11・05 尾根上 12・10 (昼食) 12・40 頭巾山 13・25 50 林道 14・50 野鹿の滝 15・05 20 野鹿橋 16・00 (バス) 京都駅 18・30 (解説) 目には見えぬような新緑のフナ林を、鳥の声を聞きながらさわやかに歩いた。

◎岩野 明

〔計18名〕

比良・釈迦岳から堂満岳

5月12日(日) 晴れ

〔集合〕 JR 比良駅 9・40〜47 (バス) イン谷口 9・55 大津ワシゲル道 釈迦岳 11・52 1カラ岳 山上ロープウェイ駅 12・30 (昼食) 13・10 金葉峠 13・30 堂満岳 14・07 ノノタノホリ 15・20 比良駅 16・02 (解説) 大津ワシゲル道はシャクナゲやイワカガミを残っていて、緑のシャワーのなかを釈迦岳に登った。堂満岳の足場の悪さに悩みながら下山した。

〔参加者〕 栗本敏夫 伊藤 直 吉村 昭 鈴木 浩 鈴木友子 石原朝子 幸田正栄 伊藤喜久男 島田信吾 本間 隆 伊藤重美子 木下朝子 春見重美 六戸喜久江 北川慧子 水谷俊之 武藤由美子 ○高原芳彦 ◎山田明男

〔参加者〕 岩田育士 橋本賢 郎 西村耕一 若林文夫 森 美香子 山口喜弘 前田初雄 六戸喜久江 中村孝子 多賀周二 森澤昭子 小田晃子 小野典子 中尾美智子 森 晴代 岩本彰子 石井重美子 朝倉雄雄 ○中嶋日出男 ◎宮下淳一 ◎小山良春

〔計23名〕

湖北・余呉湖一周

5月12日(日) 晴れ

〔集合〕 JR 余呉駅 9・40〜50 川並 10・15 林道 10・40 大 平良山 11・20 1松林 11・50 (昼食) 12・25 アチラ坂 12・50 鎌ヶ岳 13・10 20 大岩山 14・10 20 1 余呉湖 14・50 15・00 (解説) 余呉湖を取り巻く山を一周。大平良山はあまり知られていない山で、頂上の前後はやぶ漕ぎ、ケモノ道が行く手を案内してくれる。静かな余呉湖が木々の間から見え隠れ。鎌ヶ岳からは湖北の山々、朝雲湖・余呉湖が一瞥。4200年、前・柴田源家と羽柴秀吉が戦った鎌ヶ岳の合戦の場をつぶさに踏破。自然たっぷりの開春の一日を楽しんだ。

〔参加者〕 木村 豊 吉藤孝次 木下朝子 辻 行子 宮村孝次郎

栗橋雲吉 栗橋君子 白根湧子  
田尾 嶺 田尾捨子 (計11名)  
◎高島伸浩

六甲・六甲山  
(近畿百名山に登る38回)

5月12日(日) 晴れ  
(集合) J R 芦屋駅 8:30〜40-  
阪急芦屋川駅 8:50〜9:00 高  
座の滝 9:30 風吹岩 10:15〜25  
東お多福山 11:30 (昼食) 12:  
20 七瀬川 12:30 石の宝殿 13:  
30〜40 六甲山最高峰 14:15〜30  
住吉道 有馬稲荷神社 15:30〜  
45 有馬温泉街 16:00 (解散)

初夏の強い日差しを浴びて、の  
んびりと歩いた。六甲山最高峰の  
広場の芝生でくつろぎ、大パノラ  
マを楽しむ。だ。  
(参加者) 富松雅子 湯浅次男  
長尾節子 遠藤 率 辻村幸裕  
熊木秀雄 杉田君子 武部美美子  
高津重義 市野博文 野里マン代  
大和 絃 佐野信江 桂 久美子  
山田幸子 塩原真織 岩本いすゞ  
寺田久広 山田一晴 東山澄夫  
小谷健治 ○具比裕美 (計26名)  
◎村田智俊

25 勸業山 10:10〜20 玉置  
山展望台 10:35〜45 (バス) 温泉  
地温泉 11:30 (入浴・昼食) 13:  
25 (バス) 大和八木駅 16:45 (解  
散)  
(18日) 夜中に降り続いてきた雨  
が出発時には止んだ。五大尊岳前  
後のヤセ根根は思ったほどの難路  
でもなく危険はなかった。大黒天  
神岳からは稜線の展望を楽しみな  
が、備前橋まで下山し、土津川温  
泉で汗を流した。  
(19日) 午前中の爽やかな好天を  
得て計画を変更。名残の石楠花が  
ある玉置山から、ブナ林の新緑を  
抜けて奥瀬最後の行場である宝冠  
の森を往復し、結果的に激しいに  
わか雨を避けることができた。  
(参加者) 船越利明 船越みよ子  
秋田晴 山本孝子 草野真穂子  
長尾節子 石田賢二 橋本香代子  
若田寛士 山縣勝美 片山真由子  
岩田智博 小林 桂 網木美穂子  
市柳千代子 ○瓜坂利明 (計17名)  
◎狩野東彦

飛騨・十二ヶ岳と天蓋山  
(自然観察山行89)  
5月18日(日) 19日(日) 1泊2日  
(18日) 雨のちくもり (集合)

北山・雲取山から二ノ瀬ユリ  
(平日ふれあいハイック32)  
5月14日(火) 晴れ  
(集合) 出雲柳駅 7:50 (バス)  
花背高原 9:05〜23 寺山峠 9:  
50 雲取山 10:30 雲取山 10:50  
一の谷 峠 10:30 生駒 12:10 (昼  
食) 13:00 芦生峠 13:30 尾根  
道 13:40 滝谷峠 14:15 貫船口  
16:15 (解散)  
一の谷・一の谷はきれいな沢で  
した。芦生峠から滝谷峠への稜線  
は愛宕山方面の展望があり、なか  
なかなよい所です。若菜とさわやか  
な風のなか幸せ気分の一昨日でし  
た。  
(参加者) 植木敏子 夏井美代子  
山縣勝美 山縣 隆 小林伊修子  
加納健生 加納孝子 山本千鶴子  
本間 隆 本間繁子 石井重美子  
岡田豊治 加藤浩一 砂原重美子  
杉田君子 中村 保 大橋元造  
石原君子 吉森孝次 菅生孝子  
松本忠雄 安藤猛子 中原真理子  
細井和子 諏訪藤子 南ミヤ子  
岩本健一 岩本彰子 ○川上久登  
◎寺井恒夫 (計30名)

西山めぐり  
南春日からポンポン山・天王山

紀北・矢野岳

J R 岐阜駅 8:50〜9:00 (バス)  
丹生村八木原森道 切れた地点 11:  
45 (昼食) 12:15 十二ヶ岳林道  
起点 12:45 登山口 13:15 十二  
ヶ岳 13:35 14:25 八木原林道  
切れた地点 15:40 (バス) 新平  
湯温泉 16:50 (泊)  
(19日) 晴れのち雨 民宿 6:00  
(バス) 神岡町夕陽の駅 6:50  
7:00 北平 8:25 天蓋山 9:  
00 30 夕陽の駅 10:30 50 (バ  
ス) 飛騨にゅうかわ温泉 12:00  
早坂 16:15 (解散)  
2日間ともあいにくの天候だっ  
たが、天蓋山頂からは剣岳・立山・  
薬師・黒部五郎・笠・嶽・乗鞍・  
御嶽の雄大な展望。やがて雨が降  
り出し、復路は一気にくだった。  
(参加者) 緒方由子 大須賀 實  
金森孝吉 長尾一介 荻野美紀重  
栗橋宗吉 栗橋君子 宮路重彦子  
夏山登子 堀田輝子 宮路ちへ子  
村井寿和 三浦 勝 三浦良左子  
前田悦子 松尾節子 森 美香江  
横井恭子 若松朝子 安田文英江  
◎鳥居信吉 ◎鷺見守康 (計22名)

ポンポン山に着いた頃からポツ  
リポツリと降ってきた。稲荷山か  
ら始め、京都トレールを7回の山  
行で京都近郊の山々を一本のライ  
ンで巡りました。雪の比較山、北  
山の紅葉、スリリングな舟曳道、  
小塩山の花・花、四季折々に訪ね  
てみるのも楽しいものです。  
(参加者) 長尾一介 野々山明美  
谷 守 舟岡 武 杉田君子  
辻 行子 白根湧子 山岸勝雄  
石原君子 呉山繁二 光川一英子  
岩城豊子 武村千鶴 瀬戸内伸子  
辻 富子 岩本彰子 岩本健一  
岡田里子 市野博文 長岡保江  
東山澄夫 赤松しげみ  
◎青木一雄 ◎湯浅次男 (計24名)

(集合) J R 京都駅 八条口 7:30  
〜35 (バス) 下見 9:05 25  
上 7:55 10:10 林道終点  
10:40 長老ヶ岳 12:00 (昼食)  
13:15 東屋 13:50 14:00 履  
望台 14:15 30 管理棟広場 14:  
45 15:00 17色ノ木 15:25 35  
17 15:45 16:00 (バス) 京  
都駅 17:45 (解散)  
展望台でようと晴れてきてよ  
かった。タニウツギの花がきれい  
だった。  
(参加者) 宮本真幸 宮本悦子  
白田正 古賀慶二 上田健男  
白田忠子 原 雅子 辻村幸裕  
遠藤 率 杉田君子 木下恵子  
速水 保 入江武史 布施清美  
山田幸子 東山澄夫 大浦かずみ  
大浦佳実 赤壁千里 磯野重治  
福岡 章 杉上昌吉 長沢佑美  
白根湧子 中村肇美 辻 行子  
藤本佳吉 堀田清人 ○川上久登  
◎中西信行 (計30名)

三重・伊勢山上  
5月19日(日) 雨一時晴れ  
(集合) 近鉄・J R 松阪駅 9:20  
(タクシー) 飯福田寺 10:00 裏  
行場 10:05 10:30 表行場  
岩福堂本堂 10:35 11:05 表行場  
1 龍岩 11:50 (昼食) 12:20 龍  
掛岩 龍の戸渡り 龍岩 1 平等岩  
飯福田寺 13:10 45 (タクシー)  
松阪駅 14:15 (解散)  
裏行場が終わった所で雨になる。  
入山料はあとでいいと言われたが、  
運がよくて竜岩から雨がやんだ。

丹波・長老ヶ岳  
5月19日(日) 雨のち晴れ

(集合) 平水水曜ハイック 52)  
5月15日(水) くもりのち雨  
(集合) 南春日町バス停 8:30  
40 正法寺池 8:50 9:00 天  
皇陵道 金蔵寺分岐 9:44 金蔵寺  
9:56 10:10 杉谷 10:32 10:  
50 山 11:32 (昼食) 12:04 1  
釈迦岳 京背の森 12:54 柳谷 13:  
50 天王山 14:49 山崎聖天前公  
園 15:17 30 J R 山崎駅 15:45  
(解散)  
ポンポン山に着いた頃からポツ  
リポツリと降ってきた。稲荷山か  
ら始め、京都トレールを7回の山  
行で京都近郊の山々を一本のライ  
ンで巡りました。雪の比較山、北  
山の紅葉、スリリングな舟曳道、  
小塩山の花・花、四季折々に訪ね  
てみるのも楽しいものです。  
(参加者) 長尾一介 野々山明美  
谷 守 舟岡 武 杉田君子  
辻 行子 白根湧子 山岸勝雄  
石原君子 呉山繁二 光川一英子  
岩城豊子 武村千鶴 瀬戸内伸子  
辻 富子 岩本彰子 岩本健一  
岡田里子 市野博文 長岡保江  
東山澄夫 赤松しげみ  
◎青木一雄 ◎湯浅次男 (計24名)

ノ峰 13:12 マキノスキー場 14:  
40 (解散)  
天気予報に反して雨であったが、  
発行には支障はなく、予定通り完  
登した。幸い大谷山の山頂付近か  
らは雨も上がり、稜線のササの高  
原、寒風山や下山ルートのみキノ  
峰のブナ林のすばらしさを楽しん  
だ。  
(参加者) 山田景三 後藤康幸  
三上伸夫 小林 稔 今津省司  
谷 守 平塚明美 村上美代子  
武村千鶴 竹田善英 瀬戸内伸子  
神野孝允 加藤晋計 宮村孝次郎  
山本久雄 ○磯部 純 (計17名)  
◎金谷 昭

5月16日(木) ◎木村太郎  
\*雨天のため中止しました。  
大黒奥駈・玉置山から熊野本宮  
(週末ハイック40)  
5月17日(金) 19日(日)  
前後発 1泊2日  
(17日) くもりのち雨 (集合)  
近鉄大和八木駅 23:10 (バス)  
(18日) くもりのち晴れ 玉置神  
社駐車場 3:15 (飯・朝食) 5:  
50 玉置神社 6:05 本宮辻 (玉  
置辻) 6:25 水呑金剛 6:35 7:  
45 旧藤尾辻 7:15 大森山 7:  
35 45 大森山南峰 7:55 藤尾  
辻 8:25 30 五大尊岳 8:55 9:  
00 金剛多和の宿跡 10:00 10:  
15 大黒天神岳 10:35 40 索道  
15 大黒塔広場 11:00 (昼食) 11:45  
山在峠 12:15 吹越峠跡 12:35  
40 七瀬峠 (さきゆり広場) 13:  
25 40 備前橋 14:45 (バス) 熊  
野本宮 14:50 15:15 (バス) 十  
津川温泉 15:45 (入浴) 16:35  
(バス) 上高川民宿 (泊)  
(19日) 晴れのち時々雨 上高川  
6:45 (バス) 玉置神社駐車場 7:  
10 15 玉置神社 7:30 55 玉  
置山 8:05 10 宝冠の森 9:15

連続する岩尾根はスリル満点の爽快感で、行場を巡った。

(参加者) 中村和江 宍戸喜久江 真田明子 永富律子 砂原重美子 多賀久子 原 文字 中尾美智子 美村孝治 ○協田和洋 (計11名)

◎小出良春

高台・紅梅矢塚

5月19日(日) 雨のちくもり

(集合) 榎原駅南口9・10・15 (バス) 和佐羅滝口10・25 又追谷 尾根取付11・25 尾根上12・00 (昼食) 12・30 紅梅矢塚13・13 三度小原辻14・10 二度分岐 和佐羅滝 大又15・40 16・10 (バス) 榎原駅17・20 (解散)

五月晴れとはいかず、登山口からはあいにくの雨となる。山頂に近づくと雨も上がり、新緑の美しさにしばし足を止めたらずんだ。

(参加者) 榎田隆子 西居俊彦 西原裕子 岩鶴健司 岡本美子 水谷陽子 川中 保 前川和佳子 吉藤孝次 竹田豊美 ○中村英雄 ○西上利和 (計12名)

奈良・鳥羽屋山から竜門岳 5月21日(祝) 晴れ

(集合) 近鉄榎原駅9・10・25 (タクシー) 千本橋9・40 10・05 一帯峠登山口10・15 鳥羽屋山 11・15 25 大蔵寺分岐11・55 送電塔12・50 (昼食) 13・25 竜門岳14・45 15・10 三津峠15・20 多武峯16・20 50 (バス) 榎井駅南口17・00 (解散)

鳥羽屋山からは予想通り、吉野の連山を眺めた。竜門岳まではイバラのやぶで、風倒木もあって悪路となったが、参加者は健脚で、まずは満足いく山行であった。今回は中級向きにすべきか? 反省。

(参加者) 森本幹雄 序 すみ子 石田高教 奥田則夫 小崎由里子 加藤浩二 三浦 勝 三浦真左子 池田 茂 永富律子 水本加津栄 竹田勝美 松尾麗子 富田 努 山根弘美 緒方由子 古川裕子 高木 晋 並木壽子 中尾美智子 鶴尾健治 竹田豊美 石井恵美子 倉谷 昭 細野欽也 砂原重美子 山本博子 ○前川和佳子 山本廣治 (計29名)

芦生・三國峠から須後 5月22日(祝) 晴れ

(集合) JR京都駅八条口7・00

(バス) 林道ゲート峠9・30 10 1三國峠10・20 長谷谷作業小屋 跡11・20 1カツラの木大12・00 1 ケヤキ峠12・40 (昼食) 13・40 1 幽仙橋14・30 1落合橋15・00 1 須後15・45 (バス) 京都駅18・30 (解散)

三國峠への登りは厳しかった。カツラの木はさすが芦生の主、圧倒された。ミンサエのハーモニーが覆れた身体を癒してくれた。芦生の原生林は、このまま残してほしいと感じた。

(参加者) 長尾一令 木村 豊 山田景三 吉藤孝次 宮西和子 塚元一彦 栗柄君子 谷 守 丹波昭子 杉田壽子 武村十鶴 松井明忠 友田 毅 友田美保子 中村英雄 山岸勝雄 藤田明子 石原君子 木間 隆 本間壽子 吉本貞子 吉野 房 砂原重美子 安良陽子 松本武文 松下和子 加藤元彦 西村耕一 市野博文 長沢佑美 川上久堅 山本千鶴子 若林文夫 妹尾一正 山盛加奈子 藤井裕子 原見瑠子 ○奥山繁三 (計38名)

丹沢・塔の岳と丹沢山 5月25日(土) 26日(日) 1泊2日

◎妻籠弘子 \*申込みがバスチャーターの人員に達しませんでしたので、中止しました。

5月25日(土) 26日(日) 1泊2日 (25日) 晴れ (集合) JR姫路駅9・10 (バス) 登山口10・40 作業道11・15 1晩晴山12・05 (昼食) 13・00 1砥峰高原上部14・20 1交流センター14・50 (バス) 福知山合休養センター15・20 (泊) (26日) 晴れ 休養センター7・30 (バス) 家原古代公園8・20 1 不動滝合会8・55 P804 10 05 1東山10・55 (昼食) 12・00 1 不動滝13・05 1家原古代公園13・50 (バス) 13の湯入浴・バス JR姫路駅17・20 (解散) (25日) 新しく開いた築河内側より一等三角点の晩晴山に登った。砥峰高原では、山塊き後の新緑がまぶしく輝いてうたった。ほてった体に冷えた西瓜がうまかった。 (26日) 一宮町の登山大会に合流し、東山へ登った。変化のあるコースが好評で山頂の展望台からは360度の眺望がある。 (参加者) 中谷善子 船越みよ子

船越利明 吉藤孝次 田中三恵子 馬籠忠男 大和 紘 岡田重美子 住田源隆 岡田 昇 船本裕巳子 三輪芳子 岩崎淑子 前田喜久子 小山 輝 小田潤子 砂原重美子 島田亮子 岩城豊子 宮本真幸 宮本悦子 呉比裕美 (計23名)

◎須藤 剛 (計23名)

信楽・笹ヶ岳 5月26日(日) 晴れ

(集合) JR日生川駅9・16 (電車) 信楽高原鉄道信楽駅9・40 (タクシー) 登山口10・20 笹ヶ岳11・25 1寺跡11・45 笹ヶ岳12・00 (昼食) 12・40 1南新田13・25 (タクシー) 信楽駅14・00 (解散) 信楽高原の最高峰なのに静かな山だった。登山道からササが生えていて、寺跡や山頂はササに囲まれていた。

(参加者) 中村啓一 宍戸喜久江 三上祐夫 三上孝子 岡本美子子 栗橋聖吉 栗橋寿子 中村英雄 佐野信江 白根清子 辻 行子 伊藤則男 松尾麗子 松尾芳洋 辻村幸裕 大黒 均 森 美香子 近藤美子 岩鶴健司 小野鶴子 朽名生石 松本 博 小崎由利子 牧 和夫 ○中崎日出男

◎福岡 章 ◎小出良春 (計27名)

仙ヶ岳・御所平・ペンケイ 5月26日(日) 晴れ

(集合) 広場8・20 (車) 田村川 林道広場8・40 1主線線10・20 1小社10・45 1仙ヶ岳11・15 1仙ノ石11・25 1鞍部12・00 (昼食) 12・50 1ヨコネ13・05 御所平13・40 1ゲミの木平14・00 1丹波14・30 1ペンケイ15・10 1黒澤山16・30 17・00 (解散) 最高の登山日和。割谷の北尾根に取りつくると巨木の中が腐り、その中に入ると見上げると燦々のようになっている。細尾根のキレットはザイルを張って登り、主稜線にのると大パノラマが展開した。下山路で通行手形をゲットされた人もいて楽しい山行となった。

(参加者) 栗本敏夫 後藤康幸 吉村 昭 小林 稔 奥野太一郎 大石啓美 鈴木 浩 鈴木友子 森本 勝 森本淳子 磯部 純 武村十鶴 榎田勝利 石田真由美 原光一 原 幸子 藤木美穂子 池田繁美 高原芳彦 藤本美恵子 板原泰彦 神野孝允 伊藤喜久男 佐佐木光江 倉谷 昭 武藤由美子

細野欽也 池田隆一 松上美代子 高杉 博 針谷邦夫 山野志保江 山村恭男 原 文子 皮田明美 永戸鉄治 ○山田景三 (計38名)

◎若野 明 (計38名)

湖北・大谷山から赤坂山 5月26日(日) 晴れ

(集合) マキノビックランド8・00 (車) 石庭登山口8・25 1P8 19 10 15 1大谷山11・05 15 1寒風山11・45 (昼食) 12・25 1栗柄峠13・15 1赤坂山13・30 145 1栗柄峠13・55 1マキノスキー場 15・30 (車) 石庭登山口15・45 (解散) 北山白山会が開いた石庭坂から大谷山へ。寒風山のブナ林のなかで昼食。低いササ原からは琵琶湖・日本海が望め、快晴と涼しい風にハイキング気分満喫。解散後「さくらさ温泉」に入浴した。

(参加者) 松見 昭 櫻島康一 緒方由子 田尾 肇 田尾明浩 山本久雄 ◎高島伸浩 (計7名)

美濃・伊吹北尾根 6月1日(日) くもりの晴れ (集合) JR大垣駅8・40 19・

越後 12・00 ハライド 12・10 (昼食) 13・00 南コブ 14・05 嵐越 峠 14・20 ノネコ 14・40 嵐越峠 15・20 水無し 15・45 16・00 (解散) 快晴で風もあって気持ちのよい汗をかきました。お目当てのシロヤシオは終わっていました。残りのベニドウグン・ヤマツツジ・シライトソウがきれいでした。  
 (参加者) 湯浅康夫 湯浅みや子 本間 隆 小松志信 加納由紀子 谷 久雄 井上 光 武藤由美子 磯部 純 菊地桂子 伊藤久男 松本由三 服部 堯 平塚明美 栗本敏夫 鈴木 浩 鈴木友子 佐治光江 鳥居信吾 岩戸喜久江 多賀久子 吉藤孝次 伊藤恵美子 若林文夫 岩田育士 水谷富陽子 池田 茂 山村基男 山本久雄  
 ◎高野芳彦 ◎山田明男 (計27名)

湖南・猪背山  
 6月2日 晴れ  
 (集合) JR石山駅 8・50 55 (タクシ) 脇出 9・30 猪背山 11・02 (昼食) 11・50 第一・第二・第三鉄塔 12・12 52 脇出 13・35 14・10 (ハコ) 石山駅 14・45 (解散)  
 十二支の山なので人が歩いてい

堀田輝子 松尾麗子 宮西和子 村井寿和 ○山本京治 (計17名) ◎鷺見守康 (計17名)  
 サクラグチ・能登ヶ峰  
 (集合) 6月9日(日) 晴れ  
 (集合) かもしか荘広場 8・30 (車) 越川林道広場 8・40 主線 線 9・15 P 8 9 1 10 40 1 サクラグチ 10・55 P 8 8 9 11 20 横谷山 11・50 鞍部 12・00 (昼食) 12・50 P 7 5 8 14 15 1 鹿の楽園 15・00 能登ヶ峰 15・55 林道広場 17・10 (解散)

快晴とさわやかな風に、新緑の尻尾は随所で展望を楽しんだ。ウノハナの咲き乱れるなか、絶景の鹿の楽園に着くと、雄鹿が防護用ネットに角を引っ掛け大暴れしていた。網を切り救出作戦成功。通行手形をゲットされた方もあり思い出に寝る山行となった。  
 (参加者) 栗本敏夫 後藤康幸 小林 稔 大石将英 奥野太一郎 鈴木 浩 鈴木友子 櫻田勝利 池田繁英 服部 堯 水戸鉄治 原 光一 原 幸子 石田真由美 谷 久雄 水谷俊之 落合ひろ子 神野孝允 佐治光江 網本恵美子

と思ったが、蜘蛛の巣を払っての山行となった。道標はないが、踏み跡がしっかりあるので道に迷うことはなかった。  
 (参加者) 小田朝子 松尾麗子 山根弘美 川田洋子 大黒 均 清水昭三 松本 博 吉原清夫 橋本和彦 青木一雄 白根博子 辻 行子 牧 和夫 渡辺美代子 中村英雄 ○福本芳雄 (計17名) ◎小出良春 (計17名)

因国境・氷ノ山  
 6月2日(日) 晴れ  
 (集合) JR西明石駅 7・40 (バス) 親水公園 10・10 地蔵堂 11・05 氷ノ山 越 11・55 12・10 氷ノ山 13・00 (昼食) 13・52 神大ヒュッテ 14・13 30 東屋根 親水公園 15・30 (バス) 但馬温泉 16・20 50 (バス) 車内解散  
 次々と花の名を呼び合う声に呼応するように、鳥の音が鳴き渡る。コシキ岩の古木からは、雉の鳴き声も聞こえてきた。山頂でゆっくり展望を楽しんで、竹の子を探りながら東屋根をくだった。天然記念物のベニドウグンが咲いていた。  
 (参加者) 原 雅子 前田喜久子

武村千鶴 原文 文子 松上美代子 横井 徹 横井恭子 山野志保江 梶原孝彦 吉 守 高杉 博 上田政子 谷岡 仁 木下朝子 山本久雄 ○山田景三 (計35名) ◎岩野 明 (計35名)



ネットに角を引っ付けた雄鹿を救出する岩野氏

但馬生野・古城山  
 6月9日(日) 晴れ  
 (集合) JR姫路駅 10・30 (電車) 生野駅 11・20 分水嶺 11・45 (昼食) びわの丸公園にて 12・35 一の曲輪 古城山(天主) 13・20 45 奥嶽待合 25 生野温泉 15・55 生野駅 16・28 (電車) 姫路駅 17・30 (解散)  
 駅下車、すぐ徒歩で登れる数少

上田久子 大和 絃 宮村孝次郎 小谷和子 秋田楠子 松上美代子 塩原香織 魚田一江 中嶋日出男 室下淳一 中川光昭 光川二美子 森 瑞代 岡田 昇 岡田恵美子 栗栖崇吉 栗栖君子 八木八重子 松村雅子 田中 明 中西美也子 緒方由子 辻村幸裕 中尾美智子 東山澄夫 小林 稔 田所真里子 岩崎健司 馬籠忠男 ○中西信行 ○福岡 茂 ◎古賀慶一 (計37名)

湖北・三國山から赤坂山  
 (平日水曜ハイク53)  
 6月5日(日) 晴れ  
 (集合) JR京都八条口 7・30 (バス) 黒河林道舗装界 9・10 30 黒河登山口 9・58 三國山分岐 10・56 三國山 11・10 赤坂山 12・00 (昼食) 12・55 プナの木 13・32 マキノスキー場 14・12 温泉「さらさ」 14・15 (入浴) 15・50 (バス) 京都駅 17・15 (解散)  
 ベニドウグンが深紅に映え、初夏の花々が競うように咲いていた。新しくできた温泉「さらさ」で気分よく入浴して帰途についた。  
 (参加者) 中井 博 石原君子 松尾麗子 木村 豊 長尾一令

ない山。山頂からの眺めはすばらしく、城下はもろろん、瀬戸内海や段々峰など但馬の山が見える。復路は奥街道のササで苦勞分する。生野温泉では冷茶の接待に一同感謝した。  
 (参加者) 小林悦子 宮村孝次郎 前田景三 船越利明 船越みよ子 栗栖崇吉 栗栖君子 田中三重子 三橋浩子 小山 輝 田所真里子 小田朝子 島田亮子 井上喜美子 君塚博子 中村幹香 山本武臣 山本合子 岩城豊子 岡田恵美子 井上水治 美村孝治 八木四郎 渡辺一雅 龜山大蔵 住田源隆 森 瑞代 兼田幸子 ○岡田 昇 ◎須磨岡 輯 (計30名)

八ヶ峰(京都北山歩き102)  
 6月9日 晴れ  
 (集合) JR京都駅八条口 8・00 (ハコ) 八ヶ峰 12・00 (昼食) 13・00 1 若丹園地尾根 五波峠 14・10 20 田歌 15・20 30 (ハコ) 京都駅 17・40 (解散)  
 五波峠は小型バスでも入れなかった。逆コースを歩いて五波峠から田歌まで林道をくだった。空気が澄んだ日で、八ヶ峰からの大

呉山整三 鈴木敏彦 近藤 恭 眞田久子 武村千鶴 木下朝子 岩本彰子 岩本健一 妹尾一正 角江朝子 本間 隆 市野博文 谷 守 速水 保 岩本いすゞ 川村信子 田中善雄 千藤千枝子 東山澄夫 ○青木一雄 (計26名) ◎湯浅次男 (計26名)

越美・夜叉ヶ池から三周ヶ岳  
 (自然観察山行91)  
 6月8日(日) 晴れ  
 (集合) 大垣駅 8・40 (バス) 池ノ又林道終点登山口 10・30 40 1 夜叉ヶ池 12・10 (昼食) 12・45 三周ヶ岳 13・50 14・00 夜叉ヶ池 15・00 登山口 16・15 40 (バス) 大垣駅 18・40 (解散)  
 青空の下、登山道から仰ぎ見るアルペンの様な夜叉ヶ池とブナ林とが織りなす景観はいつ見ても見事だ。ニッコウキスゲの花期には早かったが、サンカヨウが満開の群落をつくっていた。夜叉ヶ池からさらに夜叉ヶ池の頭やジャンクシオンヒークを越え、三周ヶ岳に登った。  
 (参加者) 石田高教 荻野美紀重 石原君子 金森節子 川島勝美 吉藤孝次 中井幸子 砂原恵美子 中川光昭 細野欽也 船本裕子

展望を楽しんだ。終始樹林の道を歩き、汗もかかないほどに涼しかった。  
 (参加者) 長尾一令 庁 すみ子 森本幹雄 木村 豊 村田はる江 湯浅次男 中村和江 前田悦子 遠藤 率 加藤浩一 徳田朝子 入江武史 木下照子 沖 伸 松井明忠 市野博文 佐野信江 眞田則夫 岡田洋子 辻村幸裕 眞田久子 岡田豊治 高橋博治 眞田久子 川田豊治 高橋博治 青木一雄 中村 保 東山澄夫 多賀久子 磯野重治 山崎多恵子 福澤 章 大橋文造 長次佑美 川上久登 妹尾一正 菅生幸子 松村雅子 山岸勝雄 白根博子 辻 行子 宮本悦子 大学由美子 前田一代 ○呉比裕美 (計44名) ◎村田智俊 (計44名)

北山・金屋羅山から願軍嶺山  
 6月9日(日) 晴れ  
 (集合) 京都駅 9・00 (バス) 大原 10・15 寂光院 10・30 聚雲山 11・23 金屋羅山 12・06 (昼食) 12・55 江文峠 13・25 30 1 奥谷峠 14・37 願軍嶺山 14・47 57 1 寂光院 16・00 (解散)  
 平家物語の大原の里から建礼門院に仕えていた阿波内侍の墓を見

て、翠嵐山への急登が始まった。翠嵐山までの小ピークのアップダウンも気持ちのよい風が吹いて自然林のなかを快調に歩いた。

(参加者) 岩田育士 前田喜久子 若林文夫 舟岡 武 小原きぬ子 中村英雄 小崎香織 小崎由利子 小野典子 蓮井洋子 渡辺美代子 中尾美智子 ○大和 雄 (計14名)  
◎小出良春 (計14名)

奈良・香醉峰から鳥見山  
6月16日(日) 晴れ

(集合) 近鉄榛原駅北口10・10(バス) レストラン香10・25→35  
香醉山11・20→鳥見山13・20  
(集合) 12・45→鳥見山13・20  
鳥見山公園展望台13・45→14・00  
榛原駅15・00(解散)

以前に香醉山に登ったときは倒木がひどく悪戦苦闘したが、今は整備されて歩きやすく、鳥見山山頂も一部伐採され展望がよくなくなった。

(参加者) 小田桐子 稲本芳雄 柳川常雄 山根弘美 竹田勝英 市野博文 川上久堅 妹尾一正 中井秀一 緒方明子 前川和佳子 棚田隆子 角江朝子 岡本美千子 渡辺美代子 岩本いすゞ

登山口駐車場11・00→夜叉ヶ池11・40→夜叉ヶ池13・00(集合) 13・30→登山口駐車場14・50(バス) 30

ふれあい会館15・30(入浴) 16・10(バス) 桃山台駅19・00(解散) 山道は薄々しい自然林におおわれ、小雨を気にせずに歩けた。夜叉ヶ池は水嵩を増しブナ林が風に騒いでいた。ニッコウキスゲが群生した稜線上は風が強く、夜叉ヶ池山への登頂をあきらめて下山した。

(参加者) 木村 豊 千華千枝子 湯浅次男 眞田久子 中澤ちづ子 森本幹雄 中山峰雄 金藤千恵子 柏木孝子 村上嘉子 中尾美智子 岩城豊子 本間明恵 田所真里子 栗柄君子 鈴木敏彦 青木一雄 秋葉正人 ○中村友昭 (計20名)  
◎木村太郎

南八ヶ岳縦走  
硫黄岳・横岳・赤岳・権現岳・権立岳 (自然観察山行記)  
6月21日(日)→23日(日)  
前夜宛1泊2日  
(21日) 晴れ (集合) 岐阜駅23・00(バス)  
(22日) 晴れのちくもり (バス) 穂高湯4・45→15・00→林道ゲ

朽名石右 ○中村英雄  
◎西上利和 (計19名)

若生原生林を訪ねる自然観察会  
6月16日(日) くもり時々晴れ

(集合) JR関ヶ原駅7・50→JR堅田駅9・35(車) 生形集落奥三園峠登山口15・50→11・00→三園峠11・30→泉境尾根P8000(計12・10(集合) 12・45→野田畑峠13・15(付近散策) 14・05→野田畑谷合流点14・30→中山分岐14・50→地蔵峠15・20→三園峠登山口15・50→16・00(解散)  
山の中での花は少なかったが、珍しいショウキランに野田畑峠で出会え、巨木の幹に咲くナルコユリには驚きました。

(参加者) 三輪英夫 伊藤恵美子 丹下由子 成田 稔 今井みよ子 西村文男 山村恭男 村田はる江 後藤康幸 岩下祐夫 加納由紀子 小松志信 前田幸子 光川二美子 栗柄浩吉 栗柄君子 山野志保江 多賀久子 武村千鶴 幸田正栄 木村 豊 山本久雄 ○高原芳彦 ◎山田明男 (計24名)

三河・平山明神山から大鈴山  
6月16日(日) 雨のち晴れ

ト5・20(朝食) 5・45→しらびそ小屋7・10→20→木沢温泉8・35→50→夏沢峠9・50→10・00→硫黄岳10・45(集合) 11・30→横岳12・25→30→赤岳大洞窟13・50→14・00→赤岳頂上小屋14・35(23日) くもり 赤岳頂上小屋6・00→赤岳→キレット小屋7・20→権現岳(龍現小屋) 8・40→9・30→青年小屋10・15→30→編笠岳10・50→11・00→雲海12・10→20→観音堂12・50→13・05(バス) スパティオ小瀬駅13・10(入浴・食事) 14・40(バス) 岐阜駅17・55(解散)  
南八ヶ岳縦走、サブリーダー3人体制で雨の岩場に備えました。(せせらぎ参照)

(参加者) 石田賢一 大角良子 岡田直規 緒方明子 加納由紀子 亀本秀子 川島勝美 川島徹也 栗柄君子 高津智美 小松志信 長尾一令 夏山春子 林 えい子 村井寿和 船越利明 船越みよ子 宮本真幸 宮本悦子 森本淳子 横井恭子 吉本泰之 船本裕日子 若松朝子 ○岩田育士 ◎鷺見守康 (計28名)

(集合) JR名古屋駅7・00→05(電車) 本長篠駅9・15(タクシー) 和布10・00→池袋寺護国社10・45→11・00→大鈴山11・06→15→大鈴山11・47(集合) 12・15→平山明神山13・27→50→平山明神山登山口(タクシー) 本長篠駅15・50→16・01(電車) 名古屋駅17・53(解散)  
鹿島山からは快適な自然林の道となる。小ピークを何度も繰り返して、難関の岩尾根もスナリと通過できたのはただ驚くばかり。平山明神山に着いたときは雨も上がり、三河の山々が見えて大満足の山が終了した。

(参加者) 池田繁美 松上美代子 永戸鉄治 水谷陽子 萩野美紀恵 森 晴代 辻 行子 宮戸喜久恵 白根清子 石田真由美 ○吉村 昭 ◎小出良春(計19名)

荒川峠から鳥谷山・権立山  
6月16日(日) 晴れ  
(集合) JR志賀駅9・15→30→荒川峠登山口10・25→水場10・55→荒川峠11・58→鳥谷山12・25→権立山12・45(集合) 13・15→奥ノ深谷道登山道出合13・40→牛コバ14・10→坊村14・50(解散)

鈴鹿・羽黒山から筆捨山  
6月23日(日) 晴れ  
(集合) JR関ヶ原9・15→20→登山口9・55→羽黒山10・47→岩くぐり11・00→筆捨山11・50(集合) 12・30→花の木13・15→観音山15・03(解散)  
低山と思えないほどにアップダウンがあり、変化に富んだ楽しいコースだった。筆捨山に早く到着したので、オプションとして「花の木」に行ってから関ヶ原に戻った。

(参加者) 西尾俊弥 森 美香子 栗柄浩吉 吉村 昭 中村恵美子 中村英雄 永富律子 宮戸喜久江 白根清子 辻 行子 前川和佳子 中村啓子 廣 邦 中尾美智子 井藤正昭 前川久枝 岡本美千子 若林文夫 伊藤明男 萩野美紀恵 ○福岡 章 ○美村孝治 ◎小出良春 (計23名)

八尾山・高取山・向山・赤石  
(鈴鹿を歩く146)  
6月23日(日) くもり  
(集合) 上宇留川橋北ローソン広場8・15(車) やまびこ湖水・八尾山林道広場8・50→登山道取付9・00→林道9・50→八尾山10・

南比良峠を経て鳥谷山までの登りはきつかったが、権立山からの下りは快適だった。バスの時間が気になって、つい早足になってしまったが、今度はもっとゆっくり歩いてみたい。

(参加者) 長尾一令 山縣勝美 森本幹雄 前田悦子 西尾俊弥 三上伸夫 三上壽子 小林 稔 松井明忠 武部 剛 武部美美子 鈴木敏彦 松尾麗子 若林文夫 堀尻香織 眞田久子 金谷 昭 岩崎健司 高橋祥治 堅田美奈子 服部 亮 磯部 純 宮坂敏彦 吉塚孝次 川中 保 宮野東彦 加藤元彦 西村耕一 中川光郎 加藤佳彦 黒川 攻 中西美也子 蓮井洋子 本田博子 古川裕子 細野欽也 小谷和子 中嶋日出男 角田一江 増田國宏 砂原恵美子 福岡 章 山縣 隆 入江武史 牧 和夫 中川啓子 大宮鏡枝子 南 穂子 明石啓子 東山澄夫 ○宮下淳一 ○青木一雄 ○松見 昭 ◎泰 康夫(計19名)

越美・夜叉ヶ池  
(ファミリーハイック12)  
6月20日(日) 小雨時々くもり  
(集合) 新大阪駅7・00(バス)

20→高取山11・10→向山11・25→P555計12・10(集合) 13・00→P663計13・30→赤石14・05→三又15・05→やまびこ湖水15・50(解散)  
八尾山林道にはカキランが咲き、稜線にのるとさわやかな風。ササユリの花を愛でながら随所で開ける大パノラマを楽しまながらの山路。宇留川林道にくだるとドクダミとウツボグサの花が続き、そのなかに白のウツボグサも咲いていてびっくり。テイカカヅラの花なども見えて楽しい山行となった。

(参加者) 栗本敏夫 後藤康幸 吉塚孝次 榎田勝利 奥野太一郎 池田繁美 磯部 純 落合ひろ子 谷 守 神野孝允 友田美保子 友田 毅 武村千鶴 石田眞由美 木下朝子 永戸鉄治 網木美恵子 服部 亮 谷 久雄 水谷俊之 加藤国計 湯浅康夫 ○山田嘉三 ◎岩野 明 (計24名)

地蔵山から電ヶ岳  
(北山ちよっと歩き34)  
6月26日(日) くもり  
(集合) JR京都駅山陰線のりば7・40→47(電車) 八木駅8・28→35(バス) 越知9・15→30→越



畑谷一帯 篠塚10・10 地蔵山10・45  
55 一電ヶ原12・20 倉谷13・30  
一電の小塚13・55 14・20 一電の滝15・00 40 清滝16・05 (解散)

越谷から地蔵山への直登、竜ヶ岳登り下りの厳しい山行となった。お目当てのササユリに出会い、クリソウは残念ながら花期が終わっていた。

- (参加者) 長尾一令 石倉真佐子 栗橋君子 宮西和子 市野博文 若林文夫 谷守 中村 保 菅生幸子 諏訪純子 加藤浩一 渡辺いく 榎 照司 榎 美栄子 川村信子 片山克博 片山喜代子 本間 隆 本間孝子 林 千賀子 岩本彰子 岩本健二 岩橋美智子 高崎博子 白粉純子 妹尾一正 辻 一行 長沢佐美 細野欽也 角田一江 速水保 武村千鶴 田中善雄 ○東山澄夫

○中村英雄 ○山岸勝雄  
○青木一雄 ○呉山繁三 (計33名)

湖東・砥山から猪ノ鼻ヶ岳  
6月30日(日) ◎小出良春  
\*雨天のため中止しました。

京都北山・笹子山

(近畿百名山に登る第39回)  
6月30日(日) 小雨  
(集合) 京都地下鉄北大路駅8・30 (バス) 平の北旧道駐車地9・20 1足尾谷口9・30 40 1ツボタリ谷出合10・15 1大トチノキ11・40 45 1皆山12・15 (昼食) 13・00 1寺谷 1林道14・20 1平14・50 15・15 (バス) 北大路駅16・05 (解散)

終日小雨のなかを歩いたが、樹林の下であまり気にならなかった。しかし、皆山頂はガスがかかって展望はなし。ヤマヒルも出てきて、楽しみの少ない山行になった。平バス停でめずらしい特産品を安く買っておみやげにした。

- (参加者) 馬籠忠男 小林 稔 岩田育士 近藤 恭 前田喜久子 遠藤 幸 岩根健司 東山澄夫 狩野東彦 谷 守 吉藤孝次 山岸勝雄 本落孟夫 中西英也 宮本真幸 宮本悦子 西村耕一 磯部 純 小谷和子 秋田楠師 入江武史 佐野信江 中嶋日出男 大和 紘 竹田勝英 磯野重治 青木一雄 多賀久子 角田一江 呉比裕美 田中善雄 宮村孝次郎 小林 桂 中谷幸子 三角幸子 朝倉創己 武部 剛 武部美奈子

新ハイキングクラブ関西  
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、情報豊かで健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に50年間も好評のうちに活動してきました。関西は平成3年発足で11年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。

会員には毎月「新ハイキング関西の山」をお送りします。  
四季の自然に触れながら歩き、



神野孝允 松本康蔵 藤井孝子  
蓮井洋子 市野博文 ○安倉止勝  
◎村田智俊 (計45名)

**例会参加の注意点**  
山行例会参加の場合は、新ハイキングの規定があります。(85ページ山行計画欄)、これを十分に理解のうえ申し込んでください。規定に反しますと、係や参加の他の人にも迷惑をかけることになります。気分よく山行するため、みんなでルールを守りましょう。特に次の2点をよろしく。  
★計画を早めに決め、必ず7日前には申込先に到着するよう、往復ハガキに必要事項をすべて記入のうえ申し込んでください。直前や飛び込みはお断りします。また電話やファクシミリでは、名簿作成や山行案内の返信に困ります。  
★雨天に歩くのが嫌な方は始めから小雨決行・雨天決行の計画には申し込まないでください。また、当日の決行中止は、返信案内の降水確率を見て、必ず前夜の気象情報で確認し、判断ください。

若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

- 入会金 500円(バッジ代)  
年会費 3000円(送料共)  
入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけます。毎号随時にお手元に届きますので便利です。  
切手500円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集  
リーダーは2ヶ月に1回程度山行例会を計画・実施していただきます。  
無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」を送ります。

○新入会員(定期購読者)紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会員番号4714番から4728番まで

- 【滋賀】 鳥居久秋 中島 渡 樋口初子 安田辰蔵  
【京都】 中江清剛 郷 万里子  
【奈良】 大家洗子 中澤成嘉  
【兵庫】 栄 敏光 竹田博美  
古賀裕子 長谷川義雄 (15名)

訂正とお詫び

65号(盛夏) 78ページ二段3行目「阿曾谷」は「阿蘇谷」が正しい。なおルビ読み方も「あんそだに」が正しい。同ページ下段の写真の解説「三國岳から見る三國岳最高峰」は「三國岳」が正しい。見ると三國岳最高峰が正しい。  
65号(盛夏) 83ページ二段2行目と二段13行目「狗留尊岳」は「狗留尊岳」が正しい。  
65号(盛夏) 84ページ二段1行目「紅葉のミツバツツジ」は「紅葉のミツバツツジ」が正しい。  
65号(盛夏) 91ページ上段終わりから6行目「因幡国境」は「鳥取東部」が正しい。このコースは

全て鳥取県内の智頭町と若桜町の町界尾根を歩きます。同ページ中段15行目「神ノ山林木道伝置源保存林」は「神ノ山林木道伝置源保存林」が正しい。  
65号(盛夏) 95ページ中段終わりから6行目「保」◎小出良春は「保」◎岩野 明 ○山田景三」が正しい。  
65号(盛夏) 96ページ二段1行目「期」日 8月27日(日)とあるのは間違っていました。8月の北山と歩き36は日付を優先して、「8月27日(日)」に実施します。ご承知ください。(編集室)

65号(盛夏) 12と13ページ、平氏の「藤原岳に登る」の藤原岳の山頂は、64号のこの欄で小生が指摘した通り、標高は1140mで約50mで約1145mですが、藤原岳の山頂は最高峰の天狗岩1171mと考えますので、歩行標高差は1031mとなります。歩行標高差は1000mを超える山となります。(山田 明)